刺しゅう機付コンピュータミシン

取扱説明書

EMS17／EMS16シリーズ

brother

必ずお読みください

1 ぬう前の準備

ぬう前に必要な準備を説明します。

2 ぬい方の基本

基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

必要に応じてお読みください

3 いろいろなぬい方

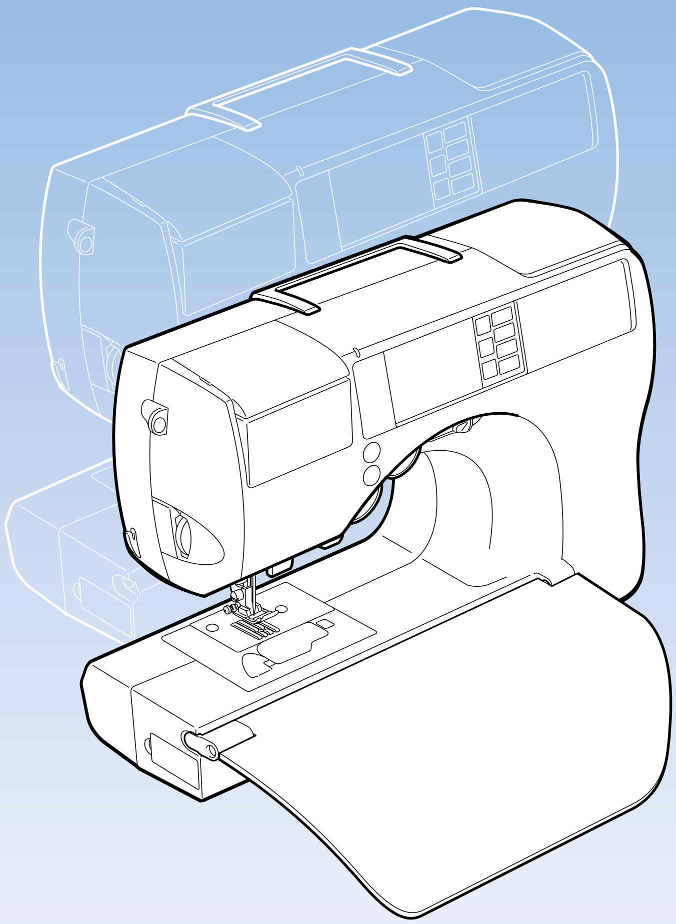
いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

4 刺しゅう

刺しゅうの手順を説明します。

5 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。



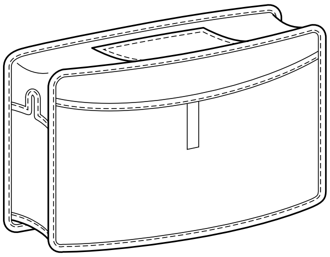
- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

付属品を確認してください

箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

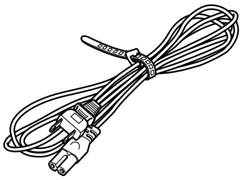
■ **ソフトケース**

ミシンを使用しないときは、ケースをかぶせて収納してください。



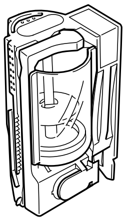
■ **電源コード**

電源ジャックに差し込みます。

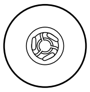


■ **糸カセット**

糸こまをセットします。2個付属しており、そのうちの1個は購入時に本体にセットされています。

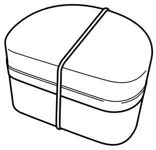


● 糸カセットの糸たて棒には、糸こま押え［オレンジ色］が1つずつセットされています。



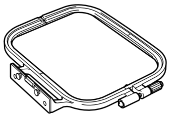
■ **付属品ケース**

ドライバーや押えなどの小物を収納するケースです。



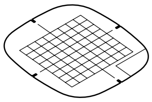
■ **刺しゅう枠［M］**

刺しゅうをするときに布地を張ります。10 × 10cmまでの刺しゅうができます。



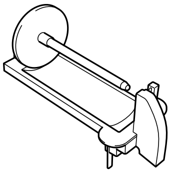
■ **刺しゅうシート**

刺しゅう枠に布地を張って模様の位置を合わせるときに使用します。（●刺しゅう枠［M］とセット）



■ **補助糸たて棒**

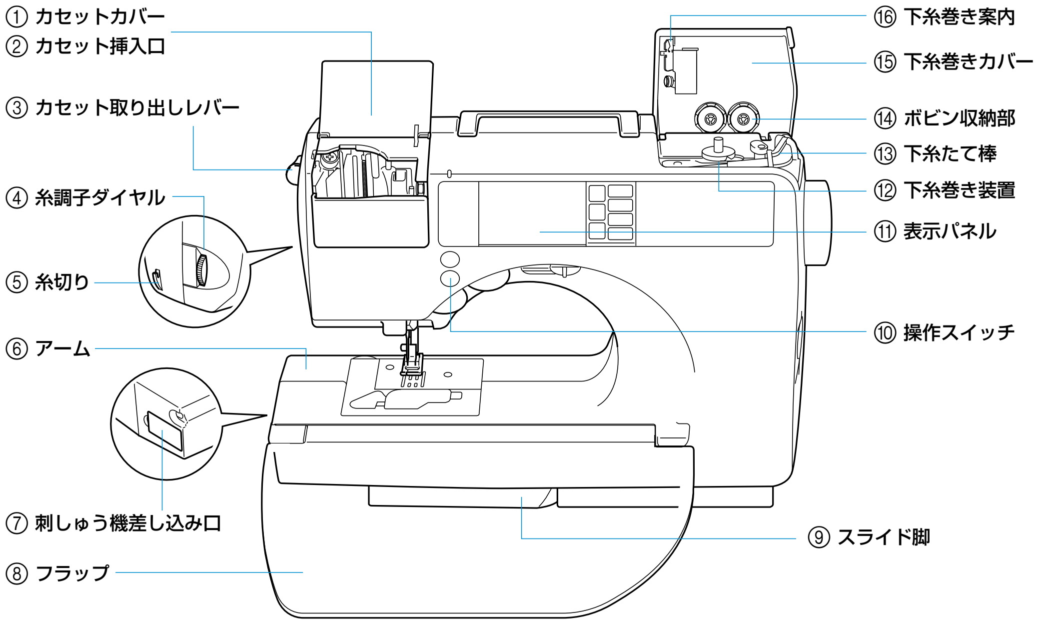
糸カセットにセットできない糸こまを使用するときに使用します。



各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



① カセットカバー／② カセット挿入口
糸カセットをセットします。

③ カセット取り出しレバー
セットしてある糸カセットを取り出すときに押します。

④ 糸調子ダイヤル
上糸調子を調節します。

⑤ 糸切り
ぬい終わったときに、ここに引っかけて糸を切ります。

⑥ アーム

⑦ 刺しゅう機差し込み口
刺しゅう機のコネクタを差し込みます。

⑧ フラップ
テーブルの役目をします。ミシンを使用しないときは、上に上げて収納します。刺しゅうをしたりそで口などの筒ものをぬうときは取り外します。

⑨ スライド脚
フリーアームにしたときに引き出します。

⑩ 操作スイッチ
ミシンをスタートさせたり、自動で糸を切るときに使用します。（→表紙 D）

⑪ 表示パネル
ぬい方を選択したり、ミシンを設定します。（→表紙 E）

⑫ 下糸巻き装置
下糸をボビンに巻くときに使用します。

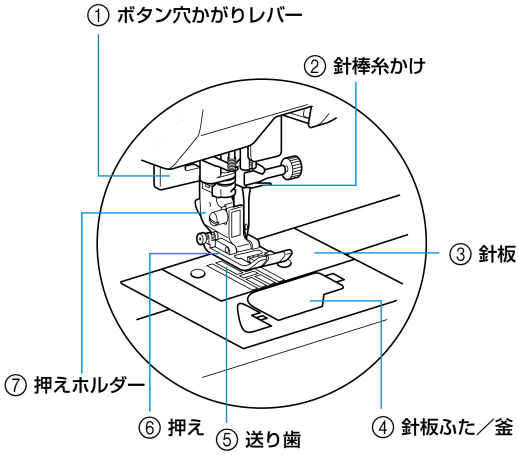
⑬ 下糸たて棒
下糸を巻くときに、糸こまをセットします。

⑭ ボビン収納部
純正ボビンを収納できます。

⑮ 下糸巻きカバー
下糸を巻くときにあけます。

⑯ 下糸巻き案内
下糸を巻くときに糸をかけます。

針・押え部分



① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

② 針棒糸かけ
上糸をかけます。

③ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

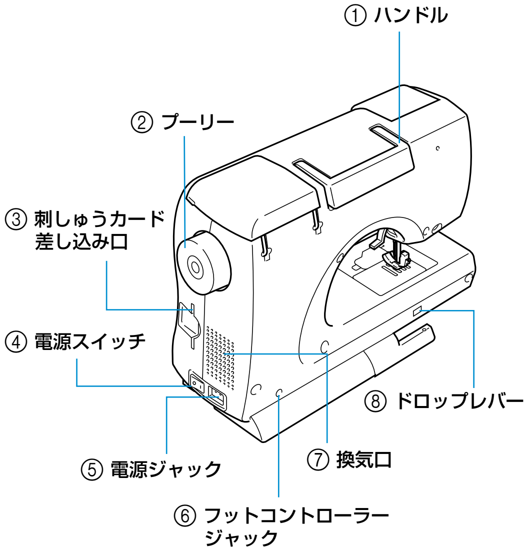
④ 針板ふた／釜
ここを開けて、釜にボビンをセットします。

⑤ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。

⑥ 押え
布地を押さえます。8種類の押えが付属しているので、ぬい方に合った押えをセットします。

⑦ 押えホルダー
押えを取り付けます。

右側面・背面



① ハンドル
ミシンを移動するときは、ここを持って持ち上げます。

② プーリー
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

③ 刺しゅうカード差し込み口
別売の刺しゅうカードを差し込みます。

④ 電源スイッチ
電源を入れるスイッチです。

⑤ 電源ジャック
電源コードを差し込みます。

⑥ フットコントローラージャック
フットコントローラーのプラグを差し込みます。

⑦ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。

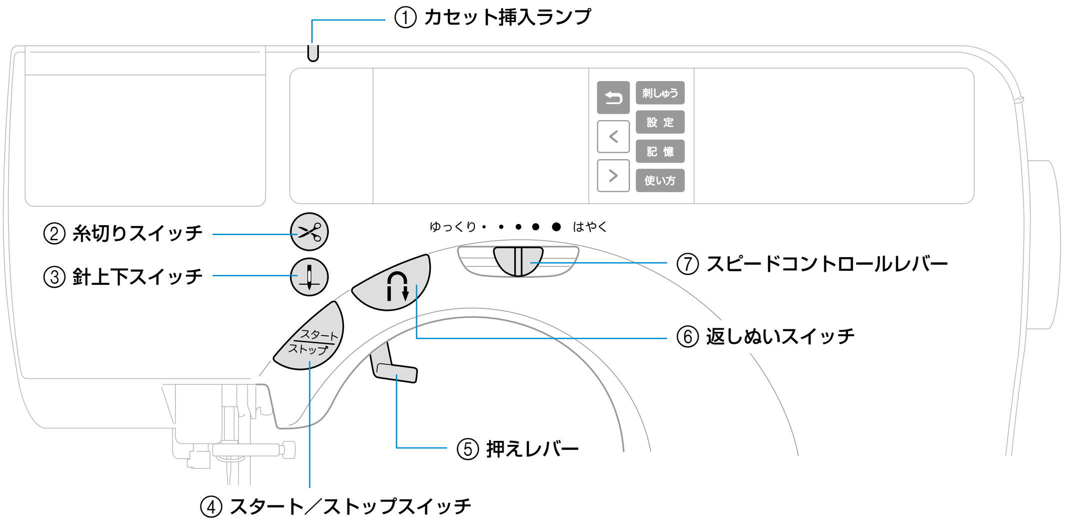
⑧ ドロップレバー
送り歯を下げるときに使用します。

お知らせ

- 表紙Bまたは表紙D･Eを開いた状態でページをめくっていくと、操作しながら各部の名前などが確認できます。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作が手もとでできます。



①カセット挿入ランプ

ミシンの状態によって、ランプが点灯･消灯します。

緑：　糸カセットがセットできる状態のとき
赤：　糸カセットがセットできない状態のとき
消灯：　電源が切れているとき、または糸カセットがセットされているとき

②糸切りスイッチ

ぬい終わったときにこのスイッチを押すと、上糸と下糸が切れます。詳細は「糸を切る」（→P.51）で説明します。

③針上下スイッチ

針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、１針ぬえます。

④スタート／ストップスイッチ

ミシンをスタートまたは停止させます。ぬい始めとスイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」（→P.47）で説明します。

⑤押えレバー

押えを上げ下げします。

⑥返しぬいスイッチ

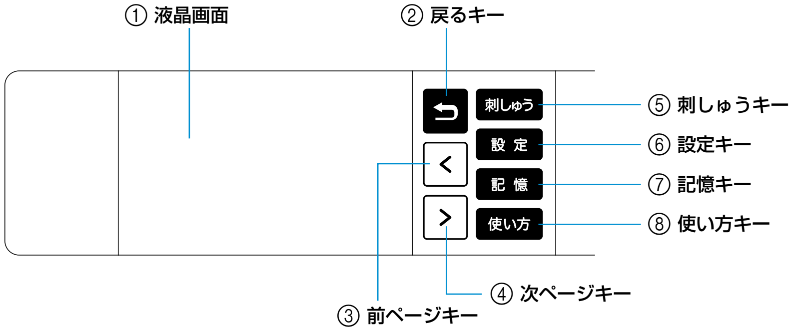
スイッチを押している間、返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合は逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で３～５針ぬってから止まります。詳細は「返しぬい／止めぬいをする」（→P.49）で説明します。

⑦スピードコントロールレバー

ミシンの進む速度を調節します。

表示パネル

前面の表示パネルには、液晶画面と操作キーが付いています。



① 液晶画面（タッチパネル式）

選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。液晶画面に表示されるキーを指で押して操作します。詳細は「液晶画面の操作」(→P.16) で説明します。

② 戻るキー

液晶画面の表示を 1 つ前に戻すときに押します。

③ 前ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、前の画面を表示します。

④ 次ページキー

液晶画面に表示されていない項目があるときに、次の画面を表示します。

⑤ 刺しゅうキー 刺しゅう

刺しゅうのときに押すと、刺しゅうの初期画面に戻ります。

⑥ 設定キー 設 定

針停止位置や、ブザー音の設定などをするときに押します。

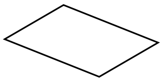
⑦ 記憶キー 記 憶

文字刺しゅうをミシンに記憶させるときに押します。

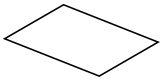
⑧ 使い方キー 使い方

ミシンの使い方を確認するときに押します。上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換についての簡単な説明が表示されます。

■ **布地ブロード**

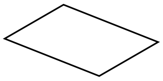


■ **サンフェロン**



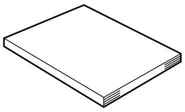
■ **接着芯**

刺しゅうするときに布地に貼ります。



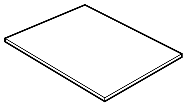
■ **取扱説明書**

本書です。大切に保管してください。



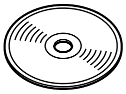
■ **操作早見表**

下糸・上糸のセットと刺しゅうの手順、模様のサンプルが確認できます。



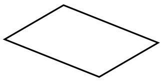
■ **取扱説明 DVD**

ミシンの基本的な使い方をDVDで紹介しています。



■ **保証書**

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。



付属品ケース内付属品

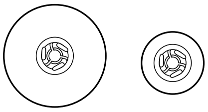
付属品ケースには、以下のものが収納されています。

■ **ボビン**

下糸を巻いて使用します。本機純正のものが4個付属しています。そのうちの 1 個は釜にセットされています。

■ **糸こま押え［白大］［白小］**

下糸たて棒や補助糸たて棒に糸こまをセットするときに使用します。糸こまの大きさによって［白大］［白小］を使い分けます。



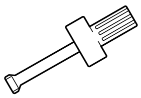
■ **糸こま押え［特殊］**

軸が直径 12mm、長さ 75mm の糸こまを下糸たて棒にセットするときに使用します。

● 補助糸たて棒には使用できません。

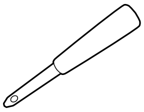
■ **ドライバー**

ミシン針を交換するときなどに使用します。



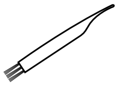
■ **はとめ穴パンチ**

はとめ穴をあけるときに使用します。



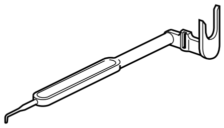
■ **ミシンブラシ**

釜などの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。



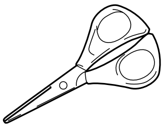
■ **針交換ツール**

針を交換するときに使用すると便利です。先端は、針穴に通った糸の輪を引き出すときに使用することもできます。



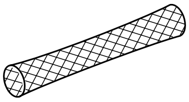
■ はさみ

糸などを切ります。



■ 糸こまネット

張りが強い糸をセットするときに使用します。

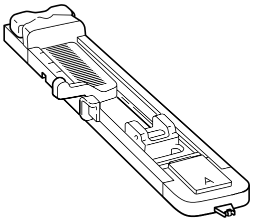


■ 押え（8 種）

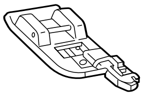
ぬい方に合った押えが用意されています。押えにはA･G･I･J･M･N･R･Qの記号が記されています。

詳細は「押えを交換する」（→ P.39）で説明します。

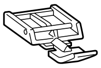
□ **ボタン穴かがり押え <A>**



□ **たち目かがり押え <G>**

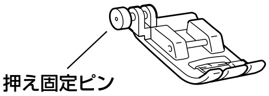


□ **片押え <I>**



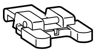
□ **ジグザグ押え <J>**

押え固定ピンが付いています。

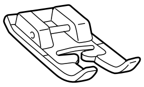


- 購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。

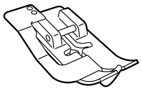
□ **ボタン付け押え <M>**



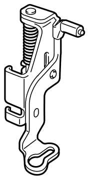
□ **模様ぬい押え <N>**



□ **まつりぬい押え <R>**

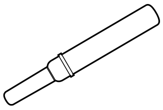


□ **刺しゅう押え <Q>**



■ リッパー

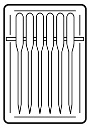
ぬい目をほどいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



■ ミシン針（HA × 1）

4種類（計6本）の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。

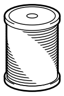
詳細は「針の種類と使い分け」（→ P.35）で説明します。



黄	#11（2本）
赤	#14（2本）
緑	#16（1本）
ニット用金	#11（1本）

■ ぬい糸

実用ぬい用のシャッペスパン #60 白です。



- 刺しゅうには使用できません。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」（→ P.8）をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

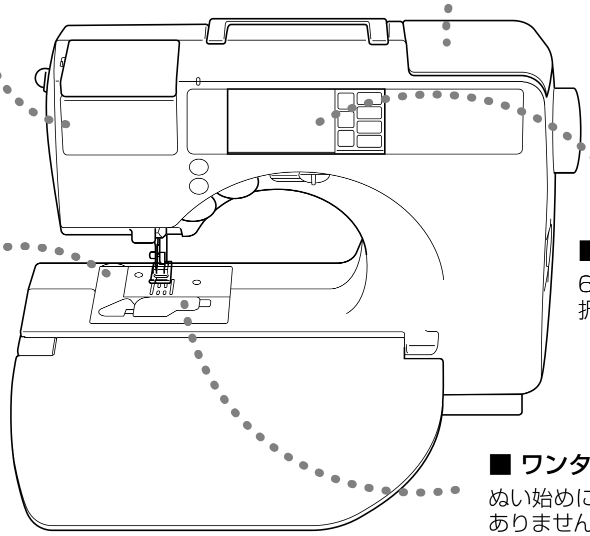
製品の特長

■ **糸カセット**

糸こまを糸カセットにセットするだけなので、糸かけが簡単です。また糸カセットを押して入れるだけで、針に糸が通ります。（→P.27）

■ **下糸巻きが簡単です**

下糸巻きが簡単にできるようになりました。（→P.20）



■ **67種類の実用模様**

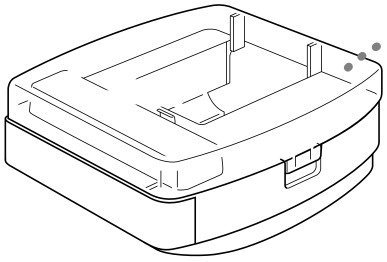
67種類の実用模様が選択できます。（→P.61）

■ **自動糸切り**

ぬい終わりは自動で糸を切ることができます。（→P.56）

■ **ワンタッチで下糸準備が完了**

ぬい始めに下糸を引き上げる必要がありません。



■ **刺しゅう**

ワンポイントや枠飾りなどの刺しゅうができます。（→P.105）

もくじ

付属品を確認してください ..... 表紙 A

各部の名前とはたらき ..... 表紙 B

前面 ..... 表紙 B

針・押え部分 ..... 表紙 C

右側面・背面 ..... 表紙 C

操作スイッチ ..... 表紙 D

表示パネル ..... 表紙 E

付属品ケース内付属品 1

はじめに 3

製品の特長 3

安全にお使いいただくために 8

1 ぬう前の準備 13

電源を入れましょう 14

電源に関する注意 14

電源を入れる 15

電源を切る 15

液晶画面の操作 16

液晶画面の見方 16

ミシンの設定を変更するとき 17

ミシンの使い方を確認するとき 18

下糸をセットしましょう 20

ボビンに関する注意 20

下糸を巻く 20

下糸をセットする 24

上糸をセットしましょう 26

糸こまについて 26

糸こまを糸カセットにセットする 27

針に糸を通す 30

下糸を引き出してからぬうとき 33

補助糸たて棒を使うとき 34

針を交換するには 35

針に関する注意 35

針の種類と使い分け 35

正しい針の見分け方 36

針を交換する 36

押えを交換するには 39

押えに関する注意 39

押えを交換する 39

押えホルダーを外す 41

筒ものをぬうとき 42
フリーアームにする 42

2 ぬい方の基本 43

ぬってみましょう 44
ミシンかけの手順 44
模様を選ぶ 45
布地をセットする 46
ミシンをスタートさせる 47
返しぬい／止めぬいをする 49
糸を切る 51
糸調子を調節する 52
糸調子とは 52
上糸の調子を変更する 52
模様の幅と長さを調節する 53
模様の幅を調節する 53
ぬい目の長さを調節する 54
便利な機能 55
自動で返しぬい／止めぬいをする 55
自動で糸を切る 56
模様を反転する 57
上手にぬうコツ 58
試しぬいをする 58
ぬう方向を変える 58
カーブをぬう 58
厚い布地をぬう 59
薄い布地をぬう 59
伸びる布地をぬう 59
ぬいしろの幅をそろえる 60

3 いろいろなぬい方 61

ぬいしろを始末する 62
<G> 押えを使ったたち目かがり 62
<J> 押えを使ったたち目かがり 63
別売のサイドカッター押えを使ったたち目かがり 64
地ぬいをする 66
しつけぬい 66
地ぬい 66
すそ上げをする 68
ボタン穴かがりをする 70
ボタンホールを作る 71
ボタンを付ける 75

ファスナーを付ける 77
つき合わせ 77
片返し 79
伸びる布地やゴムテープをぬう 82
伸縮ぬい 82
ゴムテープ付け 83
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう 84
アップリケ 84
パッチワーク（クレイジーキルト） 86
ピーシング 86
キルティング 87
フリーモーションキルト 89
サテンぬい 90
丈夫にしたいところをぬう 92
三重ぬい 92
かんどめ 92
つくろいぬい（ダーニング） 94
はとめ穴を作る 96
飾りぬいをする 97
ファゴティング 98
スカラップ 99
スモッキング 99
シェルタック 100
つき合わせ 101
ヘアルーム 102
4 刺しゅう 105
きれいに刺しゅうをするには 106
用意するもの 106
刺しゅうの手順 108
刺しゅう押えを取り付ける 109
刺しゅう押えの取り付け 109
刺しゅう押えの取り外し 111
刺しゅう機を取り付ける 112
刺しゅう機に関する注意 112
刺しゅう機の取り付け 112
刺しゅう機の取り外し 114
布地を用意する 116
布地に接着芯を貼る 116
布地を刺しゅう枠に張る 117
刺しゅう枠を取り付ける 120
刺しゅう枠の取り付け方 120
刺しゅう枠の取り外し方 121

刺しゅう模様を選びましょう 122

著作権について 122
刺しゅう模様の種類 122
液晶画面の操作 123
文字を選ぶ 124
絵柄模様を選ぶ 126
枠模様を選ぶ 127
刺しゅうカードを使うとき 128

刺しゅうをしてみましょう 130

絵柄模様を刺しゅうする 130
アップリケを刺しゅうする 132

こんなとき 134

レイアウトを調節する 134
文字を記憶する 135
糸調子を調節する 136
ぬい直したいとき 137
途中で糸がなくなったとき 137
刺しゅうを中断するとき 138

5 付録 141

お手入れ 142

本体表面の掃除 142
釜の掃除 142

困ったとき 144

液晶画面のメッセージ表示 148
液晶画面に何も表示されないとき 151
電子音 151
電子音を消したいとき 152
アフターサービス 153

仕様 154

本体仕様 154

さくいん 155

別売オプション 160

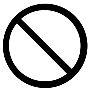
刺しゅう糸 160
接着芯 160
その他の刺しゅう用品 160
押え .... 表紙F
その他 .... 表紙F

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

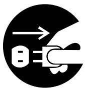
取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。


特定しない禁止事項

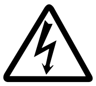
分解してはいけません

水に濡らしてはいけません

特定しない義務行為


電源プラグを抜いてください

特定しない危険通告


感電の危険があります

火災の危険があります

やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告

● 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

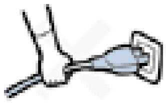
- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

注意

● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。

● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

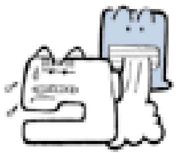


● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

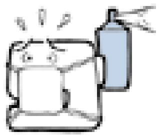
注意

- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

- 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は０～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。

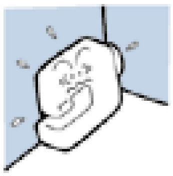


- スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。

- ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



- ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン１１９番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。

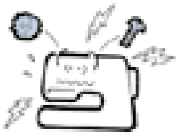
注意

- ミシン本体の重さは約5.3kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。

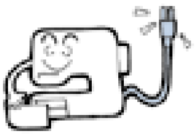
- ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。

- ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。

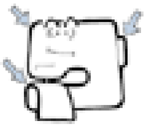
- お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。



- 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



- 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。

- 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

- 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

注意

● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

● 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。

● お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。

● 刺しゅう機を本体に取り付けたまま、持ち運ばないでください。刺しゅう機が落下するおそれがあり、ケガの原因となります。

お願い

● このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
● 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
● 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
● 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
● 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

1 ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう 14

液晶画面の操作 16

下糸をセットしましょう 20

上糸をセットしましょう 26

針を交換するには 35

押えを交換するには 39

筒ものをぬうとき 42

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

⚠ 警告

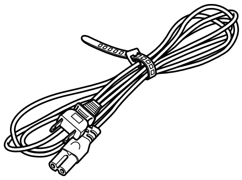
- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 運転中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

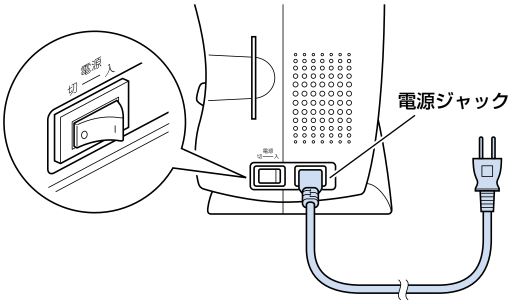
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

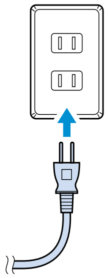
付属の電源コードを用意します。



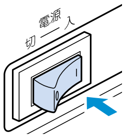
1 **電源スイッチが「切」になっていることを確認し、本体右側面の電源ジャックに電源コードを差し込みます。**



2 **電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。**

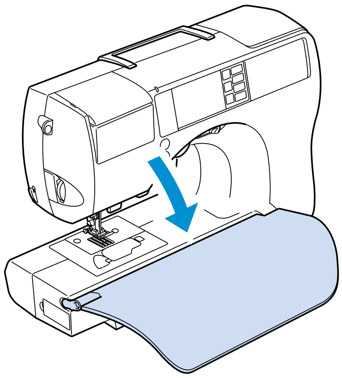


3 **本体右側面の電源スイッチの右側(Ｉ側）を押して「入」にします。**



▷ 電源が入り、手もとランプと液晶画面、スタート／ストップスイッチが点灯します。

4 **前面のフラップを手前に下げます。**

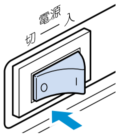


電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

1 **ミシンが止まっていることを確認します。**

2 **本体右側面の電源スイッチの左側(○側）を押して「切」にします。**



▷ 電源が切れ、ランプが消えます。

3 **電源プラグをコンセントから抜きます。**

電源プラグを持って抜いてください。

4 **電源ジャックから電源コードを抜きます。**

お願い

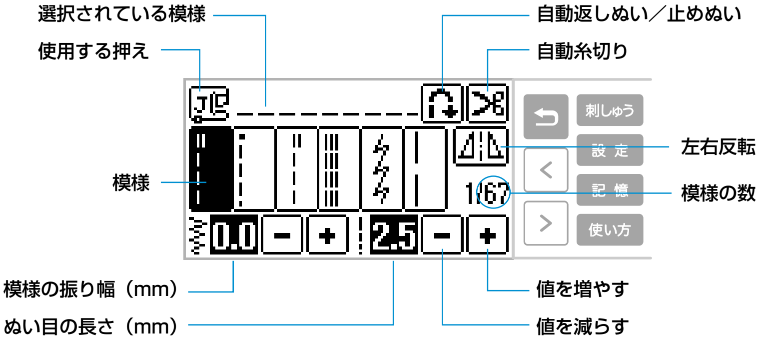
- 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

液晶画面の操作

本体前面の液晶画面には、選択した模様の設定値やメッセージが表示されます。

液晶画面の見方

電源を入れると液晶画面が点灯し、次の画面が表示されます。



液晶画面は、右側の ⮌ ＜ ＞ 刺しゅう 設 定 記 憶 使い方 キーで表示を切り替えて、液晶画面に直接指で触れて操作します。

お知らせ

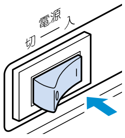
- 刺しゅう機が取り付けられているときは、異なる画面が表示されます。
- 液晶画面に表示されるメッセージについては、「液晶画面のメッセージ表示」（→P.148）を参照してください。

ミシンの設定を変更・確認するとき

ミシンの動作やぬい方の設定を変更したり確認したりできます。次の設定ができます。

機能	表示	内容	設定
糸色／針数		刺しゅうをするときの糸番号／糸色名／針数の表示を切り替えます。（→P.123）	ブラザー刺しゅう糸／カントリー糸／糸色名／針数
針位置		ミシンを止めたときの針の停止位置を変更します。	下　上
振幅コントロール		スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を変更できるように設定します。（→P.90）	ON OFF
ブザー		操作音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。（→P.152）	ON OFF
オープニング画面		電源を入れたときのオープニング画面を表示するかしないかを設定します。 ● 変更できない機種もあります。	ON OFF
画面調整		画面の濃さを調節します。	薄く − ＋ 濃く
プロダクトNO.	—	ミシンのプロダクトナンバーを示します。	—

1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

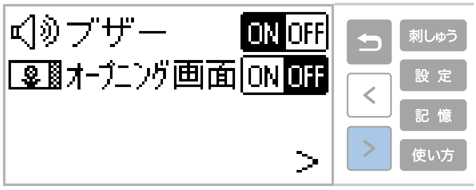
2 表示パネルの 設 定 キーを押します。

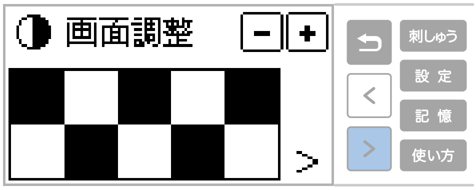
▷ 設定画面が表示されます。

3 設定する項目を押します。

＜（前ページ）＞（次ページ）キーで画面を切り替えます。

● 反転表示されているものが、現在の設定です。





［例］針位置を上に変更するとき

4 設定が終わったら、（戻る）キーを押します。

▷ 最初の画面に戻ります。

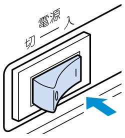
お知らせ

● 「プロダクト NO」は、ミシン固有の番号です。

ミシンの使い方を確認するとき

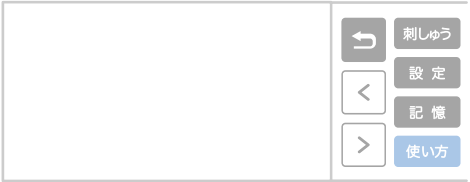
上糸セット・下糸巻き・下糸セット・針交換・刺しゅう機取り付け／取り外し・刺しゅう枠取り付け／取り外し・刺しゅう押え取り付け・押え交換の簡単な説明を、液晶画面に表示させることができます。

1 電源を入れます。



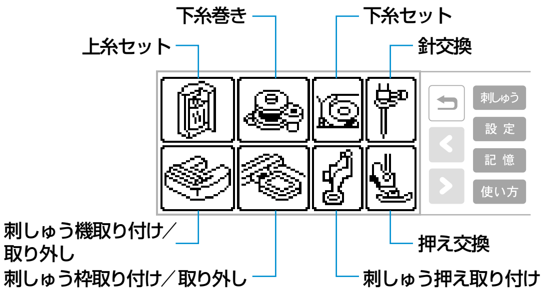
▷ 液晶画面が点灯します。

2 表示パネルの 使い方 キーを押します。



▷ 項目を選択する画面が表示されます。

3 表示する項目を押します。



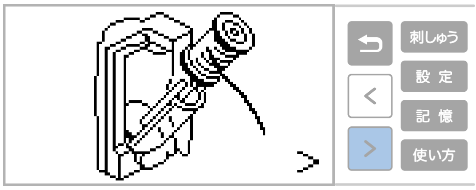
▷ 選択した項目の最初の説明画面が表示されます。

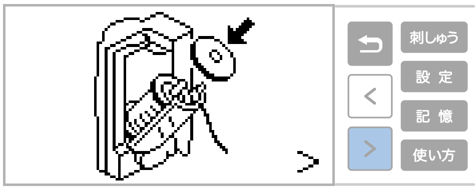
● （戻る）キーを押すと、項目を選択する画面に戻ります。

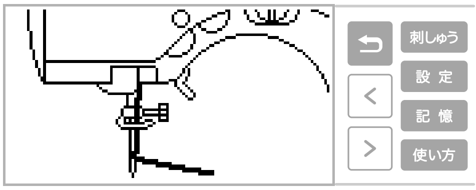
4 （次ページ）キーを押して次の画面に切り替えます。

（前ページ）キーを押すと前の画面に戻ります。

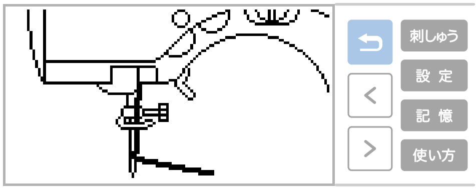
［例］上糸セット







5 見終わったら、 （戻る）キーを２回押します。



▷ 最初の画面に戻ります。

お願い

● 各項目の詳しい説明は、それぞれのページを参照してください。

下糸をセットしましょう

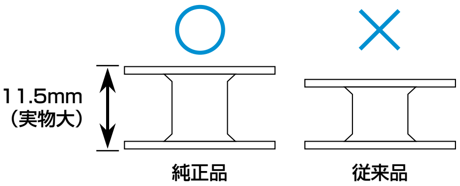
下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

ボビンに関する注意

ボビンについて気をつけなければいけないことを説明します。

⚠ 注意

● 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

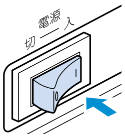


● 透明ボビンを使用してください。

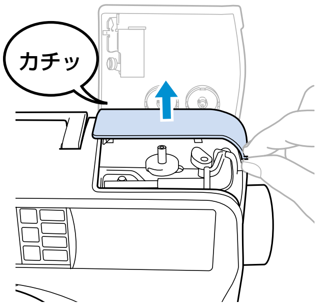
下糸を巻く

下糸用の糸をボビンに巻きます。糸こまとボビンを用意します。

1 電源を入れます。



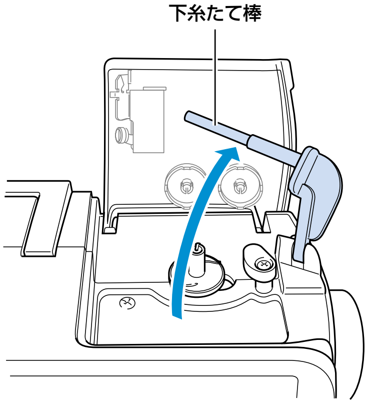
2 本体右上の下糸巻きカバーを、「カチッ」と音がするまであけます。※



※一番奥の止まるところまで押してください。

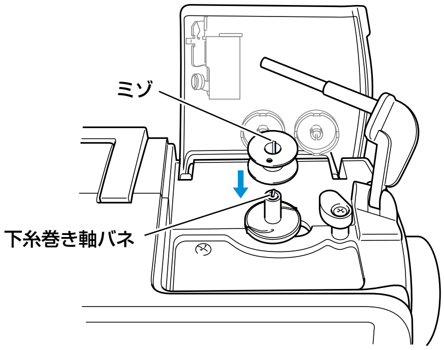
3 下糸たて棒を起こします。

止まるところまで起こします。※

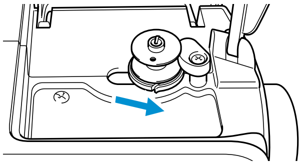


※一番奥の止まるところまで押してください。

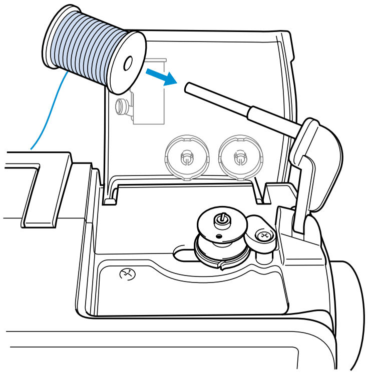
4 ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。



5 軸にセットしたボビンを右側に押します。

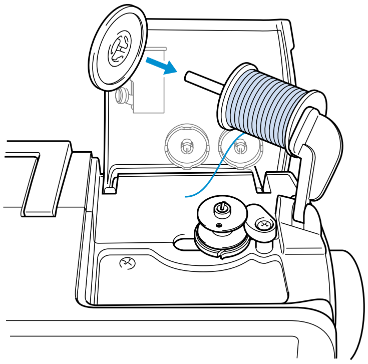


6 下糸用の糸こまを下糸たて棒に差し込みます。



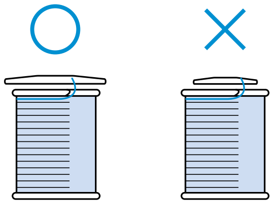
7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、丸みをおびている面を外側にして、糸こまにくっつくまで差し込みます。



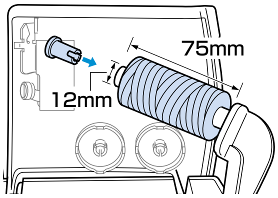
注意

● 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



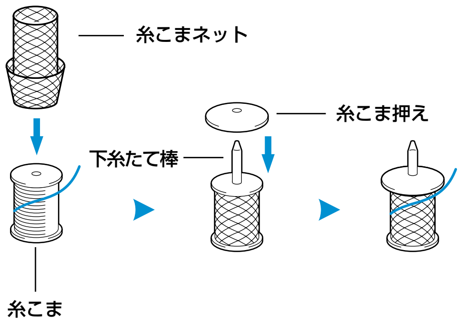
お知らせ

● 軸が直径12mm、長さ75mmの糸こまを下糸たて棒にセットする場合は、糸こま押え［特殊］を使用します。



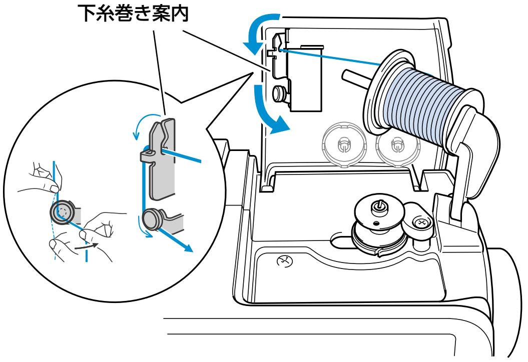
お願い

● ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから下糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



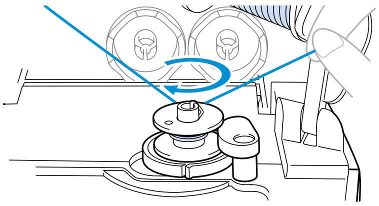
8 糸を引き出し、下糸巻き案内に糸をかけます。

下糸巻き案内に糸をかけるときは、**２箇所のミゾの奥まで**確実に糸をかけます。

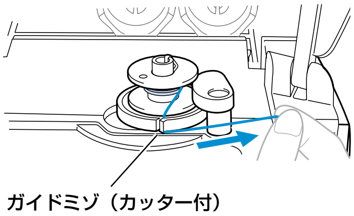


9 引き出した糸をボビンに巻き付けます。

引き出した糸がたるまないようにして、時計回りに**５～６回**巻き付けます。



10 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引いて糸を切ります。



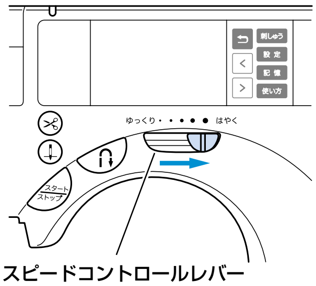
▷ 糸が適切な長さで切れます。

● カッターで糸を切ると、糸がガイドミゾに保持されて、ボビンに下糸を巻くことができます。

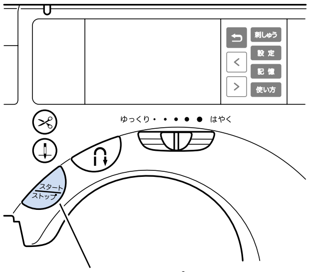
⚠ 注意

● **必ずこの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと糸がうまく巻けません。また、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

11 スピードコントロールレバーを右（はやく）に動かします。



12 （スタート／ストップスイッチ）を1 回押します。



スタート／ストップスイッチ

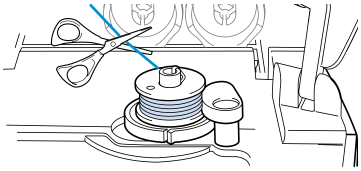
▷ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。

▷ 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。

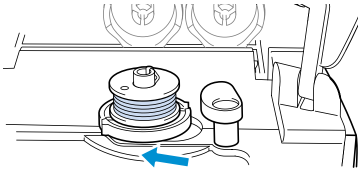
13 ボビンの回転がゆっくりになったら、（スタート／ストップスイッチ）を押します。

▷ ミシンがストップします。

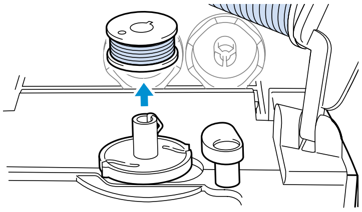
14 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



15 下糸巻き軸を左に戻します。



16 ボビンを軸から外します。



17 糸こま押えと糸こまを抜きます。

18 下糸たて棒を倒してから下糸巻きカバーをしめ、スピードコントロールレバーをもとの位置に戻します。

お知らせ

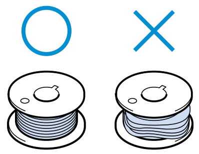
- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。

下糸をセットする

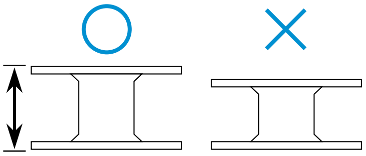
下糸を巻いたボビンを釜にセットします。

注意

- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。

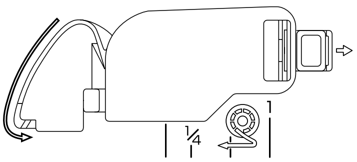


- 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

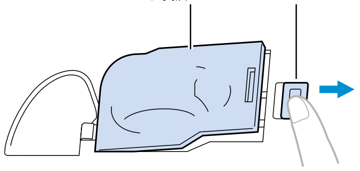


お知らせ

- ボビンをセットする方向が、針板周辺に刻印されています。そちらもあわせて見てください。



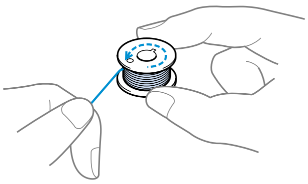
1 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かします。



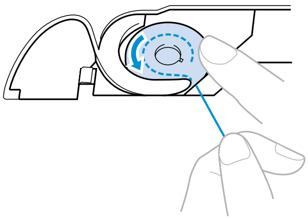
▷ 針板ふたが開きます。

2 針板ふたを取り外します。

3 右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。



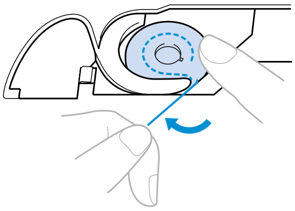
4 糸が左巻きになるようにして、右手でボビンを釜に入れます。



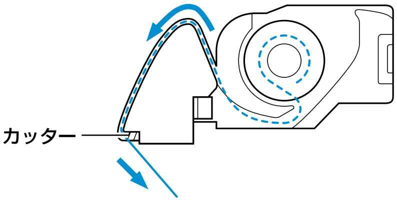
注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

⑤ 右手でボビンを軽く押さえ、左手で糸を図のように引っかけます。

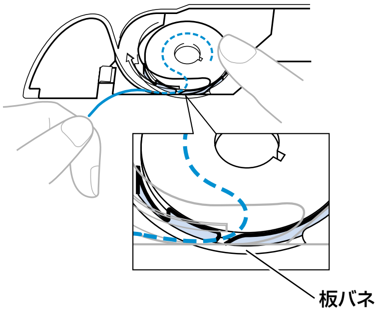


⑥ 図のようにミゾにそって糸を通し、手前に引いて糸を切ります。



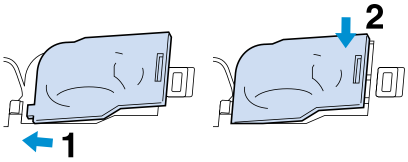
▷ カッターで糸が切れます。

● 内釜の板バネの間に、確実に糸が入っていることを確認してください。入っていない場合は、もう一度糸をかけ直してください。



⑦ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



▷ 下糸のセットが完了します。

お知らせ

● **下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。**下糸を引き出してからぬう場合は、上糸をセットしてから「下糸を引き出してからぬうとき」（→ P.33）を参照してください。

上糸をセットしましょう

上糸用の糸こまをセットし、針に糸を通します。

⚠ 注意

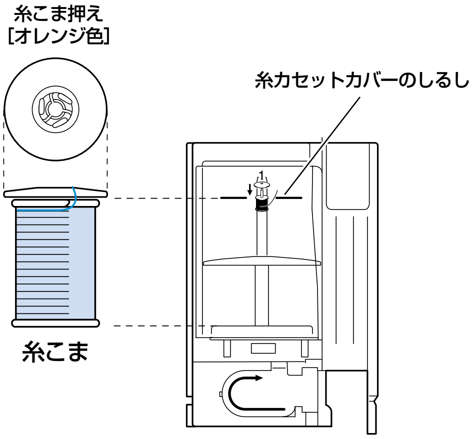
- 上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 別売のアタッチメントをご使用になる場合、アタッチメントを取り付ける前に糸通しを行ってください。

糸こまについて

本製品は、付属の糸カセットに糸こまをセットして上糸を通します。ここでは糸こまについて説明します。

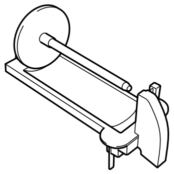
■ 糸カセットにセットできる糸こま

通常は、糸カセットに糸こまをセットして使用します。セットできる糸こまは、糸こま押え［オレンジ色］より小さい直径で、糸カセットのカバーのしるしよりも高さが低いものです。

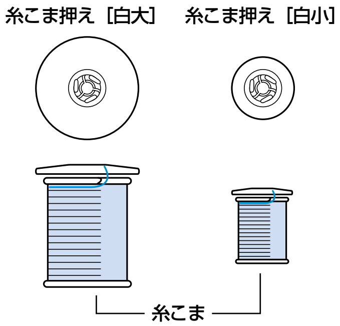


■ 糸カセットにセットできない糸こま

糸カセットにセットできない糸こまを使用するときは、付属の補助糸たて棒を使用します。

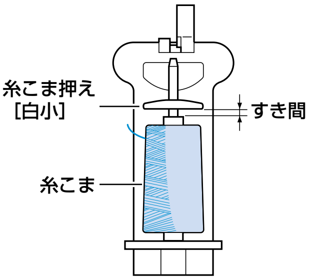


補助糸たて棒を使用するときは、糸こまの大きさによって、糸こま押え［白大］または［白小］をセットします。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。



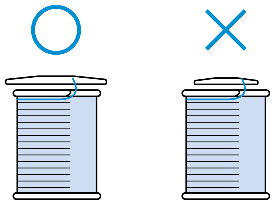
お知らせ

- 補助糸たて棒の使い方は、「補助糸たて棒を使うとき」（→ P.34）を参照してください。
- 綾巻き（チーズ巻き）の糸こまを使用するときは、糸こま押え［白小］を使用します。



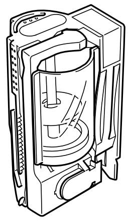
⚠ 注意

● 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまの直径より小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



糸こまを糸カセットにセットする

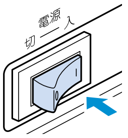
糸こまを糸カセットにセットします。付属の糸カセットと上糸用の糸こまを用意します。



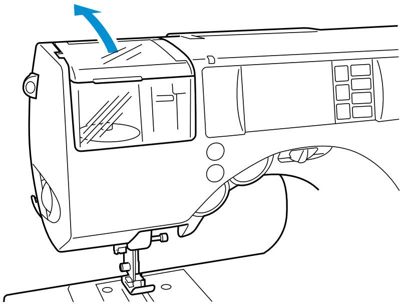
お知らせ

● 糸カセットに糸を通す順番が示されています。そちらもあわせて見てください。

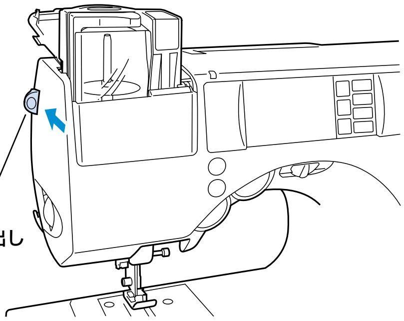
1 電源を入れます。



2 本体左上のカセットカバーをあけます。



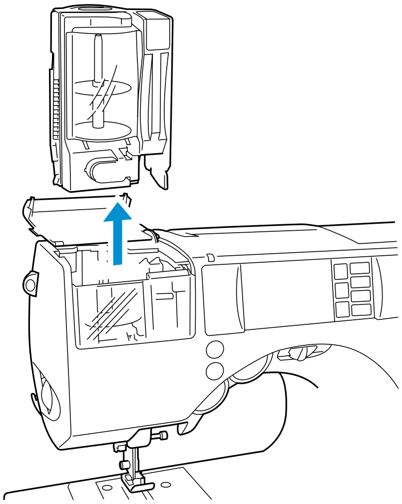
3 本体左側面のカセット取り出しレバーを奥側に押します。



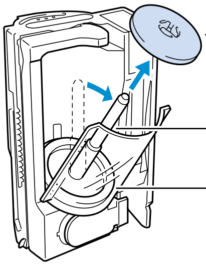
▷ 糸カセットが上に上がります。

● **電源が入っていないと、糸カセットが正しく上がりません。**

4 糸カセットを取り出します。

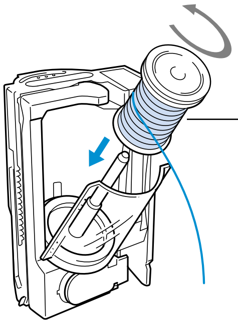


5 糸カセットのカバーを手前に引き、糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。



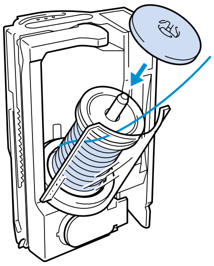
6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

上から見て、左回りになる向きに差し込みます。



7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えは、丸みをおびている面を上にして、糸こまにくっつくまで差し込みます。

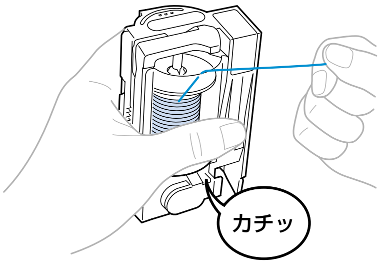


● 糸カセットにセットできる糸こま押えは、糸こま押え［オレンジ色］のみです。

注意

● **糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。**

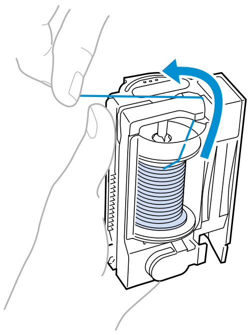
8 **右手で糸端を持ち、左手で糸カセットを持ってカバーをしめます。※**



※ 糸カセットのカバーを閉めるときは「カチッ」と音がするまで閉めてください。

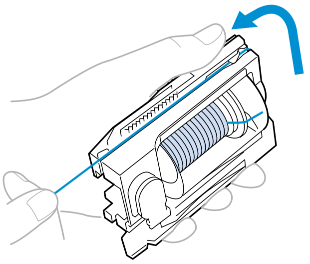
9 **糸カセットの上部のミゾに糸を通します。**

糸カセットに表示された矢印2に従います。

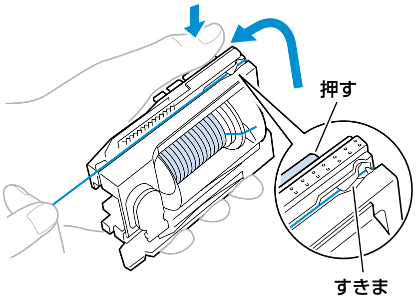


10 **糸を左に引き、左側面のミゾに糸をそわせます。**

糸カセットに表示された矢印3に従います。

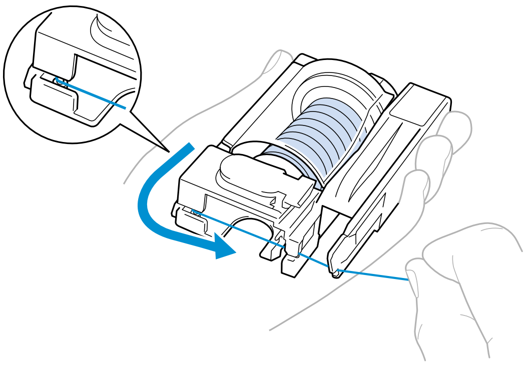


● メタリック糸などの特殊な糸を使用する場合は、左手の親指で図の部分を押すとすきまができるので、糸が通しやすくなります。



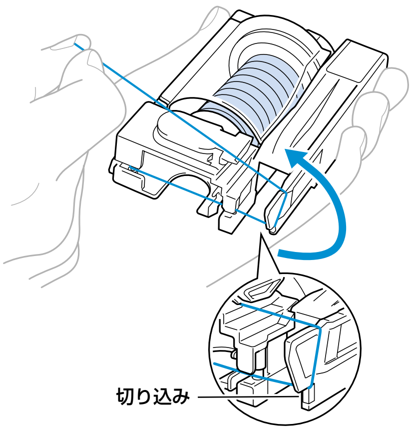
11 **底面に糸を通します。**

糸カセットに表示された矢印4に従います。



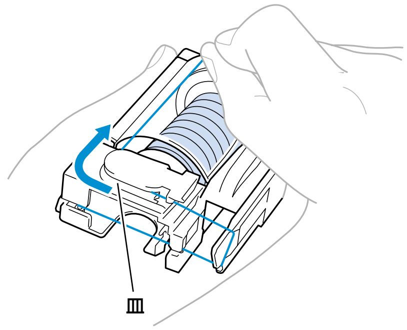
12 **右下側の切り込みに糸を引っかけてから左に引きます。**

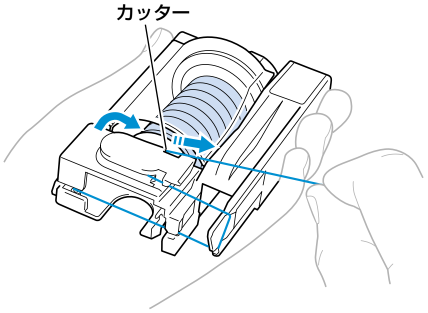
糸カセットに表示された矢印5に従います。



13 **前面下の皿部分に下から右回りに糸をかけて引っ張り、カッターで糸を切ります。**

糸カセットに表示された矢印6に従います。





▷ 糸カセットに糸こまがセットできました。

お願い

- 必ず上記の方法で糸を切ってください。カッターで糸を切らないと、糸通し装置を使って針に糸を通すことができません。

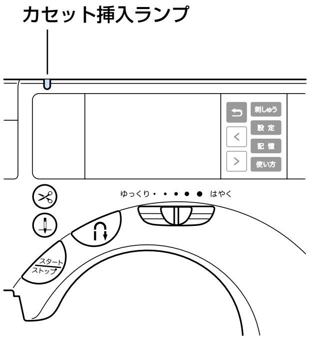
針に糸を通す

糸カセットをミシンにセットし、針に糸を通します。糸カセットをセットすると同時に、糸通し装置で針に糸が通ります。

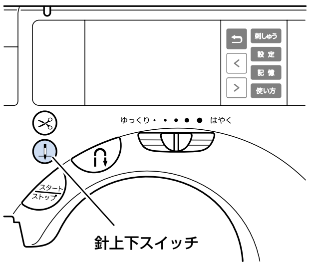
お知らせ

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針を使うときに使用できます。
- 20番以下の太い糸は、糸通し装置は使用できません。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、「手で針に糸を通すとき」（→ P.32）を参照してください。

1 **カセット挿入ランプが緑に点灯していることを確認します。**



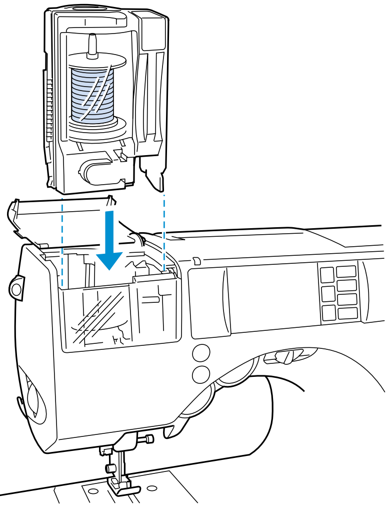
カセット挿入ランプが赤に点灯しているときは、針が正しい位置まで上がっていません。（針上下スイッチ）を1回押して針を上げてください。

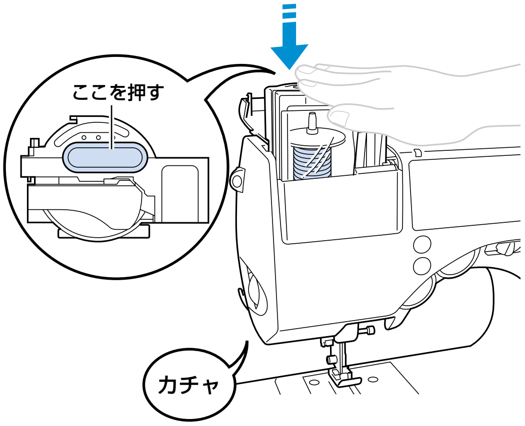


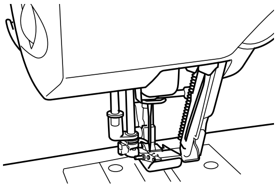
- 針が正しい位置まで上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。必ずカセット挿入ランプが緑に点灯していることを確認してから、糸カセットをセットしてください。

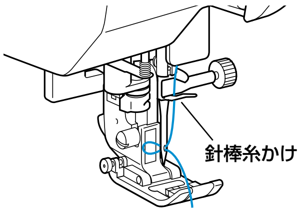
2 糸カセットをカセット挿入口にセットします。

糸カセットをカセット挿入口にセットするときは、糸カセット上部のグレーの部分をゆっくりと「カチャ」と音がするまで一気に下に押します。





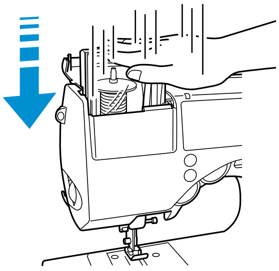




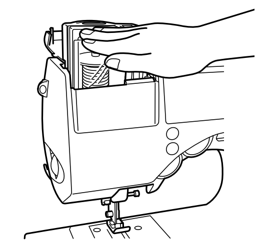
▷ 糸カセットがセットされ、同時に針に糸が通ります。

▷ カセット挿入ランプが消えます。

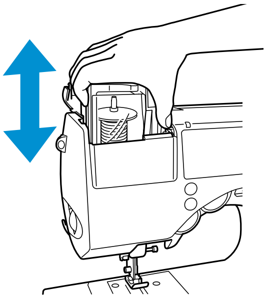
● 以下のような操作は、針穴に糸が通らなかったり、故障の原因となりますので注意してください。



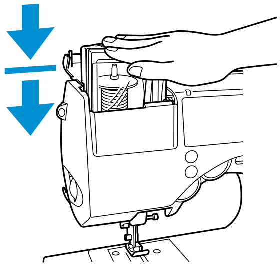
× 押すのが早すぎる



× グレー部分以外を押す

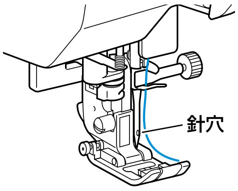


× 途中で出し入れする

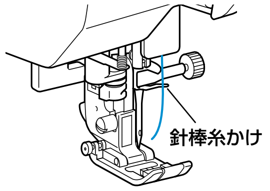


× 途中で止めてそのまま下まで押し下げる

● 針穴に糸が通らなかったり、針棒糸かけに糸がかかっていない場合は、「糸こまを糸カセットにセットする」の 2 〜（→P.27）をもう一度やり直してください。



× 糸が針穴に通らない



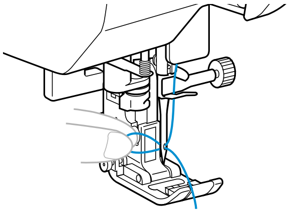
× 糸が針棒糸かけにかからない

注意

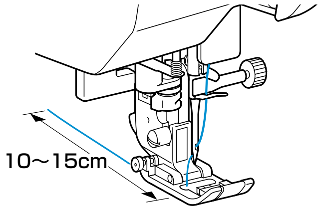
● **針に糸を通すときに、糸通し装置が作動します。針部周辺に手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。**

3 押えレバーを上げ、針に通った糸の端を引き出します。

糸の輪の部分を後ろ側にゆっくりと引きます。

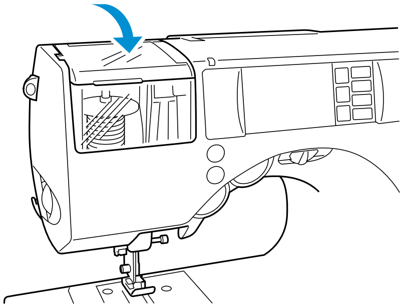


4 糸の端を押えの間に通し、後ろ側に10～15cmほど引き出します。



▷ 上糸のセットが完了します。

5 カセットカバーをしめます。



▷ これで上糸の準備ができました。

お願い

- 糸カセットをカセット挿入口にセットするときは、ゆっくりと押してください。
- 糸通しができなかったときは、糸カセットに糸をセットするところからやり直してください。

■ 手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できない20番以下の太い糸や特殊な糸、ウィングニードルを使用するときなどは、以下の手順で針に糸を通します。

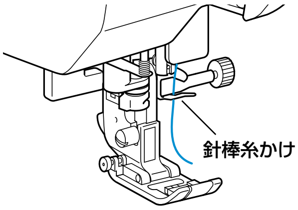
1 針を取り外します。

- 「針を交換する」(→P.36)で説明します。
- 糸通し装置が使用できない糸やウィングニードルを使用するときは、必ず針を外してください。故障の原因となります。

2 カセット挿入ランプが緑色に点灯していることを確認し、糸カセットをカセット挿入口にセットします。

- 「針に糸を通す」の❶～❷（→P.30）を参照してください。

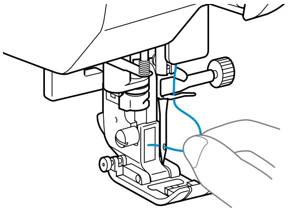
▷ 糸端が針棒糸かけにかかります。



3 針を取り付けます。

- 「針を交換する」(→P.36)で説明します。

4 針穴の手前から向こう側に、手で糸を通します。



下糸を引き出してからぬうとき

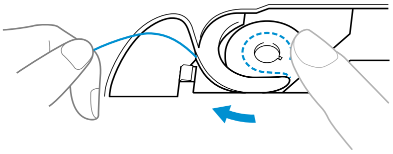
ギャザーやフリーモーションキルトなどをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

1 **ボビンを釜に入れます。**

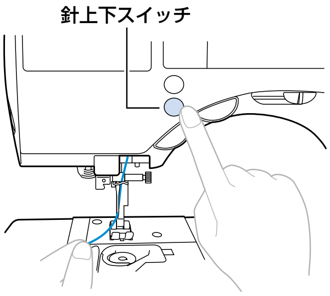
- 「下糸をセットする」の 1 ～ 5 （→ P.24）を参照してください。

2 **引き出した糸をミゾにそって通します。**

このとき、カッターで糸を切らないでください。

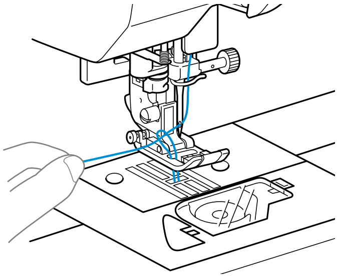


3 **針が上がっている状態で左手で上糸を軽く持ち、（針上下スイッチ）を2回押します。**

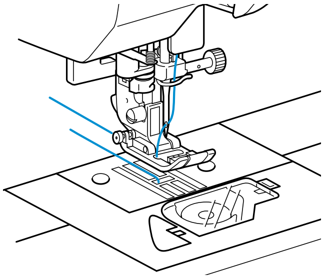


▷ 針が上に上がり、下糸が針板から輪になって引き出されます。

4 **上糸をゆっくりと上に引き、下糸の糸端を引き出します。**

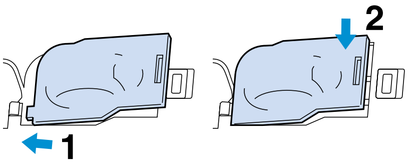


5 **下糸を10～15cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。**



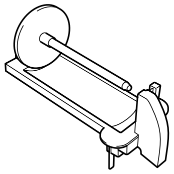
6 **針板ふたをもとに戻します。**

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。

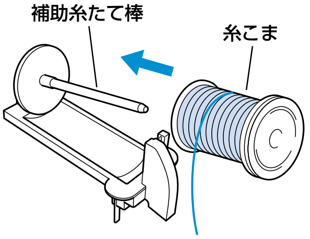


補助糸たて棒を使うとき

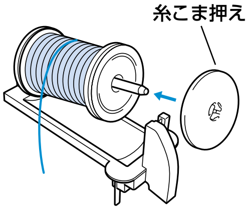
糸カセットにセットできない大きさの糸こまを使用するときは、付属の補助糸たて棒を使用します。



1 補助糸たて棒に糸こまを差します。

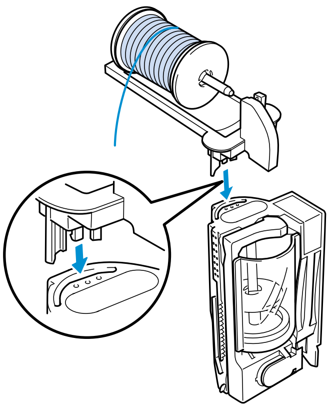


2 糸こまの大きさに合わせて、糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

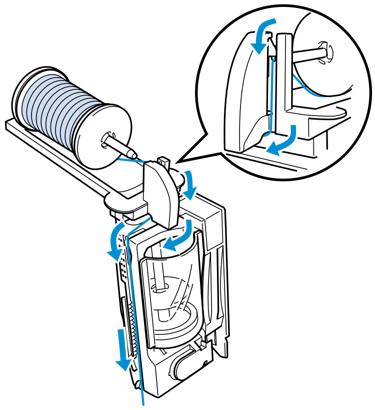


● 「糸こまについて」（→P.26）を参照してください。

3 補助糸たて棒の凸部を、糸カセット上部のミゾに差し込みます。



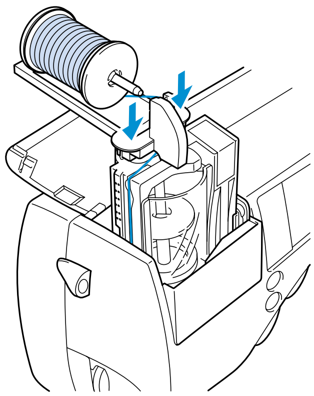
4 補助糸たて棒にセットした糸こまの糸を、糸カセットに通します。



● 「糸こまを糸カセットにセットする」（→P.27）を参照してください。

5 カセット挿入ランプが緑に点灯していることを確認し、補助糸たて棒を取り付けた糸カセットをカセット挿入口にセットします。

補助糸たて棒の両端を両手で押します。



▷ 糸カセットがセットされ、同時に針に糸が通ります。

▷ 補助糸たて棒を使用して上糸がセットできました。

針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと、針が折れて飛び散るなど非常に危険です。よく読んで、必ず守ってください。
仕上がり良くぬい上げるためには、ブラザー純正のミシン針（HA × 1）を推奨します。

注意

- **針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。その他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。**
- **曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。**

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	綿糸	60~80	11~14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバジン	絹糸	50	
薄地	ローン	綿糸	60~80	9~11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50	
厚地	デニム	綿糸	30~50	14~16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツィード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50~60	ゴールデン針 11~14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50~80	9~14
		合繊糸		
		絹糸	50	
ステッチ糸の場合		合繊糸	50	14~16
		絹糸		

■ 糸と針の数字

糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ ゴールデン針

伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず14～16番の針を使用してください。

■ 刺しゅう用の針

「きれいに刺しゅうをするには」（→P.106）を参照してください。

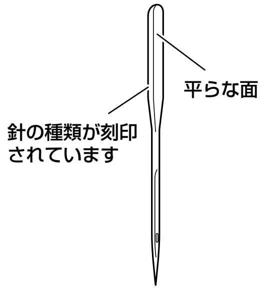
- 購入時は、11番の針がミシンに取り付けられています。

注意

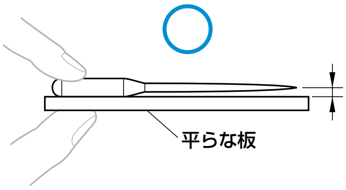
- **布地と糸と針の組み合わせは、左記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニム等）を細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

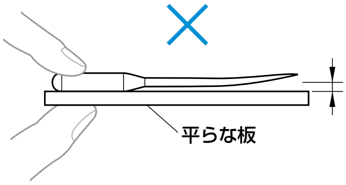


■ 良い針



■ 悪い針

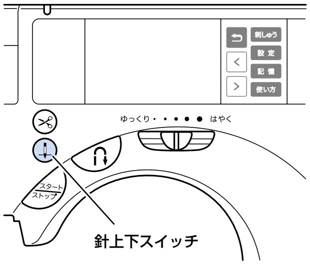
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



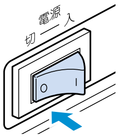
針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認した良い針と、付属のドライバーを用意してください。
付属の針交換ツールを使用すると、安全に針を交換することができます。

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。



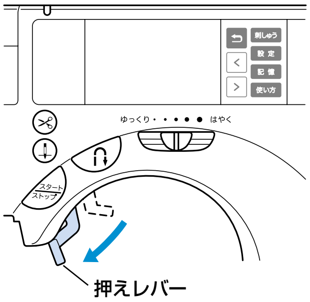
2 電源を切ります。



注 意

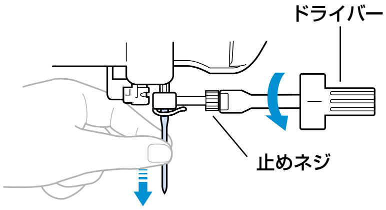
● 針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを下げます。

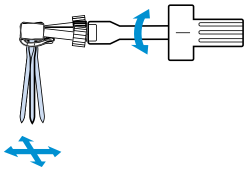


4 針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。

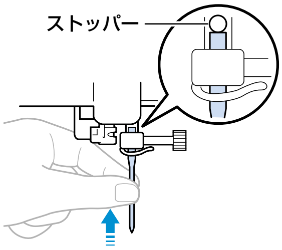
左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回します。



- 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

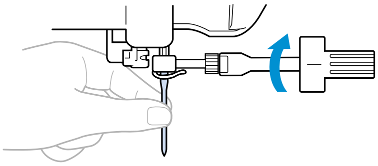


5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



6 針を左手で押さえたまま止めネジをしめます。

ドライバーを奥側に回します。

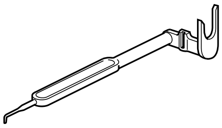


注意

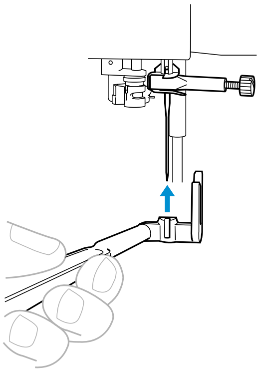
- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

■ 針交換ツールを使う

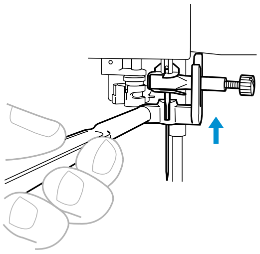
付属の針交換ツールを使って、針を交換する手順を説明します。



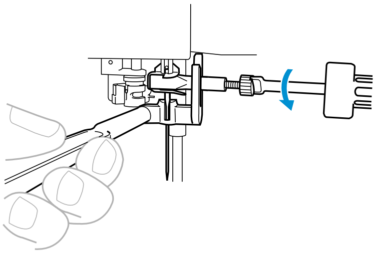
1 針交換ツールの穴に針を通します。



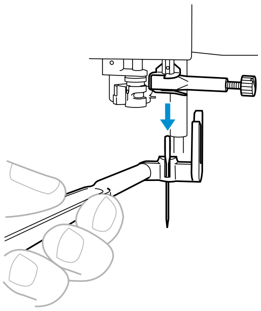
2 針交換ツールを上に上げて、ふたまた部分を針の止めネジの棒にはさみます。



3 ドライバーで針の止めネジをゆるめます。



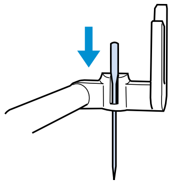
4 針交換ツールを下に下げます。



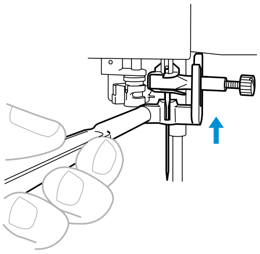
▷ 針が針棒から外れます。

5 新しい針を針交換ツールの穴に刺します。

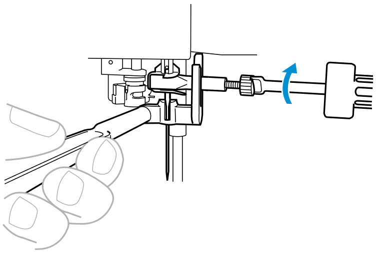
針の平らな面を後ろ側に向けて刺します。



6 針交換ツールを上に上げて、ふたまた部分を針の止めネジの棒にはさみます。



7 針がストッパーにあたったら、ドライバーで針の止めネジをしめます。



▷ 針が取り付けられます。

8 針交換ツールを下に下げて針から抜きます。

押えを交換するには

押えに関する注意

押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

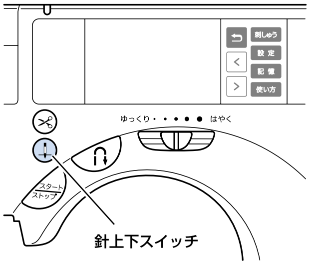
注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず本機純正の押えを使用してください。その他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

押えを交換する

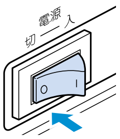
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。
刺しゅう押え <Q>の取り付け方は、「刺しゅう押えを取り付ける」（→P.109）で説明します。

1 （針上下スイッチ）を1回または2回押し、針を上に上げます。



▷ 針が上に上がります。

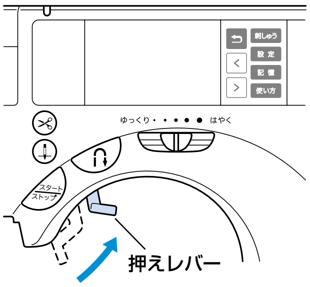
2 電源を切ります。



注意

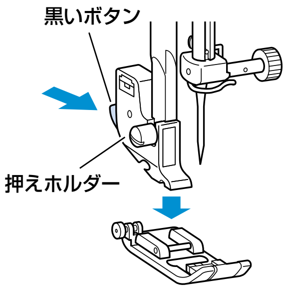
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを上げます。



▷ 押えが上がります。

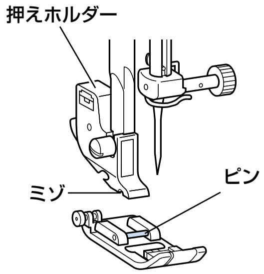
4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



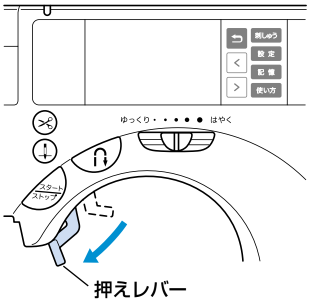
▷ 押えが押えホルダーから外れます。

5 取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されているA・G・I・J・M・N・Rの押え記号が読める向きに置きます。

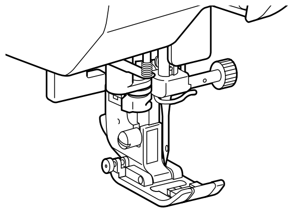


6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



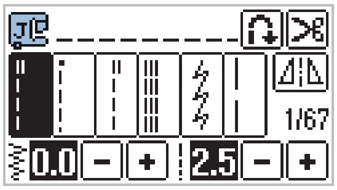
▷ 押えが取り付けられます。

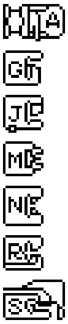
7 押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。



お願い

- 模様を選ぶと、使用する押えが液晶画面の左上に表示されます。取り付けた押えと合っているか確認してから、ぬい始めてください。もし取り付けた押えがまちがっていた場合は、いったん電源を切ってから正しい押えを取り付け、再度模様を選び直してください。





ボタン穴かがり押え <A>
たち目かがり押え <G>
ジグザグ押え <J>
ボタン付け押え <M>
模様ぬい押え <N>
まつりぬい押え <R>
サイドカッター押え <S>

- 各模様で使用する押えは、操作早見表の「実用模様一覧」を参照してください。

押えホルダーを外す

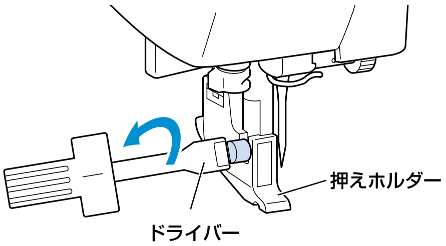
刺しゅう押えを取り付けるときやお手入れをするときは、押えホルダーを外します。付属のドライバーを用意します。

1 押えを外します。

● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 押えホルダーのネジをゆるめます。

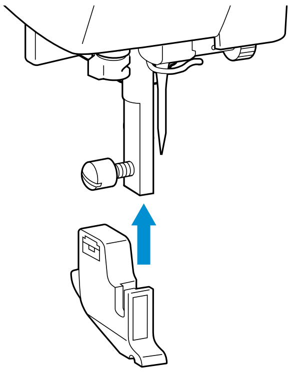
ドライバーを奥側に回します。



▷ 押えホルダーが外れます。

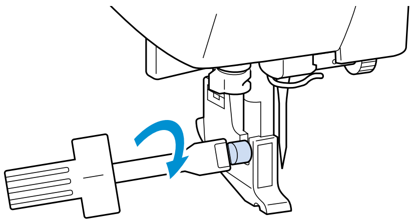
■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 押えホルダーを押え棒に合わせます。



2 押えホルダーを右手で押さえながらネジをしめます。

左手でドライバーを手前に回します。



お願い

● 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

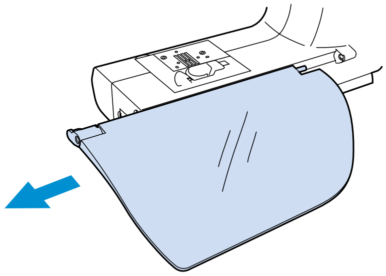
筒ものをぬうとき

筒ものをぬうときは、フリーアームにします。

フリーアームにする

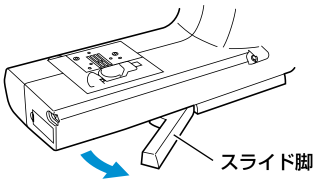
そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フラップを外してフリーアームにすると便利です。

1 フラップを左にずらします。



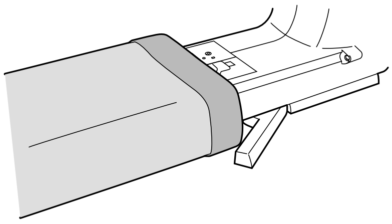
▷ フラップが外れて、フリーアームの状態になります。

2 本体下のスライド脚を手前に引きます。

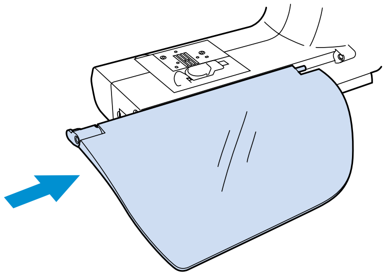


● フリーアームにしたときは、スライド脚を引き出してください。

3 ぬうところをアーム部分に通してまわしながらぬっていきます。



4 ぬい終わったら、スライド脚とフラップをもとに戻します。



2 ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう 44

糸調子を調節する 52

模様の幅と長さを調節する 53

便利な機能 55

上手にぬうコツ 58

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ソーイングの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1　電源を入れる	ミシンの電源を入れます。 「電源を入れる」（→P.15）を参照してください。
⇩	
2　模様を選ぶ	ぬう箇所に合わせて模様を選びます。 「模様を選ぶ」（→次ページ）で説明します。
⇩	
3　押えを取り付ける	模様に合った押えを取り付けます。 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。
⇩	
4　布地をセットする	ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。 「布地をセットする」（→P.46）で説明します。
⇩	
5　スタート	ミシンをスタートさせます。 「ミシンをスタートさせる」（→P.47）で説明します。
⇩	
6　糸切り	ぬい終わった糸を切ります。自動で切ることもできます。 「糸を切る」（→P.51）で説明します。

模様を選ぶ

液晶画面を操作して、模様を選択します。67の実用模様があります。
電源を入れた直後は、直線［左］が選択されています。

1 使用する模様を決め、模様に合った押えを用意します。

- 操作早見表の「実用模様一覧」を参照してください。

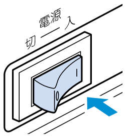
2 押えを取り付けます。

- 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

注意

- **模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

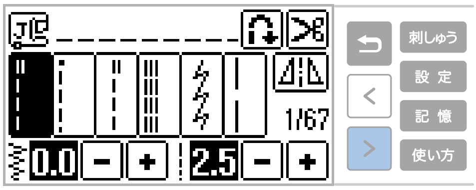
3 電源を入れます。

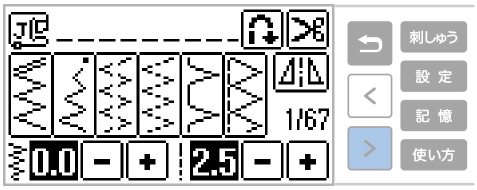


▷ 直線［左］が選択されます。

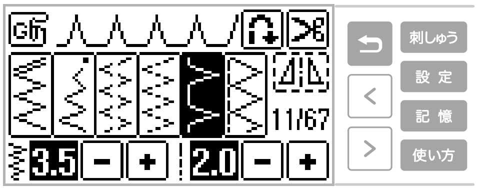
4 選ぶ模様を押します。

［<］（前ページ）で前の画面、［>］（次ページ）で次の画面が表示されます。





［例］11 を選んだ場合



▷ 模様が選択され、模様の番号と設定値が表示されます。

5 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。

お知らせ

- 各模様の使い方は、「いろいろなぬい方」（→P.61）で説明します。
- 自動返しぬい／止めぬいなどの設定は、「便利な機能」（→P.55）で説明します。

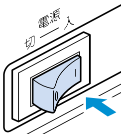
お願い

- 模様を選ぶと、使用する押えのマークが液晶画面の左上に表示されます。取り付けた押えと合っているか確認してから、ぬい始めてください。もし取り付けた押えがまちがっていた場合は、いったん電源を切ってから正しい押えを取り付け、もう一度模様を選び直してください。

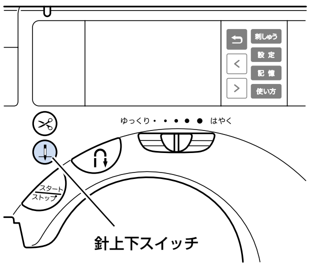
布地をセットする

布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



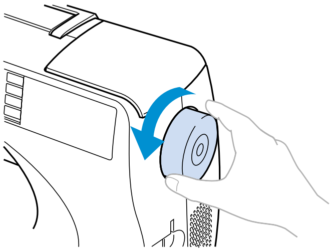
2 (針上下スイッチ)を１回または２回押し、針を上に上げます。

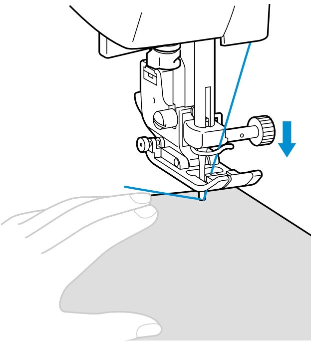


3 押えの下に布地を置きます。

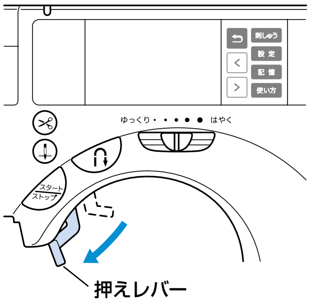
● ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。

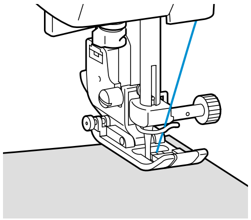




5 押えレバーを下げます。



▷ 布地がセットできました。



ミシンをスタートさせる

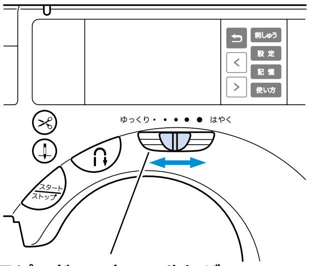
準備ができたら、ミシンをスタートさせます。
ミシンをスタートさせるには、指で操作する方法と、別売のフットコントローラーを使って足で操作する方法があります。

■ 指で操作する

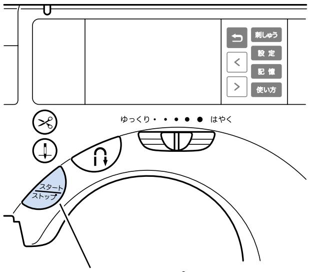
操作スイッチの （スタート／ストップスイッチ）を押して操作します。

1 スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

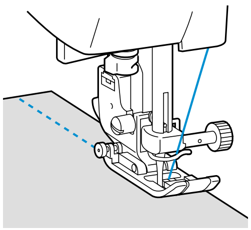
左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。



2 （スタート／ストップスイッチ）を1回押します。



▷ ミシンがスタートします。



● スタート直後とスタート／ストップスイッチを押し続けている間は、ゆっくり進みます。

3 ぬい終わりまで進んだら、もう一度 （スタート／ストップスイッチ）を1回押します。

▷ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

4 ぬい終わったら、 （針上下スイッチ）を押します。

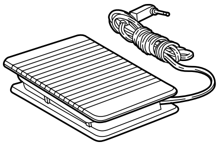
▷ 針が上に上がります。

5 糸を切ります。

●「糸を切る」（→ P.51）で説明します。

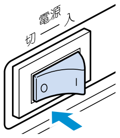
■ 足で操作する

別売のフットコントローラーを使って足で操作します。



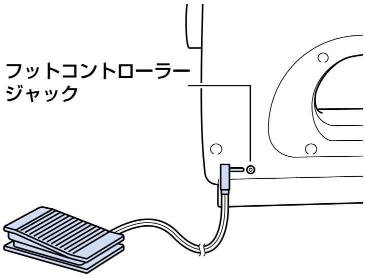
1 電源を切ります。

フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切っておきます。

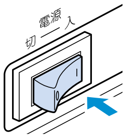


ぬい方の基本
ぬってみましょう

② 本体背面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。

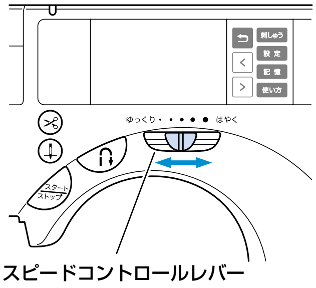


③ 電源を入れます。



④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

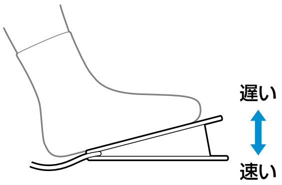
左にすると遅く、右にすると速くなります。



- スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーの最高速度になります。

⑤ ぬう準備ができたら、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

深く踏み込むと速く、浅く踏むと遅くなります。



- 強く踏むとミシンが速く進んでしまうので注意してください。

▷ ミシンがスタートします。

⑥ ぬい終わりまで進んだら、踏むのをやめます。

▷ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

⑦ ぬい終わったら、Ⓘ（針上下スイッチ）を押します。

▷ 針が上に上がります。

⑧ 糸を切ります。

- 「糸を切る」（→P.51）で説明します。

お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。
- ミシンを止めると、針は下がった状態になります。ミシンを止めたときに針が上になるように設定を変更することもできます。「ミシンの設定を変更するとき」（→P.17）を参照してください。

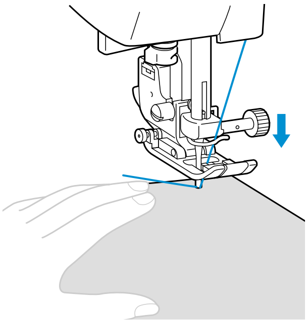
⚠ 注意

- **フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。**
- **フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。**
- **長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。**

返しぬい／止めぬいをする

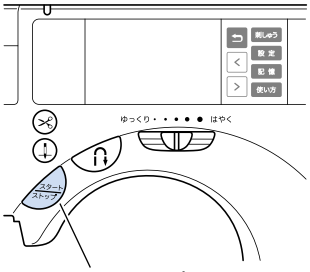
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように返しぬいまたは止めぬいをします。
ここでは、直線ぬいの場合を例に説明します。

1 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



2 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

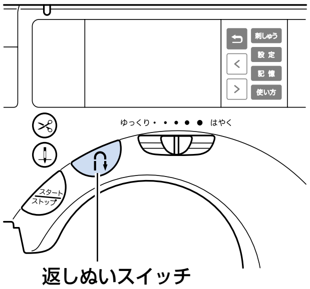


- スタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」（→ P.47）を参照してください。

▷ ミシンがスタートします。

3 3～5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）を押します。

ぬい始めの位置に戻るまで返しぬいスイッチを押したままにします。



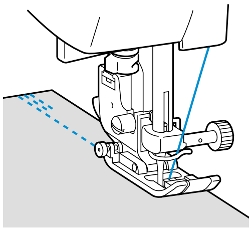
▷ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

4 ぬい始めの位置まで戻ったら、返しぬいスイッチから手を離します。

▷ ミシンが止まります。

5 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

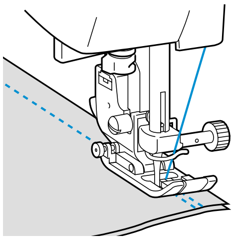
▷ 通常の向きに針が進みます。



6 ぬい終わりまできたら、（返しぬいスイッチ）を押します。

３～５針戻るまで返しぬいスイッチを押したままにします。

▷ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。



7 3～5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）から手を離します。

▷ ミシンが止まります。

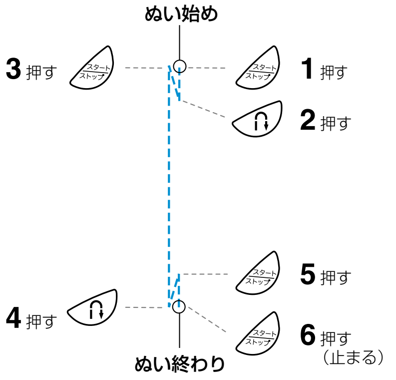
8 （スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

▷ 通常の向きに針が進みます。

9 ぬい終わりの位置まできたら、ミシンを止めます。

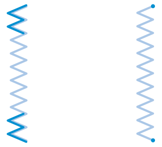
スタート／ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むのをやめます。



■ 模様をぬうとき

返しぬいは、1 ・3 ・7 の模様に設定されています。

これ以外の模様で（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で３～５針重なります。



お知らせ

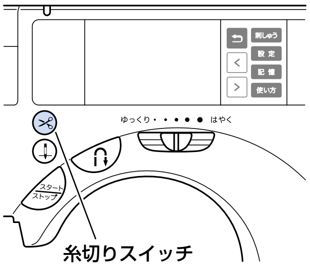
● 返しぬい／止めぬいを自動で行うこともできます。「自動で返しぬい／止めぬいをする」（→P.55）を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら糸を切ります。糸を切るには、２つの方法があります。

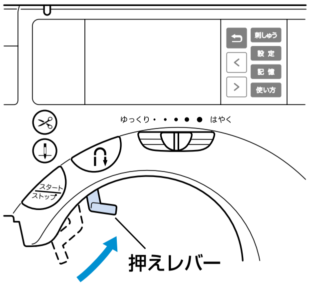
■ 糸切りスイッチ

① ぬい終わった位置で、✂（糸切りスイッチ）を１回押します。



▷ 糸が切れ、針が上に上がります。

② 押えレバーを上に上げて、布地を取り出します。



⚠ 注意

- 糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。
- 布地が押えの下にない状態やミシンが動いているときは糸切りスイッチを押さないでください。このようなときに糸切りスイッチを押すと、故障の原因となります。

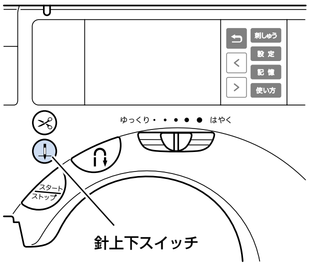
お知らせ

- ぬい終わったときに、自動的に糸を切るように設定することもできます。「自動で糸を切る」（→P.56）で説明します。

■ 糸切り

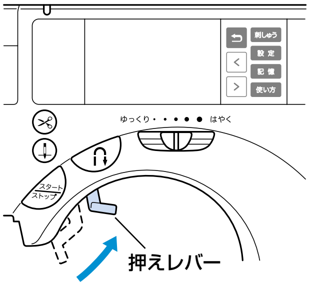
30番よりも太い糸やナイロン糸、メタリック糸などの特殊な糸を使用しているときは、本体左側面の糸切りを使って糸を切ります。

① ぬい終わってミシンを止めたら、Ⓘ（針上下スイッチ）を１回押します。

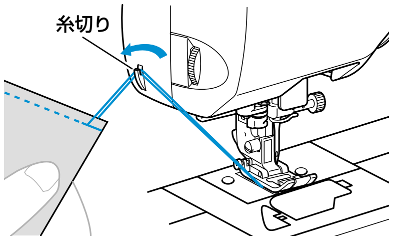


▷ 針が上に上がります。

② 押えレバーを上げます。



③ 布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



糸調子を調節する

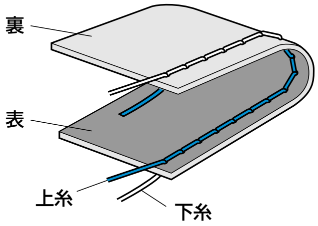
上糸と下糸の強さのバランス（糸調子）を調節します。

糸調子とは

思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、上糸の調子を強く、または弱くして調節します。

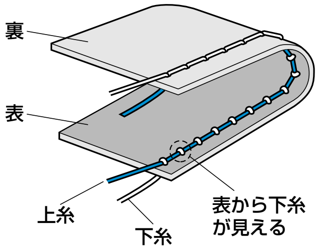
■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸だけが見える状態です。



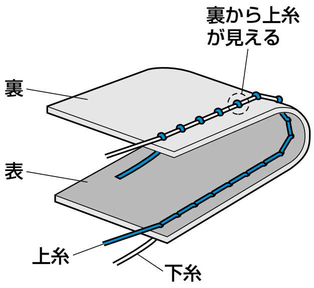
■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている状態です。この場合は上糸を弱くします。



■ 上糸が弱いとき

布地の裏に上糸が見えている状態です。この場合は上糸を強くします。



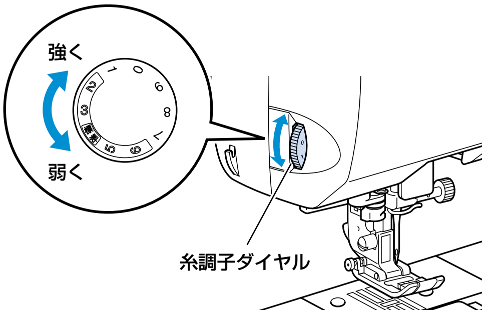
上糸の調子を変更する

本体左側面の糸調子ダイヤルで変更します。

1 **実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、試しぬいをします。**

2 **左記の図を参考にし、本体左側面の上糸調子ダイヤルを動かします。**

数字が大きいほど上糸調子が強くなります。



3 **適切な糸調子になるまで、試しぬいをします。**

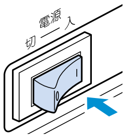
模様の幅と長さを調節する

模様の振り幅とぬい目の長さを調節できます。模様を選択すると、自動的に適切な幅と長さが設定されます。各模様で設定できる幅と長さの値は、操作早見表の「実用模様一覧」を参照してください。

模様の幅を調節する

ジグザグの振り幅を調節します。液晶画面で操作します。

1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

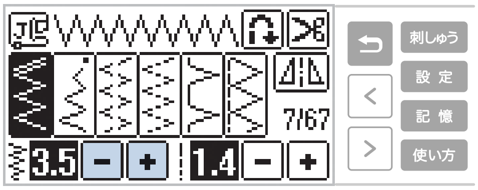
2 模様を選択します。

▷ 選択した模様の設定が表示されます。

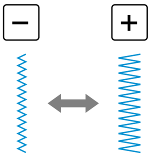
● 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→P.45)を参照してください。

● 模様を選んだ直後は、標準の値（数字が反転表示）になっています。

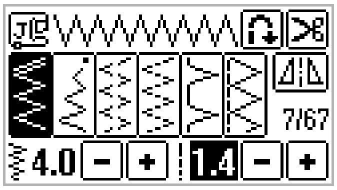
3 幅をせまくするときは [−] 、広くするときは [+] を押します。



▷ 模様の幅が変わります。



● 値を変更すると、数字の反転表示が消えます。



お知らせ

● 標準の幅に戻すときは、同じ模様をもう一度選び直すか、反転表示される数字に変更します。
● 模様が直線（直線［左］、三重ぬい、しつけなど）のときに模様の幅を変更すると、針の位置が調節できます。幅を広くすると針位置が右になり、せまくすると左になります。
● ぬいながら模様の幅を変えるときは、スピードコントロールレバーで操作できるように設定することができます。「サテンぬい」(→P.90) を参照してください。

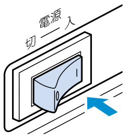
注意

● **振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さを調節します。液晶画面で操作します。

1 電源を入れます。



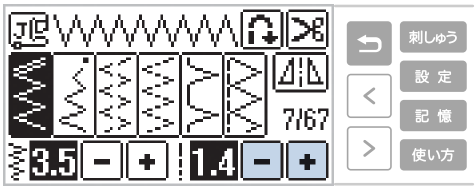
▷ 液晶画面が点灯します。

2 模様を選択します。

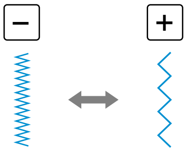
▷ 選択した模様の設定が表示されます。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。
- 模様を選んだ直後は、標準の値（数字が反転表示）になっています。

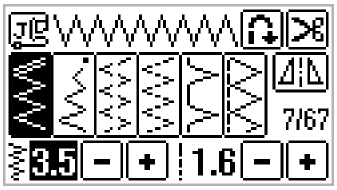
3 長さを短くするときは − 、長くするときは + を押します。



▷ ぬい目の長さが変わります。



- 値を変更すると、数字の反転表示が消えます。



お知らせ

- 標準の長さに戻すときは、同じ模様をもう一度選び直すか、反転表示される数字に変更します。

注意

- **ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さを長くしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

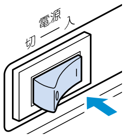
便利な機能

ここでは、覚えておくと役に立つ機能を説明します。

自動で返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりに、自動で返しぬいまたは止めぬいをするように設定します。
模様によって、返しぬいか止めぬいかが異なります。どちらが設定されるかは、操作早見表の「実用模様一覧」を参照してください。

1 電源を入れます。

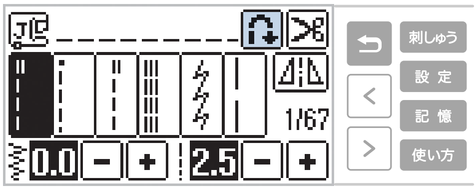


▷ 液晶画面が点灯します。

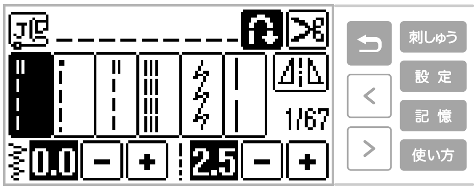
2 模様を選びます。

● 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 液晶画面の を押します。



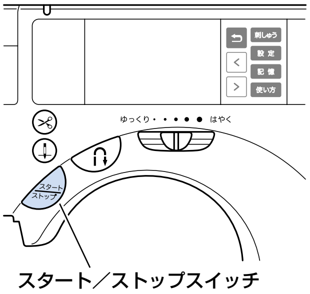
▷ になり、自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



● 自動返しぬい／止めぬいを解除するときは、 を押します。

● 電源を切ると、自動返しぬい／止めぬいの設定は解除されます。

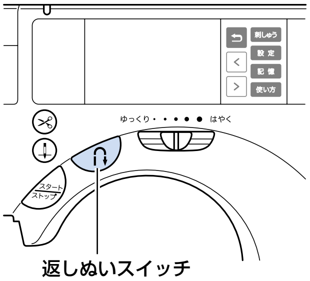
4 布地をセットし、（スタート／ストップスイッチ）を 1 回押します。



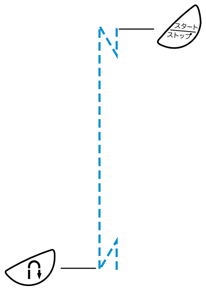
▷ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）を 1 回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



▷ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ミシンが止まります。



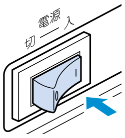
お知らせ

- ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、自動で返しぬい／止めぬいは行われません。ぬい終わりで返しぬいスイッチを押してください。

自動で糸を切る

ぬい終わりで自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。
プログラム糸切りを設定すると、自動止めぬいも一緒に設定されます。

1 電源を入れます。

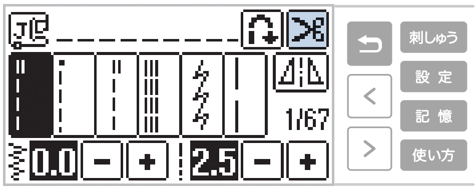


▷ 液晶画面が点灯します。

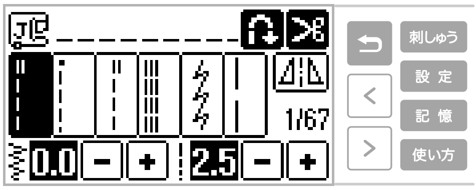
2 模様を選びます。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 液晶画面の を押します。

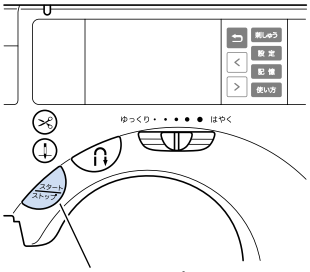


▷ になり、プログラム糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。



- プログラム糸切りを解除するときは、 を押します。

4 **布地をセットし、（スタート／ストップスイッチ）を１回押します。**

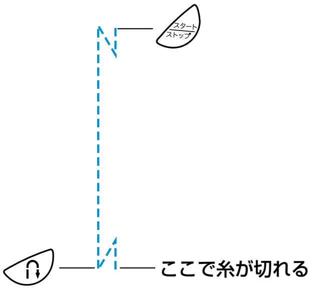


▷ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

5 **ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）を１回押します。**

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

▷ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ミシンが止まって糸が切れます。



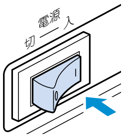
お知らせ

- ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、プログラム糸切りは行われません。ぬい終わりで返しぬいスイッチを押してください。
- 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

模様を反転する

模様を左右反転してぬうことができます。

1 **電源を入れます。**

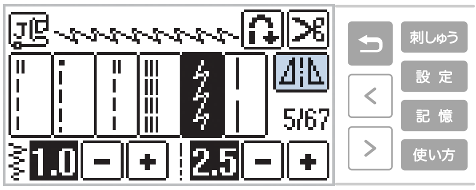


▷ 液晶画面が点灯します。

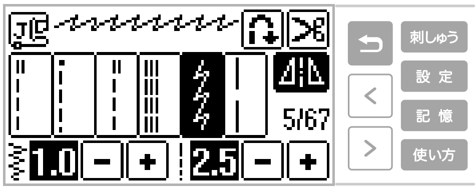
2 **模様を選びます。**

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 **液晶画面の を押します。**



▷ になり、模様が反転して表示されます。



- 反転を解除するときは、 を押します。

お知らせ

- ボタン穴かがりなど、になっている模様は、反転できません。
- 電源を切ると、反転は解除されます。

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ソーイングをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

本製品は、模様を選択すると、それに合わせて自動的に適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。
しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。
試しぬいは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

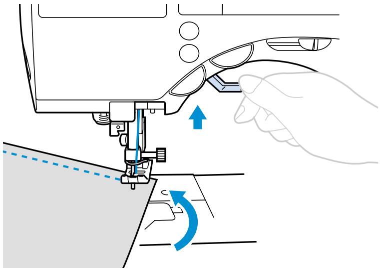
ぬう方向を変える

1 角までぬったら、ミシンを止めます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

2 押えレバーを上げ、布を持って回します。

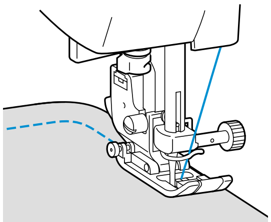
針位置を基点に回転させます。



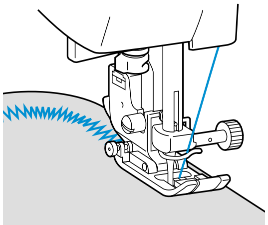
3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンを止めながら、少しずつ向きを変えてぬいます。「ぬいしろの幅をそろえる」（→P.60）を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。



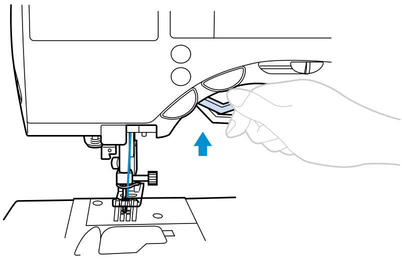
ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。



厚い布地をぬう

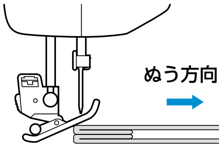
■ 押えの下に布地が入らないとき

押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



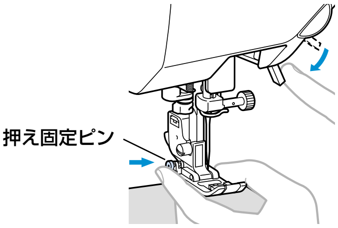
■ ぬい始めに段差があって布地が送られないとき

ジグザグ押え <J> には、押えを水平にする機能が付いています。

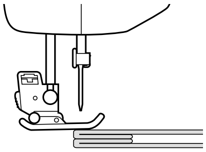


① ぬい始めに布地に段差があって送らない場合は、押えレバーをいったん上げます。

② ジグザグ押え <J> の左側の黒いボタン（押え固定ピン）を押したまま、押えレバーを下げます。



▷ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



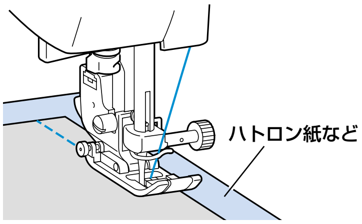
▷ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

⚠ 注意

- 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

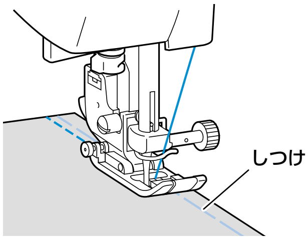
薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。
その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。



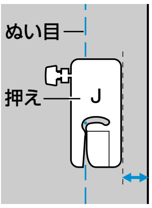
また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

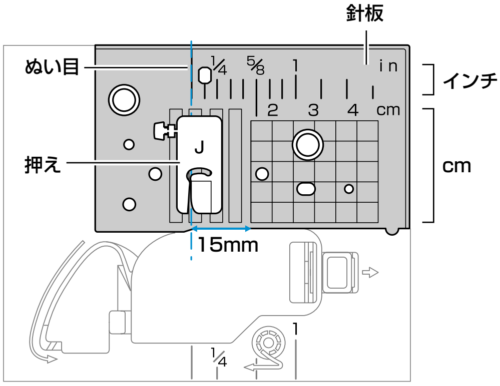
■ 押えを基準にする場合

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。



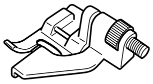
■ 針板を基準にする場合

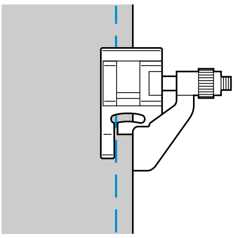
針板には、直線［左］の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ（約 3mm）単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。



■ ガイド付押えを使用する場合

別売のガイド付押えは、ガイドの幅を変更して布端をガイドに合わせてぬうと、ぬいしろの幅をそろえてぬうことができます。





3 いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬいしろを始末する 62
地ぬいをする 66
すそ上げをする 68
ボタン穴かがりをする 70
ファスナーを付ける 77
伸びる布地やゴムテープをぬう 82
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう 84
丈夫にしたいところをぬう 92
はとめ穴を作る 96
飾りぬいをする 97

ぬいしろを始末する

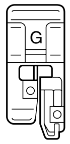
裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で15模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

<G> 押えを使ったたち目かがり

次の３模様を選んだときは、たち目かがり押え <G> を使います。

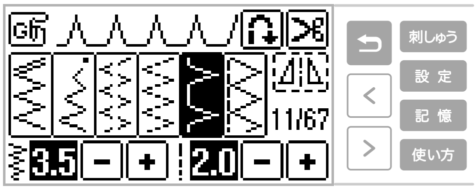
名称	模様	用途	振り幅 自動	振り幅 手動	ぬい目の長さ 自動	ぬい目の長さ 手動	押え
たち目かがり	11	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	G
	12	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5~5.0	2.5		
	13			3.5~5.0			

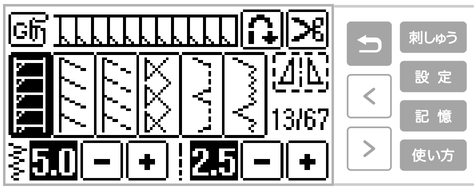
1 たち目かがり押え <G> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

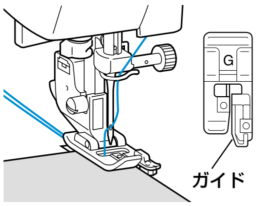
2 模様を選択します。



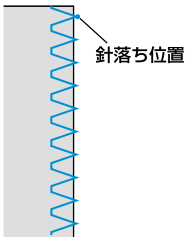


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 押えのガイドと布地の端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布地の端を押えのガイドにそわせてぬいます。



注意

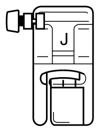
● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

<J> 押えを使ったたち目かがり

次の７模様を選んだときは、ジグザグ押え <J> を使います。

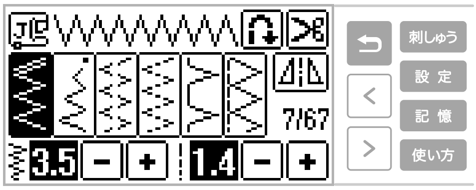
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ［中］	7	通常のほつれ止め（中基線／返しぬい）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
ジグザグ［右］	8	通常のほつれ止め（右基線／止めぬい）		2.5~5.0		0.3~4.0	
2点ジグザグ	9	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	
3点ジグザグ	10						
たち目かがり	14	伸びる布地のほつれ止め		0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	
	15	厚地・伸びる布地のほつれ止め					
	16	伸びる布地のほつれ止め	4.0		4.0	1.0~4.0	

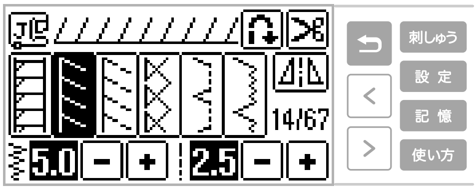
1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

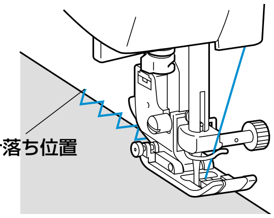
2 模様を選択します。

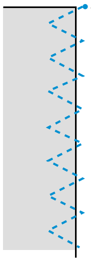




● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 布端より少し外側に針を落としてぬいます。

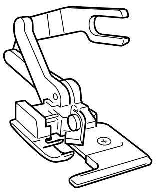




別売のサイドカッター押えを使ったたち目かがり

別売のサイドカッター押えを使って、布地の端を切りながらぬいしろを始末することができます。液晶画面で模様に「S」と表示されている次の５模様から選択します。

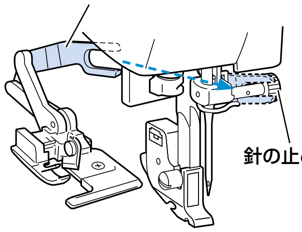
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	63	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0~2.5	2.5	0.2~5.0	S
	64	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5~5.0	1.4	0.0~4.0	
	65	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め			2.0	1.0~4.0	
	66	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0		2.5		
	67	布地を切りながら厚地のほつれ止め					



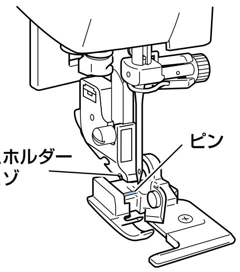
1 押えを外します。

- 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 サイドカッター押えの作動レバーのふたまた部分で、針の止めネジの棒を後ろからはさみます。



3 サイドカッター押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押えを置き、押えレバーをゆっくり下げます。



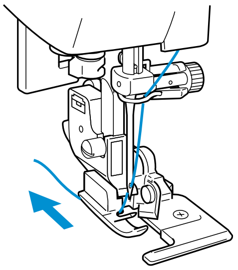
▷ サイドカッター押えが取り付けられます。

4 押えレバーを上げて、サイドカッター押えが取り付けられていることを確認します。

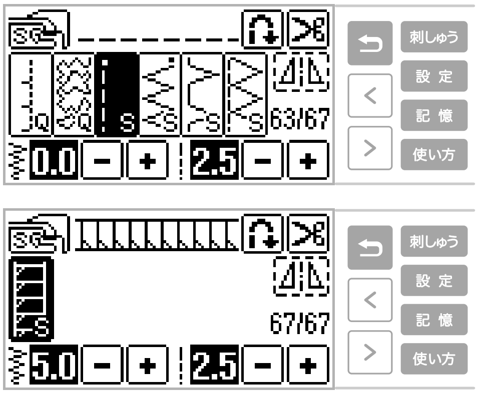
注意

- サイドカッターが取り付けられているときに糸カセットをセットする場合は、必ず押えを下げてください。押えが上がっていると糸通し装置が押えに当たり、故障の原因となります。

5 上糸はサイドカッター押えの下を通して、後ろ側に引き出します。



6 模様を選びます。

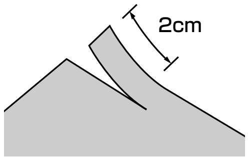


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

⚠ 注意

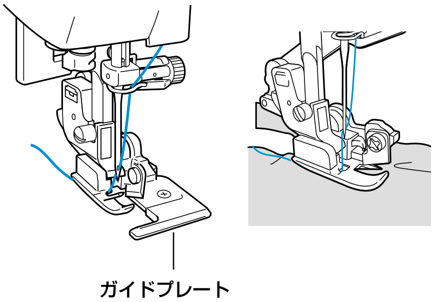
● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

7 布地のぬい始め部分に 2cm の切り込みを入れます。



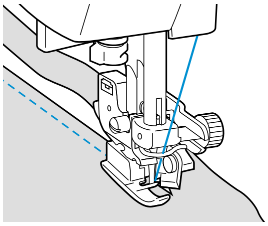
8 布地をセットします。

布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押えのガイドプレートの上に置きます。



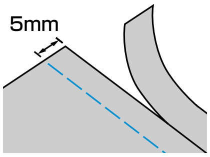
● 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

9 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▷ ぬいしろが裁断されながらぬわれます。

● 模様を直線 63 にしてぬった場合、ぬいしろは約 5mm になります。



お知らせ

● サイドカッター押えで切れる布地の厚さは、13 オンスデニム 1 枚程度までです。
● サイドカッター押えを使ったあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
● 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押えの刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

地ぬいをする

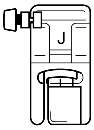
基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の５模様から選択します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
しつけぬい	6	仮止め	0.0	0.0～7.0	–.–	–.–	J
直線［左］	1	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）			2.5	0.2～5.0	
	2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／止めぬい）					
直線［中］	3	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	–	–			
三重ぬい	4	ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0	0.0～7.0		1.5～4.0	

しつけぬい

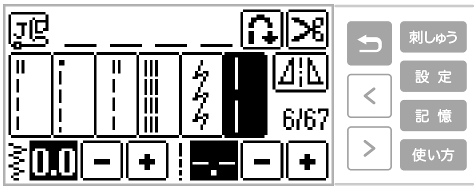
5mm の長さのぬい目でしつけぬいをします。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 模様 6 を選択します。



● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

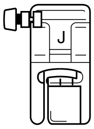
3 ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→ P.47）を参照してください。

地ぬい

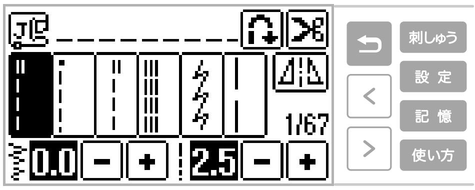
1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様を選択します。



● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

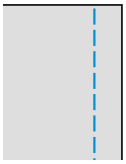
4 プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。

5 ミシンをスタートさせます。

- 「ミシンをスタートさせる」(→P.47) を参照してください。
- 返しぬいをする場合は、「返しぬい／止めぬいをする」(→P.49) を参照してください。

6 ぬい終わったら糸を切ります。

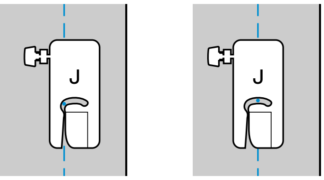
- 「糸を切る」(→P.51) を参照してください。



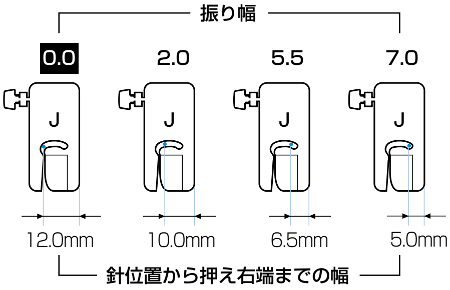
■ 針位置を変えるとき

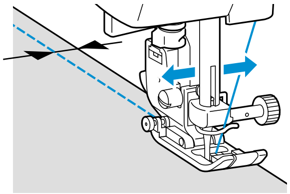
直線［左］と直線［中］は、基線となる針位置が異なります。

直線［左］　　直線［中］



直線［左］は、ジグザグの振り幅が標準の設定（0.0mm）のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更（0.0 ～ 7.0mm）すると、針位置が変えられます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。





- 「模様の幅を調節する」(→P.53) を参照してください。

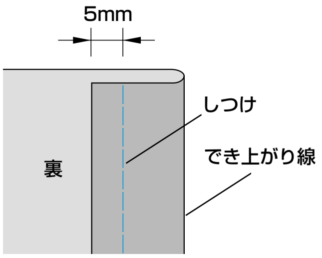
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の２模様から選択します。

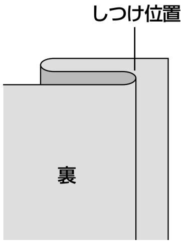
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	17	普通地のまつりぬい	0	3←~3→	2.0	1.0~3.5	R
	18	伸びる布地のまつりぬい					

以下の手順でまつりぬいをします。

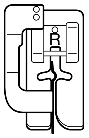
1 ぬいしろをでき上がり線で折り、布端から約 5mm のところにしつけをします。



2 しつけをしたところから折り返し、布地の裏を上側にします。

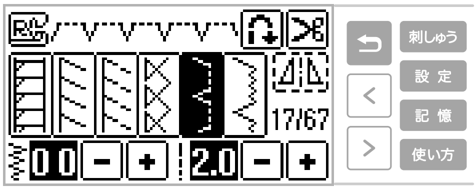


3 まつりぬい押え <R> を取り付けます。



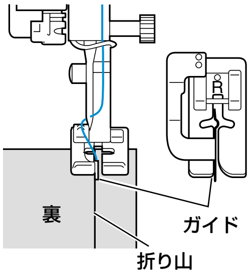
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

4 模様を選択します。

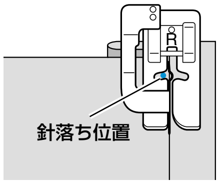


● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

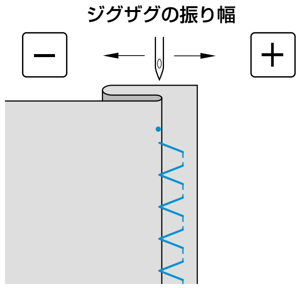
5 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



6 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。

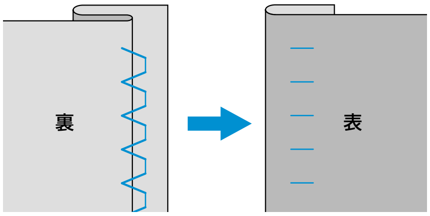


針落ち位置を変更するときは、針を上げてからジグザグの振り幅を変更します。



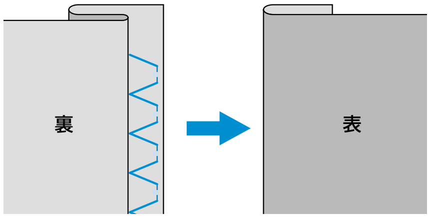
■ **針がかかりすぎているとき**

針が左側にいきすぎています。
振り幅の + を押して、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



■ **針がかかっていないとき**

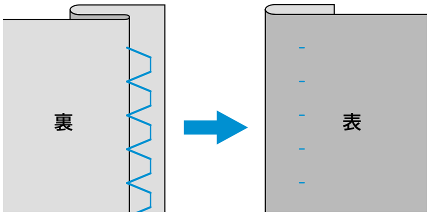
針が右側にいきすぎています。
振り幅の − を押して、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



● 「模様の幅を調節する」（→P.53）を参照してください。

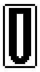
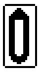
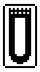
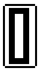
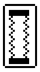
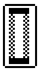
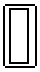
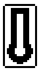
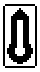
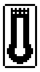
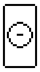
7 折り山に押えのガイドをそわせてぬいます。

8 しつけをほどき、布地を表に返します。



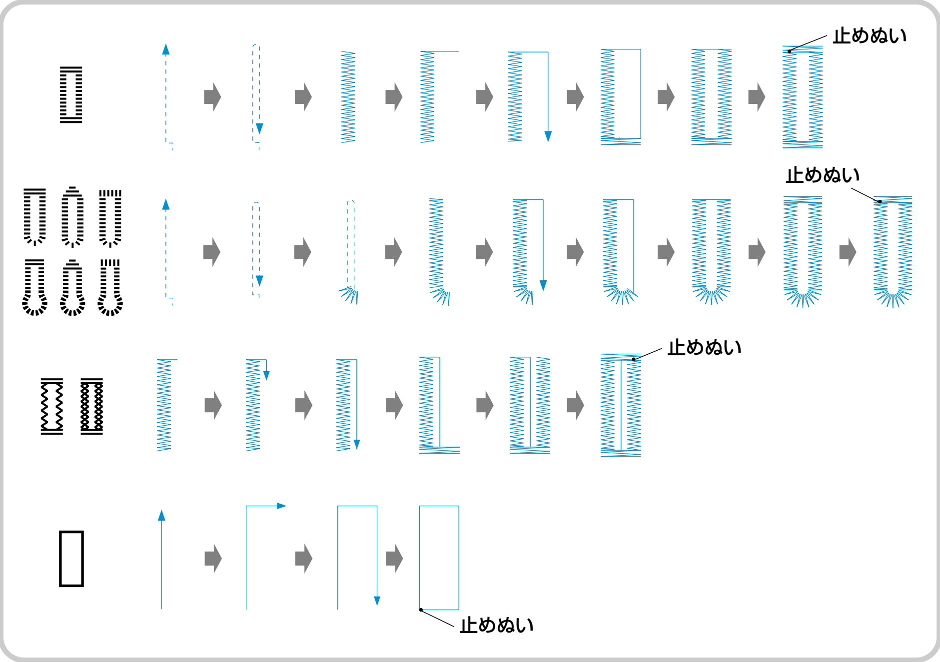
ボタン穴かがりをする／ボタンを付ける

ボタンホールを作ったり、ボタンをぬい付けたりします。次の 10 模様から選択できます。

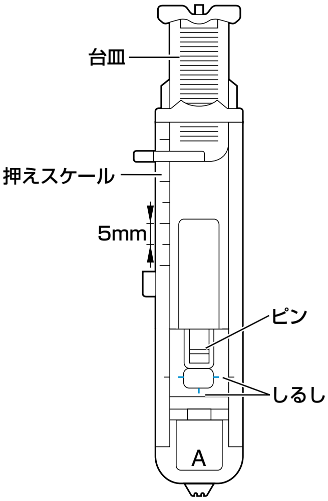
<table>
<tr><th rowspan="2">名称</th><th rowspan="2">模様</th><th rowspan="2">用途</th><th colspan="2">振り幅</th><th colspan="2">ぬい目の長さ</th><th rowspan="2">押え</th></tr>
<tr><th>自動</th><th>手動</th><th>自動</th><th>手動</th></tr>
<tr><td rowspan="10">ボタン穴かがり</td><td>42 </td><td>薄地・普通地のねむり穴、横穴</td><td rowspan="4">5.0</td><td rowspan="4">3.0~5.0</td><td rowspan="4">0.4</td><td rowspan="4">0.2~1.0</td><td rowspan="10">A</td></tr>
<tr><td>43 </td><td>力がかかるところの横穴</td></tr>
<tr><td>44 </td><td>厚地の横穴</td></tr>
<tr><td>45 </td><td>張りのある素材の両止め用</td></tr>
<tr><td>46 </td><td>伸びる布地・編み地用</td><td rowspan="2">6.0</td><td rowspan="2">3.0~6.0</td><td>1.0</td><td>0.5~2.0</td></tr>
<tr><td>47 </td><td>伸びる布地用</td><td>1.5</td><td>1.0~3.0</td></tr>
<tr><td>48 </td><td>玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）</td><td>5.0</td><td>0.0~6.0</td><td>2.0</td><td>0.2~4.0</td></tr>
<tr><td>49 </td><td>厚地・毛足の長い布地のはとめ穴</td><td rowspan="3">7.0</td><td rowspan="3">3.0~7.0</td><td rowspan="3">0.5</td><td rowspan="3">0.3~1.0</td></tr>
<tr><td>50 </td><td>普通地・厚地のはとめ穴</td></tr>
<tr><td>51 </td><td>厚地・毛足の長い布地の横穴</td></tr>
<tr><td>ボタン付け</td><td>55 </td><td>ボタン付け</td><td>3.5</td><td>2.5~4.5</td><td>–</td><td>–</td><td>M</td></tr>
</table>

ボタン穴かがりをする

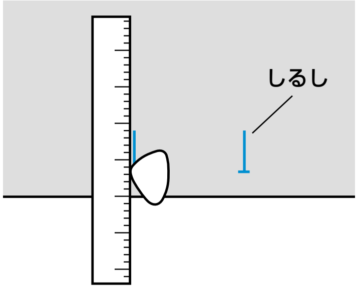
「ボタンの直径＋厚み」が約 30mm 以下のボタン穴が作れます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬわれます。



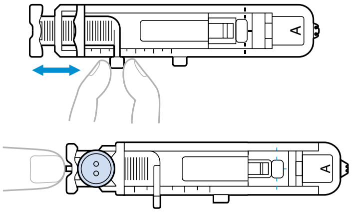
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。



1 ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。

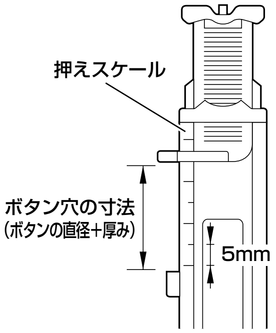


2 ボタン穴かがり押え <A> の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。

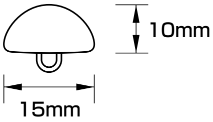


■ **ボタンが台皿にのらないとき**

「ボタンの直径＋厚み」を、押えスケールの目盛り（1目盛り 5mm）に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



例：直径 15mm、厚み 10mm のボタン
→スケールを 25mm に合わせる

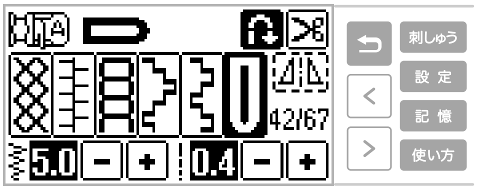


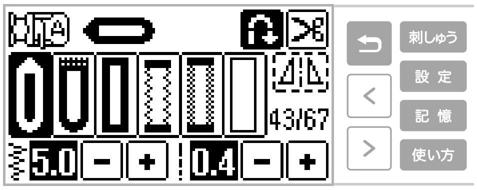
▷ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

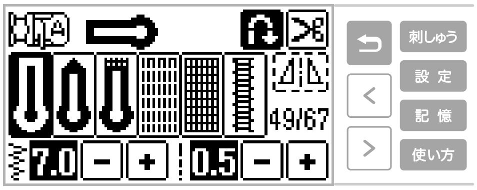
3 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

4 模様を選択します。

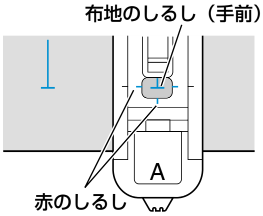






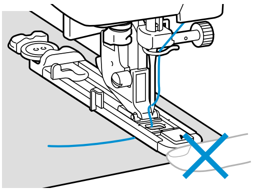
● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

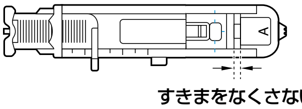
5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



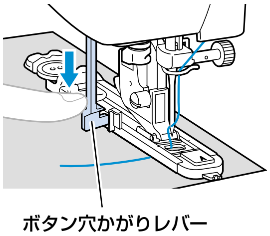
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。（ボタン穴かがりを）正確な大きさにぬえません。

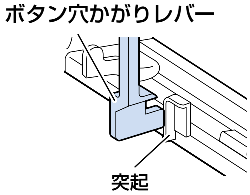




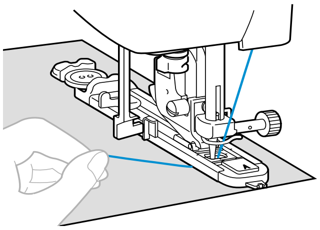
6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

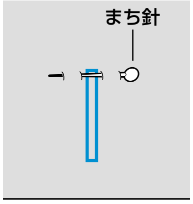


▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

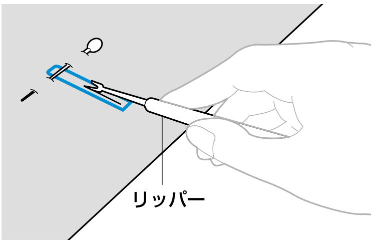
8 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

9 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

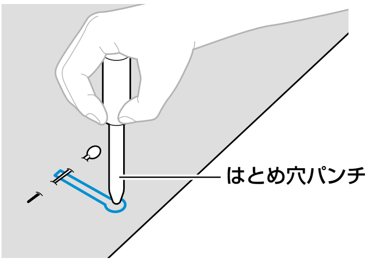
10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



11 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



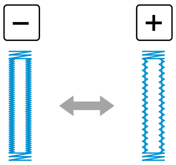
- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください

注意

- **リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。**

■ ぬい目の長さを変えるとき

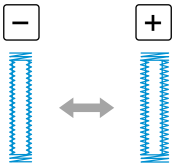
ぬい目の長さを調節します。



- 「ぬい目の長さを調節する」（→P.54）を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目を長くします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



- 「模様の幅を調節する」（→P.53）を参照してください。

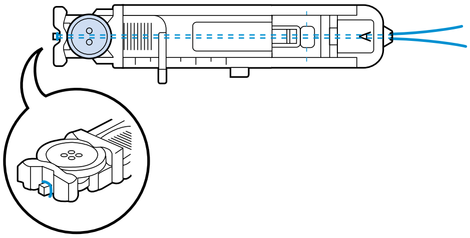
お知らせ

- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

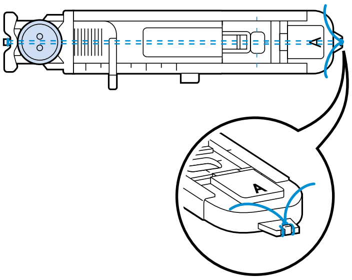
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

① ボタン穴かがり押え <A> の図の部分に芯ひもをかけます。



② 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



③ ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

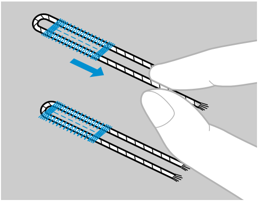
- 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

④ 模様 46 または 47 を選択します。

⑤ 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

⑥ 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

⑦ ぬい終わったら芯ひもを引いてたるみをなくします。



⑧ 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

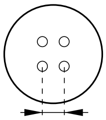
⑨ 付属のリッパーでボタンホールの先に残っている芯ひもの中央を切ります。

残っている芯ひもを取り除きます。

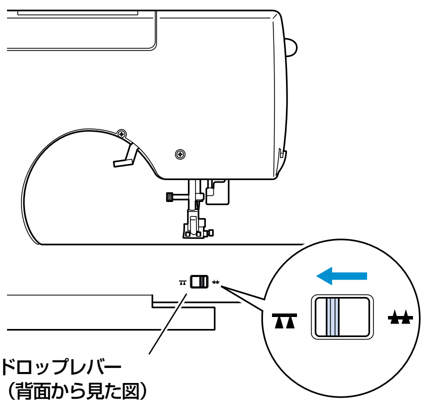
ボタンを付ける

ボタンをぬい付けます。穴が２つまたは４つのボタンが付けられます。

1 ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。

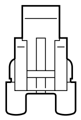


2 押えレバーを上げ、本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（ ）にします。



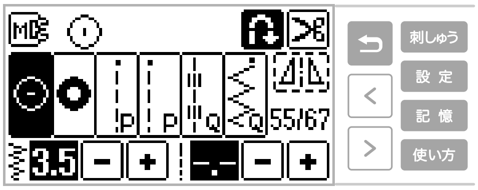
▷ 送り歯が下に下がります。

3 ボタン付け押え <M> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

4 模様 55 を選択します。

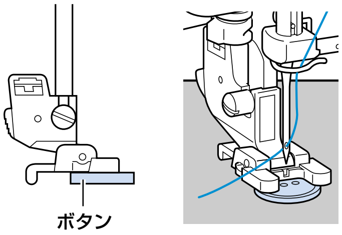


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

● あとで糸端を結ぶので、プログラム糸切りは設定しないでください。

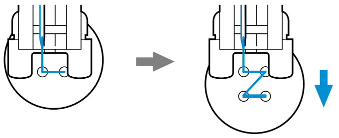
5 ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

6 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。



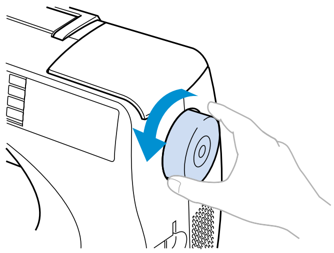
▷ ボタンの位置を固定します。

● 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



7 プーリーを手前に回し、針がボタンにあたらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンにあたりそうな場合は、もう一度ボタン穴の距離を計り直します。

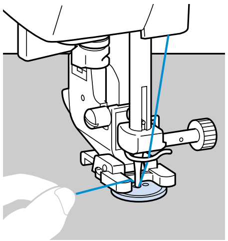


注意

- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

8 **ミシンをスタートさせます。**

スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。

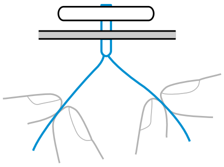


▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

- あとで糸端を結ぶので、糸切りスイッチは使用しないでください。

9 **ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。**

ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切ります。



10 **ボタン付けが終わったらドロップレバーを背面から見て右側（ ）にし、送り歯をもとに戻します。**

ファスナーを付ける

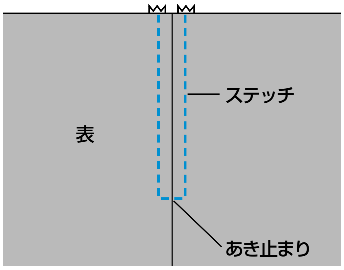
ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
直線［中］	3	ファスナー付け おとしミシンやピンタック	–	–	2.5	0.2~5.0	I

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



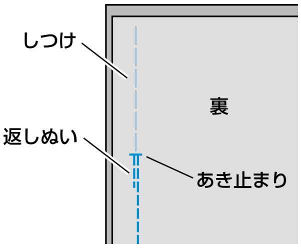
1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

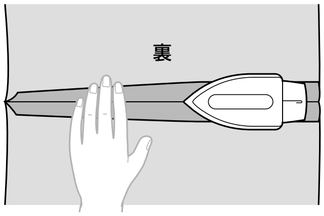
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

● 「地ぬいをする」（→P.66）を参照してください。

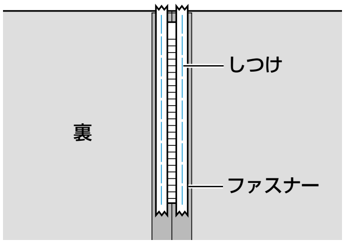
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



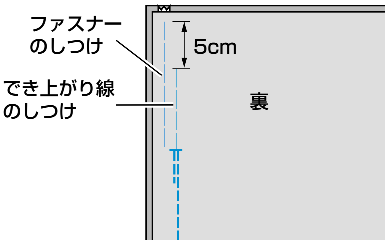
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



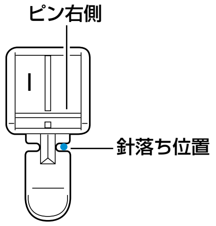
5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



6 でき上がり線のしつけを布端から5cm程度ほどきます。

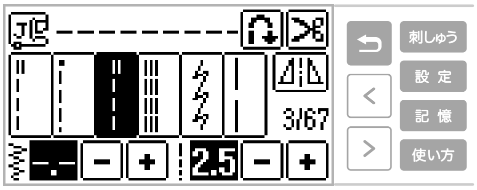


7 片押え <I> のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



- 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

8 模様 3 直線［中］を選択します。



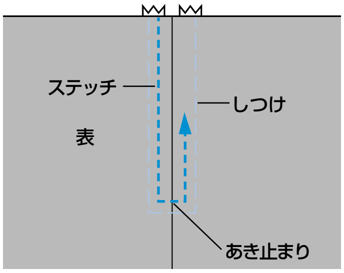
- 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

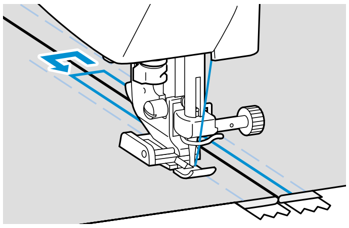
⚠ 注意

- 片押え <I> を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。

ファスナーのスライダーが押えに当たる場合は、スライダーを何回か移動させながらステッチをかけます。





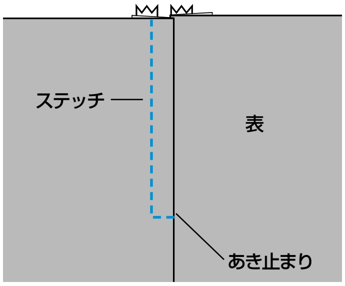
⚠ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

10 しつけをほどきます。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーのときに用います。



ここでは、脇ファスナーの例を説明します。

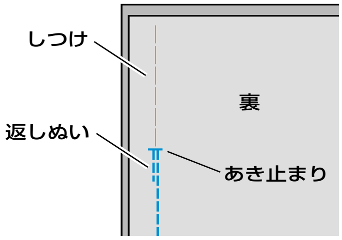
1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

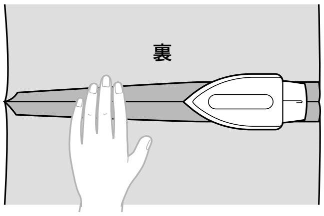
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

● 「地ぬいをする」（→P.66）を参照してください。

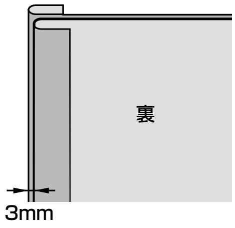
3 ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。



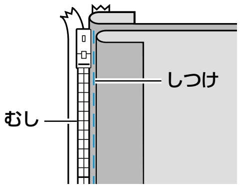
4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



5 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを 3mm 出してアイロンをかけます。

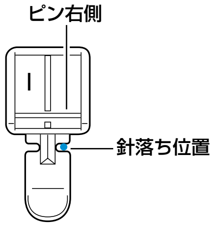


6 3mm 出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で止めます。



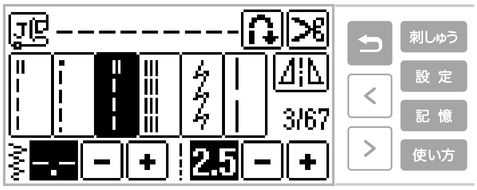
7 片押え <I> のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例とは反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

8 模様 3 直線［中］を選択します。

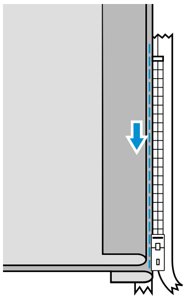


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

注意

● 片押え<I>を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

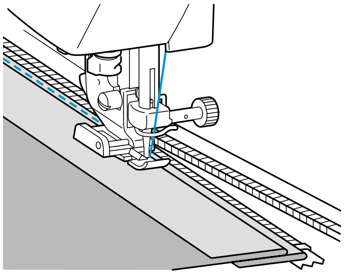


注意

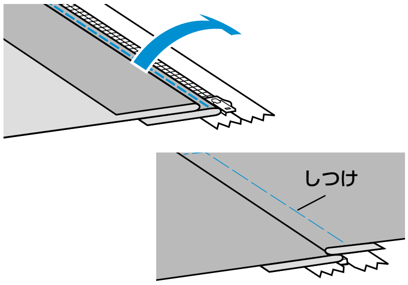
● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

10 残り 5cm ほどまでぬったらいったんミシンを止めて針を下げたまま押えを上げます。

11 ファスナーを開いて続きをぬいます。

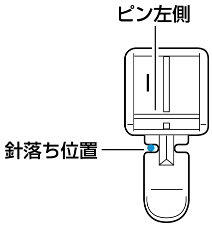


12 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



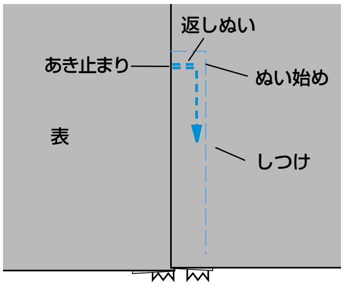
13 片押え <I> のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

7 で右側に付けた場合は、左側に付け替えます。



14 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。

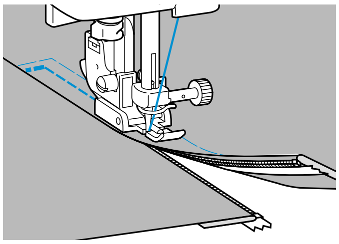


⚠ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

15 残り 5cm ほどまでぬったらいったんミシンを止め、針を下げたまま押えを上げます。

16 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

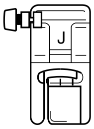
伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	5	伸びる布地	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	J
2点ジグザグ	9	ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	
3点ジグザグ	10						
ゴムひもつけ	28	伸びる布地のゴムテープ付け	4.0	0.0~7.0			

それぞれ以下の点に注意してぬってください。

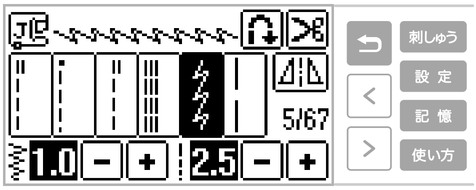
伸縮ぬい

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



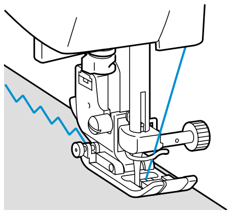
● 「押えを交換する」(→P.39) を参照してください。

2 模様 5 を選択します。



● 「模様を選ぶ」(→P.45) を参照してください。

3 布地を伸ばさないようにぬいます。

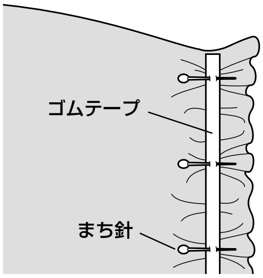


ゴムテープ付け

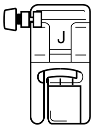
そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合は、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを止めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所止めます。

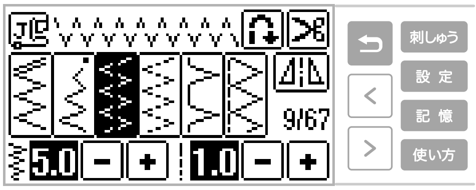


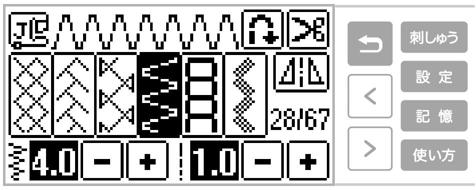
2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」(→P.39)を参照してください。

3 模様を選択します。

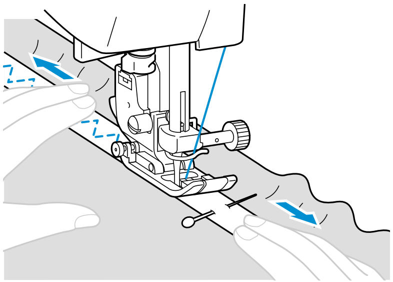


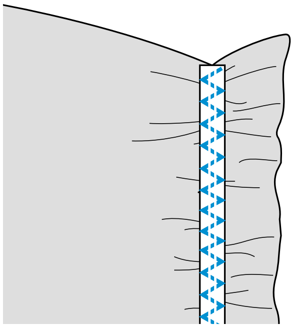


● 「模様を選ぶ」(→P.45)を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。





注意

● ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。

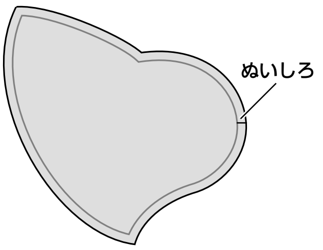
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	7	アップリケ布のぬい付け（中基線／返しぬい）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
	60	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい					
アップリケ	19	アップリケ布のぬい付け		2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	
	61	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	
ピーシング直線	57	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	5.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	
	58	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	2.0				
つき合わせ	22	パッチワーク	4.0		1.2	0.2~4.0	
	23		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
	24			0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
手ぬい風直線	59	手ぬい風キルト直線	0.0		2.5	1.0~4.0	
キルティング模様	62	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6		

お知らせ

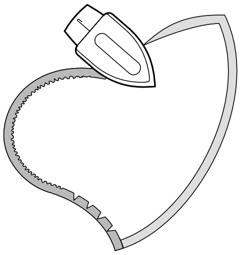
- 液晶画面に「Q」と表示されている模様はキルティング用、「P」はピーシング用の模様です。

アップリケ

1 アップリケ布は3～5mmのぬいしろを付けて裁断します。

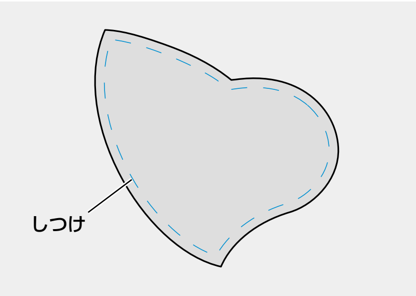


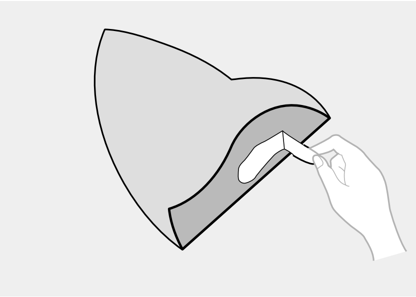
2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。



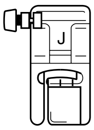
- アイロンで押えた後、厚紙の型紙は取り除きます。

3 アップリケ布を表に返し、土台になる布にしつけまたはのりで止めます。



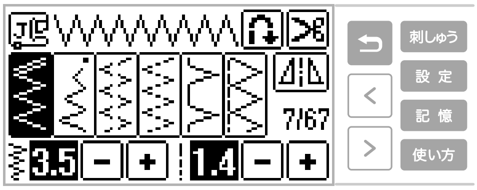


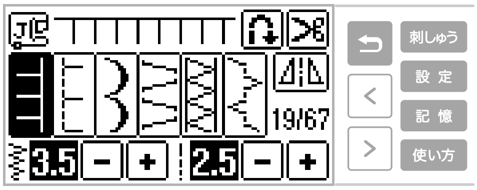
4 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



- 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

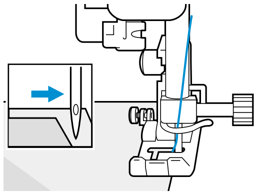
5 模様を選択します。

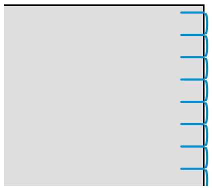




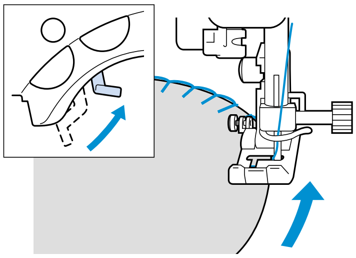
- 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。





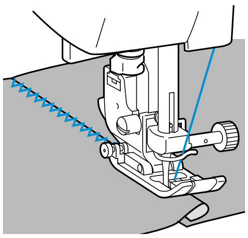
急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。

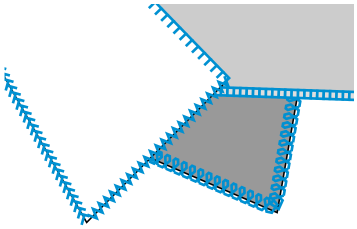


パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



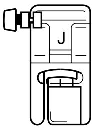


ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布には、すべて7mm のぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mm のところをぬいます。

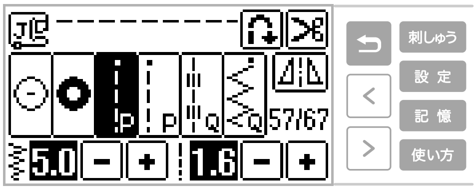
1 ピーシングする布のぬいしろを、しつけまたはまち針で止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 模様 57 または 58 を選択します。



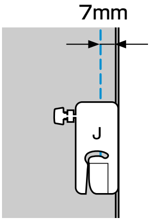
● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

● ピーシング用直線は 、液晶画面に「P」と表示されています。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

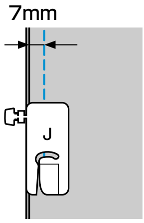
■ **ぬいしろが右の場合**

押えの右端に布端を合わせ、57 の模様でぬいます。



■ ぬいしろが左の場合

押えの左端に布端を合わせ、58 [icon] の模様でぬいます。



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、ジグザグの振り幅を調節します。「模様の幅を調節する」（→P.53）を参照してください。

キルティング

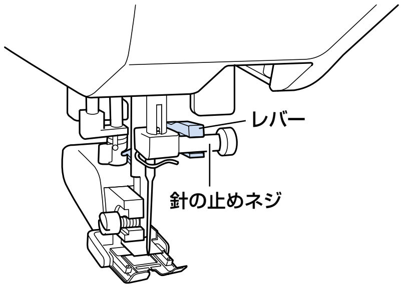
表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

1 キルティングする布をしつけで止めます。

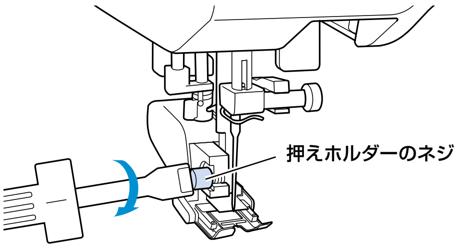
2 押えホルダーを外します。

- 「押えホルダーを外す」（→P.41）を参照してください。

3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針の止めネジの棒をはさみます。



4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



▷ ウォーキングフットが取り付けられました。

いろいろなぬい方

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

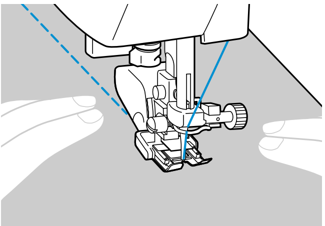
注意

- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

5 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

6 押えの両側に手を置き、布をしっかりと張ってぬいます。

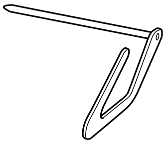


お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- キルティングをするときは、14番の針を使用してください。

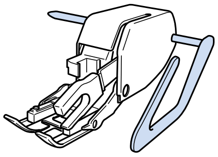
■ キルターを使用する

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

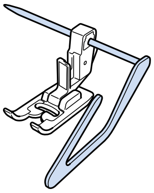


1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

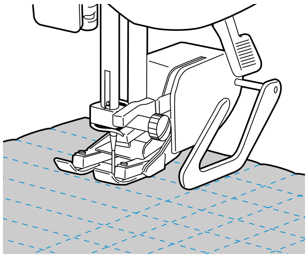
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー

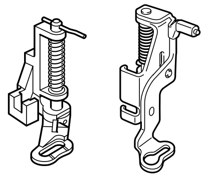


2 ぬい終えたぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地が自由に動かせるようにします。
フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えまたは付属の刺しゅう押え <Q> を使用します。

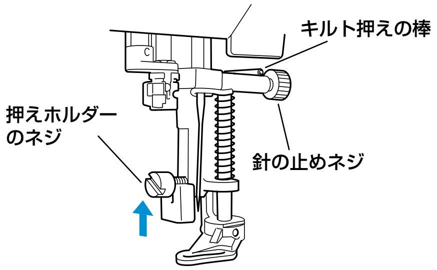


1 **押えと押えホルダーを外します。**

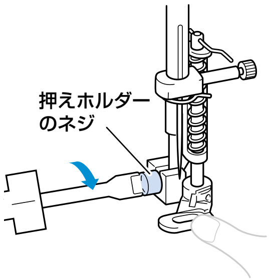
● 「押えホルダーを外す」（→ P.41）を参照してください。

2 **キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。**

キルト押えの棒が、針の止めネジの棒の上になるようにします。

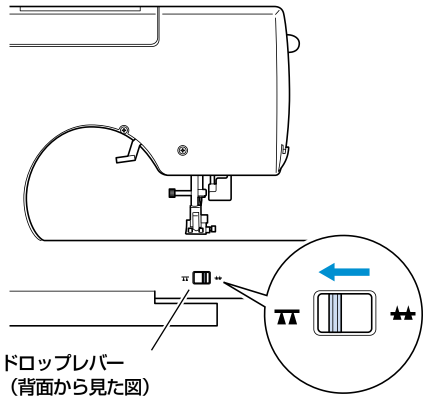


3 **キルト押えを右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。**



> **⚠ 注意**
>
> ● **ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

4 **本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（ ▼▼ ）にします。**



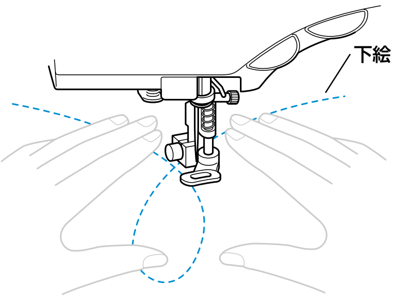
▷ 送り歯が下に下がります。

5 **電源を入れ、模様を選択します。**

● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

6 **両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。**

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



7 ぬい終わったらドロップレバーを背面から見て右側（★★）にし、プーリーを 1 回転させて送り歯をもとに戻します。

● 通常は右側にしておきます。

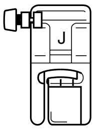
サテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、別売のフットコントローラーで調節します。

1 フットコントローラーを取り付けます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→P.47）を参照してください。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

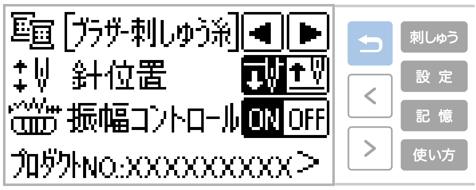
3 電源を入れ、表示パネルの 設 定 を押します。

▷ 設定画面が表示されます。

4 振幅コントロールの ON を押します。

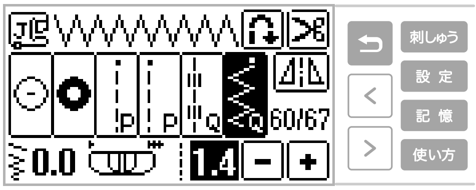
▷ スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅が変更できるようになります。

5 （戻る）を押します。



▷ 最初の画面に戻ります。

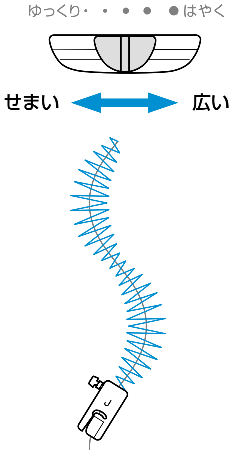
6 模様 60 を選択します。



● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

7 ぬいながらスピードコントロールレバーを動かして振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと振り幅はせまくなり、右に動かすと広くなります。



● ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

8 ぬい終わったら、 振幅コントロールを OFF に戻します。

お知らせ

● ぬい目の長さを0.3〜5mmに設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

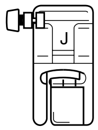
そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4	そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	J
かんどめ	54	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	A
ダーニング	52	普通地のつくろいぬい	7.0	2.5~7.0	2.0	0.4~2.5	A
	53	厚地のつくろいぬい					

三重ぬい

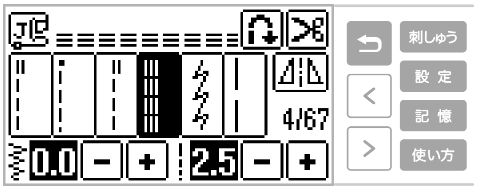
そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 4 を選択します。



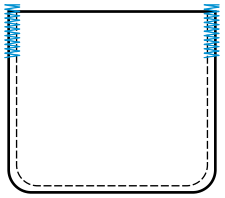
● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→P.47）を参照してください。

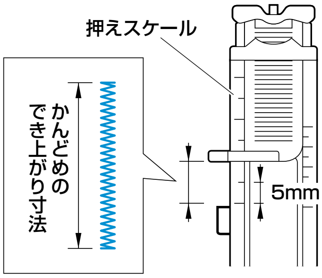
かんどめ

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに用います。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。

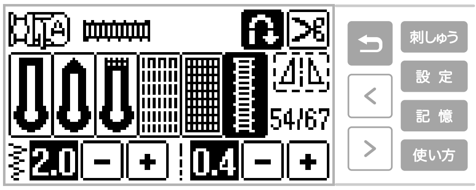


● 最大約 30mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

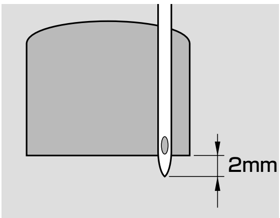
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様 54 を選択します。



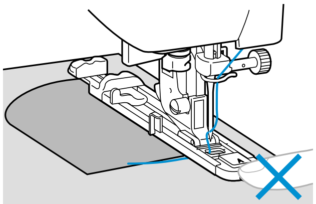
● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

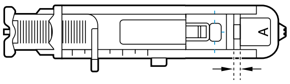
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



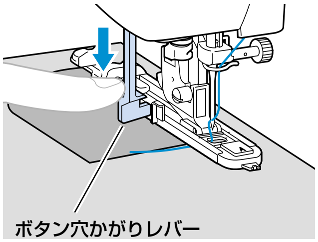
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。正確な大きさにぬえません。

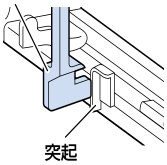




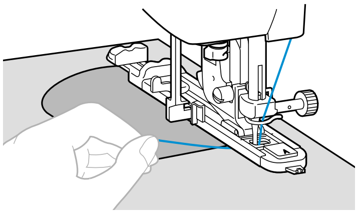
5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

7 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

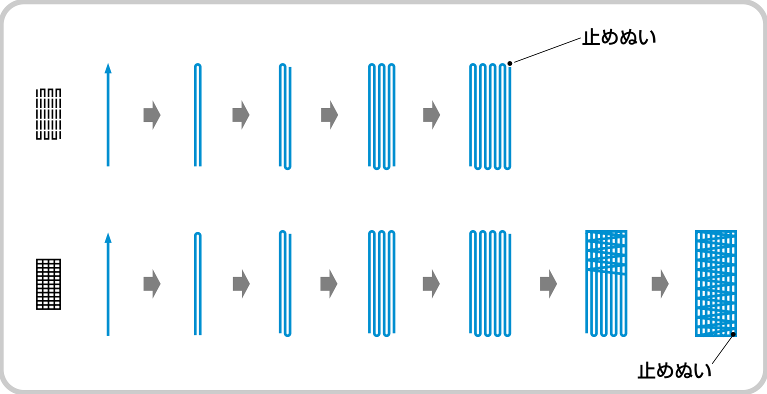
8 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→ P.54）を参照してください。

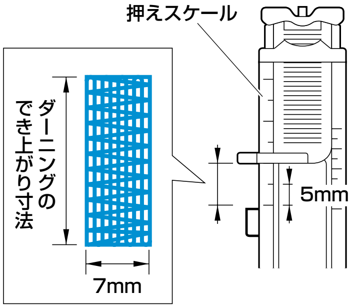
つくろいぬい（ダーニング）

布地がやぶれたときなどに、つくろいぬいをします。
ダーニングは、次の順でぬわれます。



1 つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。

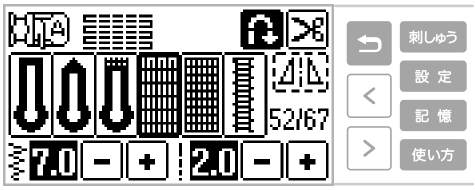


● 最大約 30mm のダーニングができます。

2 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

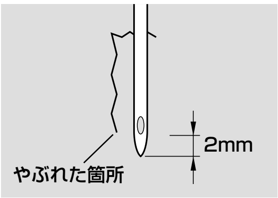
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様 52 または 53 を選択します。



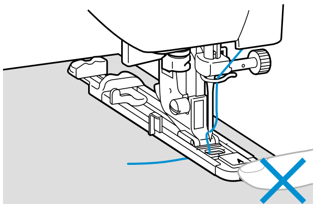
● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

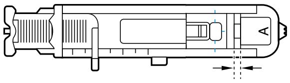
4 やぶれた箇所から 2mm 手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



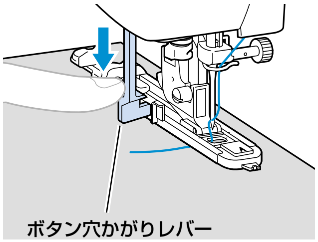
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。正確な大きさにぬえません。

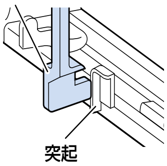




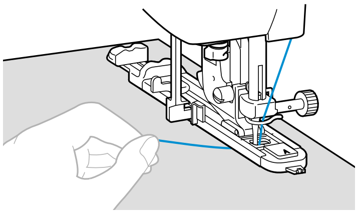
5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

7 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

8 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

お知らせ

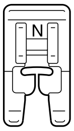
● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→P.54）を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。7mm・6mm・5mmの大きさのはとめ穴ができます。

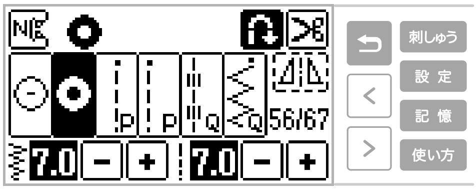
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	56	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0／6.0／5.0	7.0	7.0／6.0／5.0	N

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



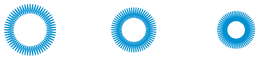
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 56 を選択します。



● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

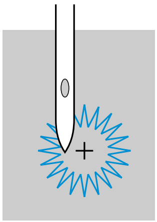
3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのどちらかを調節して、穴の大きさを選びます。



7mm　6mm　5mm

● 「模様の幅と長さを調節する」（→P.53）を参照してください。

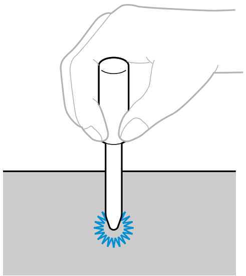
4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



5 ミシンをスタートさせます。

▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。



● はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください

お知らせ

● 細い糸でぬうと、ぬい目があらくなることがあります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅 自動	振り幅 手動	ぬい目の長さ 自動	ぬい目の長さ 手動	押え
ファゴティング	26	布地と布地の間を離してかがる	5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	J
	27			2.5~7.0			
つき合わせ	22	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
	23		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
	24			0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
シェルタック	20	シェルタック	4.0		2.5		
スモッキング	25	スモッキング	5.0		1.6	1.0~4.0	
	26				2.5		
	27			2.5~7.0			
スカラップ	21	サテンスカラップ			0.5	0.1~1.0	N
飾りぬい	33	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5	1.5~7.0	2.5	1.6~4.0	
	34		6.0		3.0	1.5~4.0	
	35	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0		3.5		
	36				4.0		
	37				2.5		
	38				2.0		
	39	ふち飾り、リボン通し、ヘアルームなど			3.0		
	40	ヘアルームなど	6.0		1.6	1.0~4.0	
	41		5.0				

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
飾りぬい	29	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	J
	30				2.5	1.0~4.0	
	31		5.5	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	
	32		5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	N

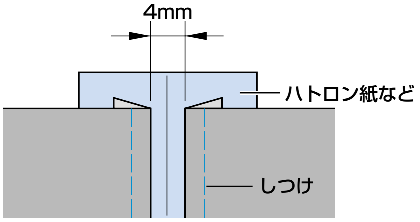
ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに用います。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

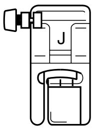
1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙に 4mm の間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。

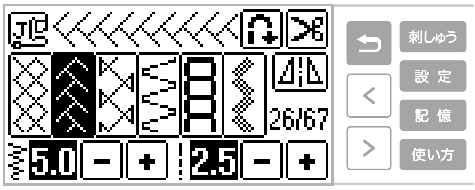


3 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

4 模様 26 または 27 を選択します。

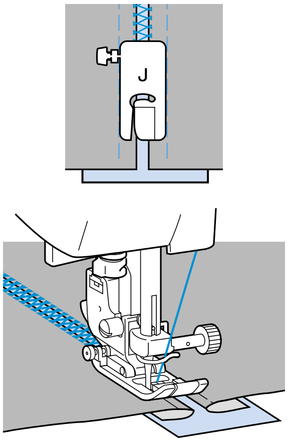


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を7mmに設定します。

● 「模様の幅を調節する」（→P.53）を参照してください。

6 押えの中心を布と布の中心に合わせてぬいます。

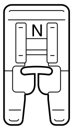


7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スカラップ

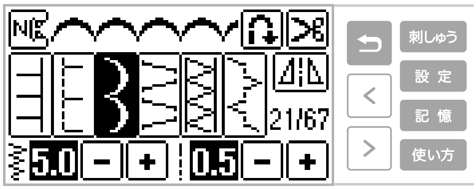
貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに用います。

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



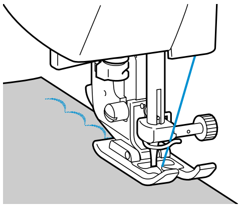
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 21 を選択します。



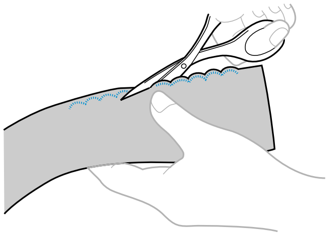
● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



● ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 ぬい目にそって布端を切ります。

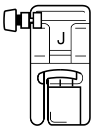


● 糸を切らないように注意してください。

スモッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



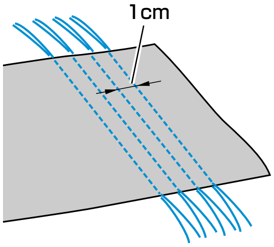
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 直線を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、上糸調子を弱めにします。

● 「ぬい目の長さを調節する」（→P.54）、「上糸の調子を変更する」（→P.52）を参照してください。

● 下糸は上に引き出しておきます。「下糸を引き出してからぬうとき」（→P.33）を参照してください。

3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。

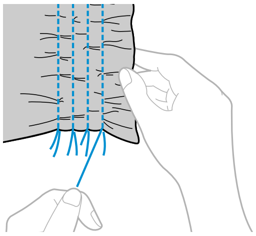


● 返しぬいと糸切りはしないでください。

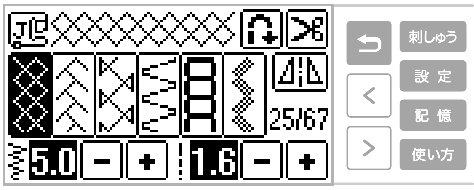
● ぬい終わりは、糸を5cmほど引き出して切ります。

4 **下糸を引いてギャザーを寄せます。**

アイロンでギャザーを整えておきます。

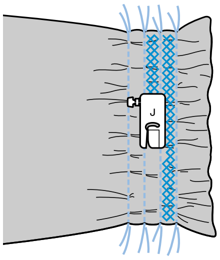


5 **模様 25 または 26 、27 を選択します。**

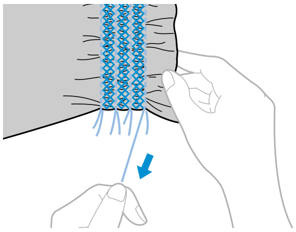


● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

6 **直線ぬいの間をぬいます。**



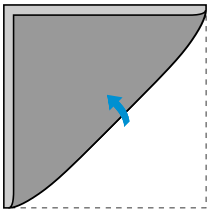
7 **直線ぬいの糸を抜き取ります。**



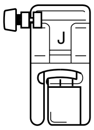
シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに用います。薄地の布地を使用します。

1 **布地をバイアスに折ります。**

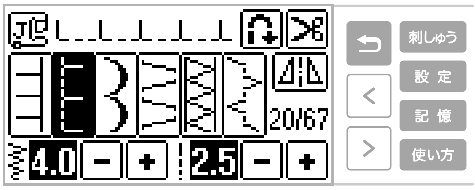


2 **ジグザグ押え <J> を取り付けます。**



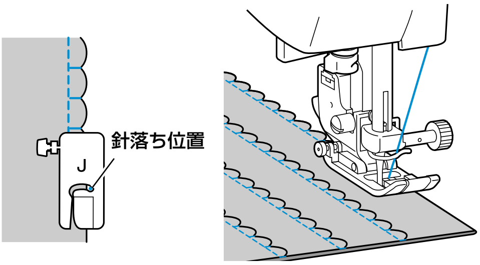
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 **模様 20 を選択し、上糸を強めにします。**

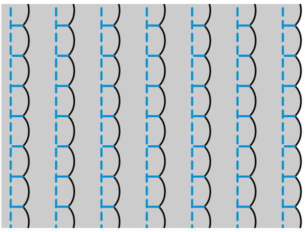


● 「模様を選ぶ」（→ P.45）、「上糸の調子を変更する」（→P.52）を参照してください。

4 **針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。**



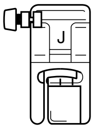
5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。



つき合わせ

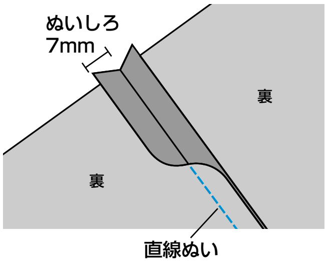
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

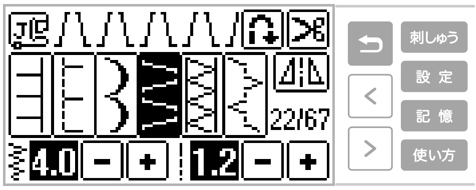


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

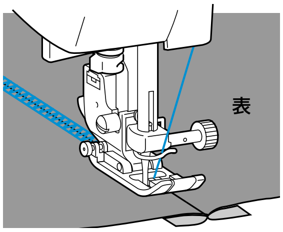


3 模様 22 または 23 、24 を選択します。



● 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

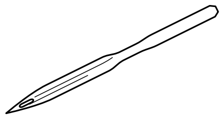
4 布地を表に返し、押えの中心と布と布の中心を合わせてぬいます。



ヘアルーム

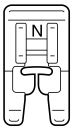
別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに用います。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。



- ウィングニードルは、130/705H 100/16（部品コード：XC1301-002）を使用してください。
- 針の取り付け方は、「針を交換する」（→P.36）を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。「手で針に糸を通すとき」（→P.32）を参照してください。

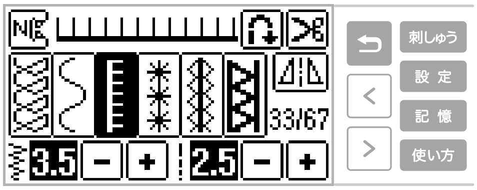
2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

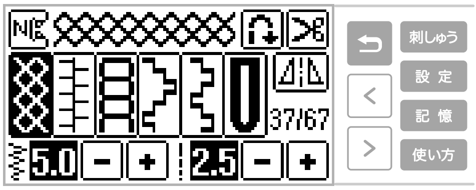


- 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 模様を選択します。

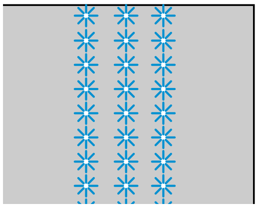
模様は 33 、34 、35 、36 、37 、38 、39 、40 、41 が適しています。





- 「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。
- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅を、6.0mm以下に設定してください。

4 ミシンをスタートさせます。



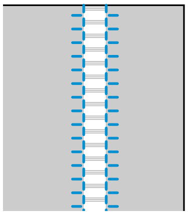
注 意

- **ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**
- **ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

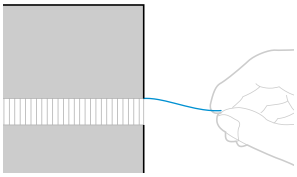
ヘアルームの一種で部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布を使うと、きれいに仕上がります。
ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

■ ドロンワーク（例 1）

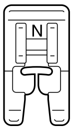
模様を左右反転させて、２回ぬいます。



① 布地の織り糸を数本抜き取ります。

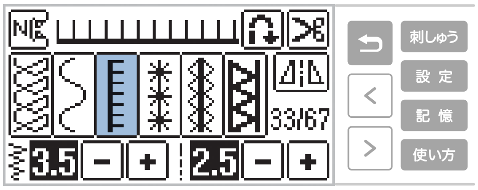


② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



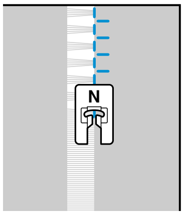
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

③ 模様 33 を選択します。



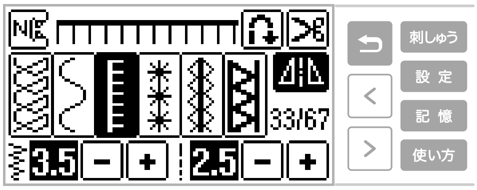
● 「模様を選ぶ」（→ P.45）を参照してください。

④ 布地の表から織り糸を抜いた右端をぬいます。

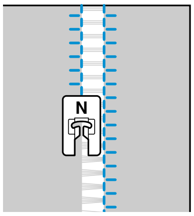


⑤ 液晶画面の を押します。

▷ 模様が反転します。

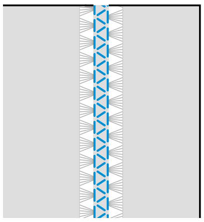


⑥ 模様が対照になるように、反対側をぬいます。

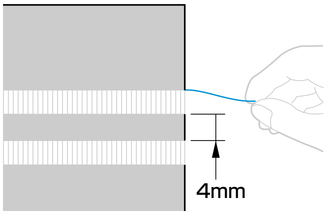


⑦ 液晶画面の を押し、模様の反転をOFF に戻します。

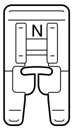
■ ドロンワーク（例2）



① 布地の織り糸を数本抜き取り、約4mmの間隔をあけて、同様に抜き取ります。

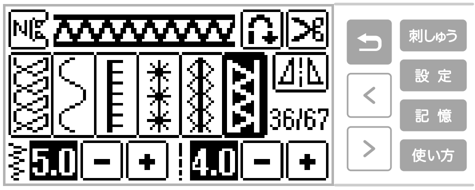


② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



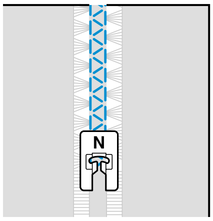
●「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

③ 模様 36 選択します。



●「模様を選ぶ」（→P.45）を参照してください。

④ 抜き取った間の布地の中心をぬいます。



4 刺しゅう

ここでは、刺しゅうの手順を説明します。

きれいに刺しゅうをするには 106

刺しゅう押えを取り付ける 109

刺しゅう機を取り付ける 112

布地を用意する 116

刺しゅう枠を取り付ける 120

刺しゅう模様を選びましょう 122

刺しゅうをしてみましょう 130

こんなとき 134

きれいに刺しゅうをするには

ここでは、刺しゅうをする前に必要なことを説明します。

用意するもの

刺しゅうをするときは、以下のものが必要です。

■ 布地

刺しゅうする布地を用意します。ぬいたい模様の大きさに合わせて、刺しゅう枠より少し大きめの布地を用意します。

お願い

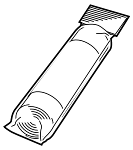
- 薄地や伸びる布地など、ぬいにくい布地には、あらかじめブラザー専用接着芯を貼ってください。
- 大きな布地に刺しゅうするときは、ミシンを置いたテーブルから布地が垂れ下がらないようにしてください。布地が垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなり、模様くずれの原因となります。

注意

- **刺しゅうができる布地の厚さは、布地を張った刺しゅう枠をミシンにセットし、針上下スイッチを押して針を上げたときに、布地と押えにすきまができるものまでです。それ以上の厚さのものをぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**
- **刺しゅうを重ねると、針が布地に刺さりにくくなり、針が折れたり、曲がったりするおそれがありますので、ご注意ください。**

■ 接着芯

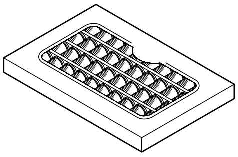
ぬい縮みや模様がくずれることを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



接着芯は、別売のブラザー専用刺しゅう用接着芯をおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートをご使用ください。「別売オプション」（→P.160）を参照してください。

■ 刺しゅう糸

上糸は、別売のブラザー専用刺しゅう糸（ウルトラポス）、またはカントリー刺しゅう糸を使用してください。



下糸は、別売のブラザー専用刺しゅう下糸を使用してください。「別売オプション」（→P.160）を参照してください。

お願い

- 上記以外の糸を使用すると、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
- ぬい始める前には、下糸の残量を確認してください。下糸が少ない状態で刺しゅうを続けると、糸がらみなどが起きる場合があります。

お知らせ

- 刺しゅう糸をセットする糸カセットは、2個付属しています。刺しゅうをしている間に、もう1つの糸カセットに次の刺しゅう糸をセットしておくと便利です。

■ 針

家庭用ミシン針（HA × 1）の11番を使用します。デニム地などの厚地をぬう場合は、家庭用ミシン針（HA × 1）の14番を使用してください。

注意

- **ブラザーゴールデン針は、模様ぬいや伸びる布地など、目とびしやすい布地用の針ですので、刺しゅうぬいには絶対に使用しないでください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

■ その他

別売オプションとして、刺しゅう枠［S］［L］などを用意しています。詳細は、「別売オプション」（→ P.160）を参照してください。

刺しゅうの手順

刺しゅうをするときの基本の手順は次のとおりです。

1　押えの取り付け	刺しゅう押え<Q>を取り付けます。 「刺しゅう押えを取り付ける」（→次ページ）で説明します。

⇩

2　針の取り付け	刺しゅう用の針を取り付けます。 「針を交換するには」（→P.35）を参照してください。

⇩

3　刺しゅう機の取り付け	刺しゅう機を取り付けます。 「刺しゅう機を取り付ける」（→P.112）で説明します。

⇩

4　下糸のセット	刺しゅう用の下糸をボビンに巻いてセットします。 「下糸をセットしましょう」（→P.20）を参照してください。

⇩

5　布地の用意	布地に接着芯を貼り、刺しゅう枠に張ります。 「布地を用意する」（→P.116）で説明します。

⇩

6　刺しゅう枠の取り付け	刺しゅう機に刺しゅう枠を取り付けます。 「刺しゅう枠を取り付ける」（→P.120）で説明します。

⇩

7　模様の選択	電源を入れて、刺しゅう模様を選びます。 「刺しゅう模様を選びましょう」（→P.122）で説明します。

⇩

8　レイアウトの確認	刺しゅうの大きさや位置を確認して調節します。 「レイアウトを調節する」（→P.134）で説明します。

⇩

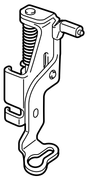
9　刺しゅう糸のセット	模様に合わせて刺しゅう糸をセットします。 糸のセットの手順は「上糸をセットしましょう」（→P.26）を参照してください。

刺しゅう押えを取り付ける

刺しゅう押えの取り付け方を説明します。

刺しゅう押えの取り付け

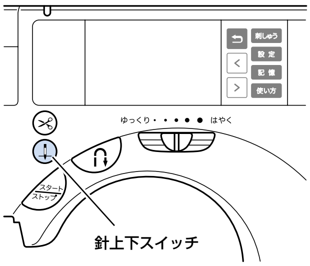
刺しゅうをするときは、刺しゅう押えを取り付けます。付属の刺しゅう押え<Q>とドライバーを用意します。



⚠ 注意

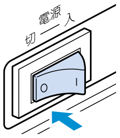
- 刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう押え <Q> を使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。



▷ 針が上に上がります。

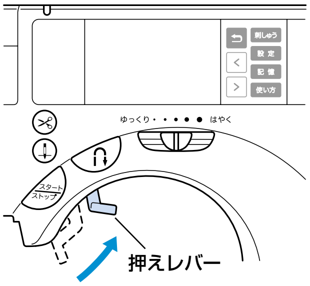
2 電源を切ります。



⚠ 注意

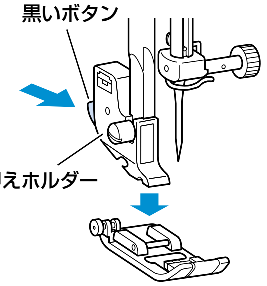
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを上げます。



▷ 押えが上がります。

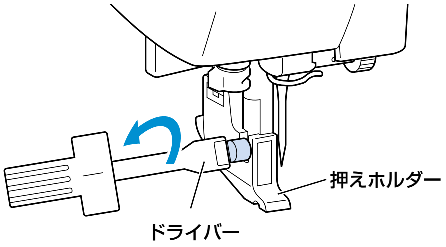
4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押して押えを外します。



▷ 押えが押えホルダーから外れます。

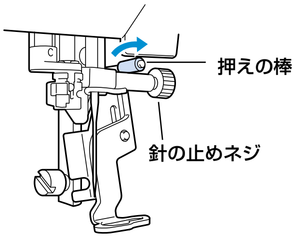
5 押えホルダーのネジをゆるめて押えホルダーを外します。

ドライバーを奥側に回します。



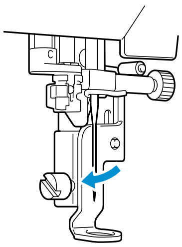
▷ 押えホルダーが外れます。

6 刺しゅう押えの棒を針の止めネジの棒の上にかけます。



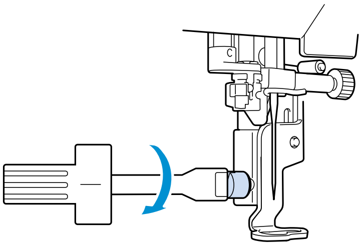
7 刺しゅう押えを押えホルダーのネジにはめます。

刺しゅう押えが垂直になるようにします。



8 押えホルダーのネジをしめます。

ドライバーを手前に回します。

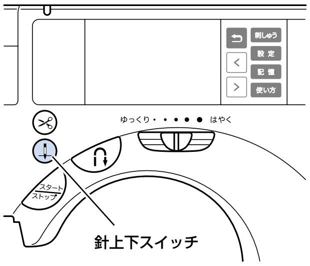


注意

- 刺しゅう押え <Q> を取り付けるときは、指や刺しゅう押えが針に当たらないようにしてください。針が折れたり、ケガの原因となります。
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

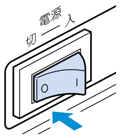
刺しゅう押えの取り外し

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。

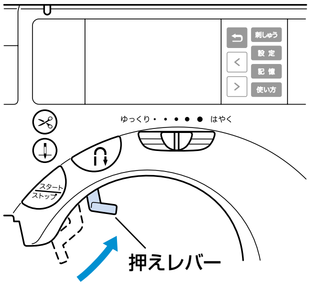


▷ 針が上に上がります。

2 電源を切ります。



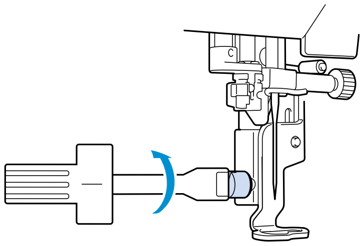
3 押えレバーを上げます。



▷ 押えが上がります。

4 押えホルダーのネジをゆるめ、刺しゅう押え <Q> を外します。

ドライバーを奥側に回します。



5 押えホルダーを取り付けます。

● 「押えホルダーを取り付けるとき」（→ P.41）を参照してください。

刺しゅう機を取り付ける

刺しゅうをするときは、刺しゅう機を取り付けます。

刺しゅう機に関する注意

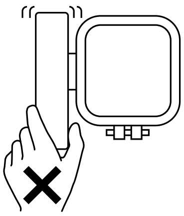
刺しゅう機について気をつけなければいけないことを説明します。

注意

- **刺しゅう機を本体に取り付けたまま、持ち運ばないでください。刺しゅう機が落下するおそれがあり、ケガの原因となります。**
- **刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。**

お願い

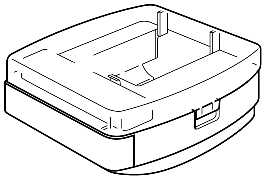
- 本体の刺しゅう機差し込み口にあるコネクタをさわらないでください。コネクタピンが破損し、故障の原因となることがあります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って持ち上げたり、無理に動かしたりしないでください。故障の原因となります。



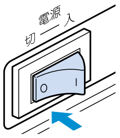
- 刺しゅう機は、カバーを取り付けて保管してください。

刺しゅう機の取り付け

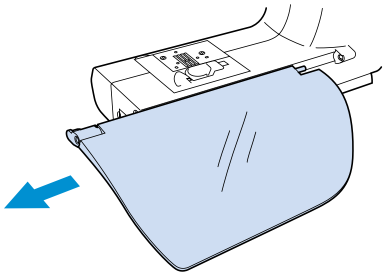
付属の刺しゅう機を用意します。



1 電源を切ります。



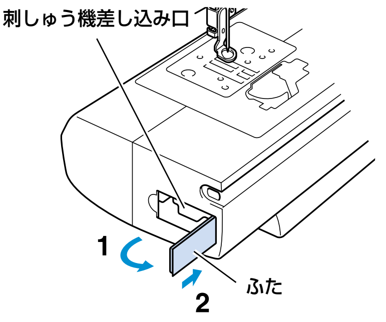
2 フラップを左にずらして、取り外します。



▷ フリーアームの状態になります。

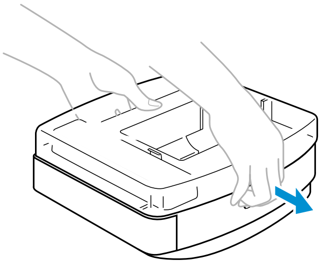
3 ミシン本体アーム左側面の刺しゅう機差し込み口のふたを開けます。

ふたを手前に引いてから奥に押し込みます。



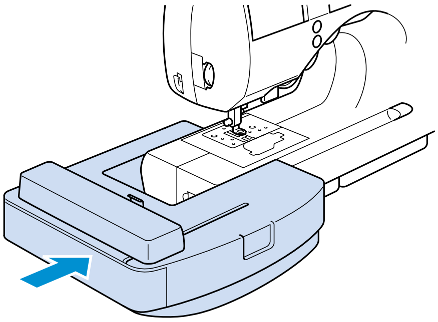
4 刺しゅう機のカバーを外します。

カバー横のツメの部分を広げながら、上に持ち上げて外します。



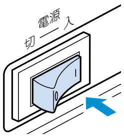
5 ミシン本体のアーム部分に刺しゅう機を差し込みます。

「カチッ」と止まるまで差し込みます。



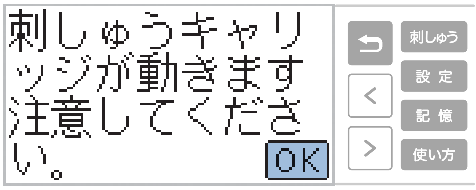
▷ 刺しゅう機が取り付けられます。

6 電源を入れます。

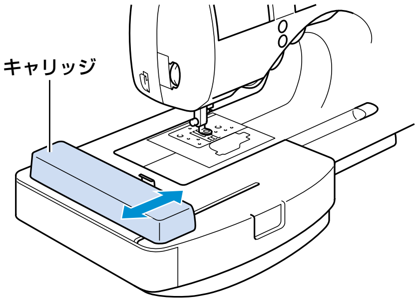


▷ 液晶画面にメッセージが表示されます。

7 刺しゅう機の近くにものや手を置いていないことを確認し、液晶画面の OK を押します。



▷ 刺しゅう機のキャリッジが初期位置に移動します。



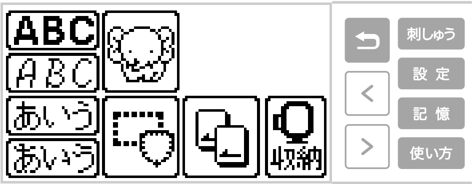
注意

● **キャリッジに手や物を近づけないでください。ケガの原因となります。**

お願い

● 手や物がキャリッジの近くにある状態で初期設定行うと、液晶画面が初期表示に戻ることがあります。その場合は、キャリッジの近くにあるものを取り除いてから、電源を入れ直してください。

▷ 刺しゅう模様のグループを選択する画面が表示されます。



● 刺しゅう模様については、「刺しゅう模様を選びましょう」（→P.122）で説明します。

お知らせ

● 刺しゅう機が取り付けられているときは、実用模様は選択できません。

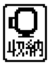
刺しゅう機の取り外し

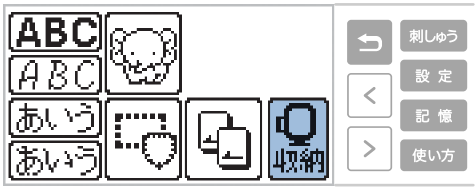
刺しゅう枠を取り外してから、刺しゅう機を取り外します。

1 ミシンが止まっていることを確認します。

2 刺しゅう枠を外します。

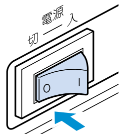
● 「刺しゅう枠の取り外し方」（→P.121）で説明します。

3 液晶画面の  を押します。



▷ 刺しゅう機のキャリッジが移動し、収納できる状態になります。

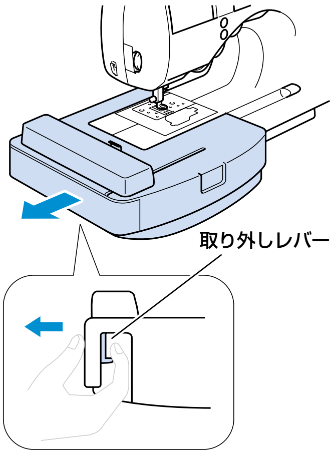
4 電源を切ります。



注意

● **必ず電源を切ってから刺しゅう機を取り外してください。故障の原因となります。**

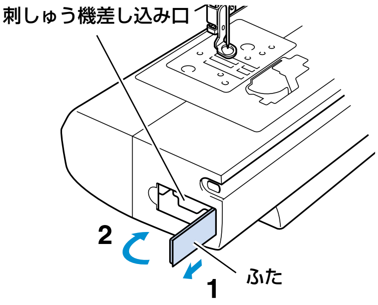
5 刺しゅう機底面の左側にある取り外しレバーを持って、刺しゅう機をゆっくりと左に引きます。



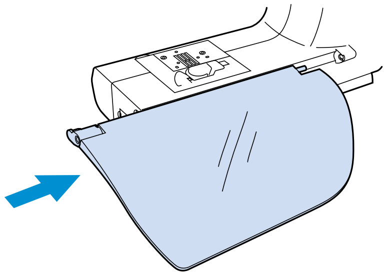
▷ 本体から刺しゅう機が外れます。

6 ミシン本体の刺しゅう機差し込み口のふたをしめます。

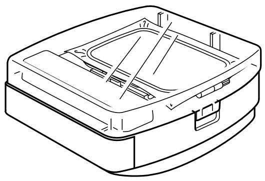
ふたを引き出してから、「パチッ」としめます。



7 フラップをもとに戻します。



8 刺しゅう機にカバーを取り付けて収納します。



お知らせ

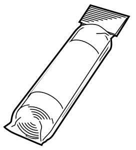
- 刺しゅう枠［M］、または別売の刺しゅう枠［S］は、刺しゅう機に取り付けたまま収納ができます。

布地を用意する

刺しゅうする布地に接着芯を貼ってから、刺しゅう枠に張ります。

布地に接着芯を貼る

ぬい縮みや模様がくずれることを防ぎ、刺しゅうをきれいに仕上げるために、布地に刺しゅう用接着芯を貼ります。



お知らせ

- 接着芯は、別売のブラザー専用刺しゅう用接着芯をおすすめします。オーガンジーなどの薄い素材や、タオルなどの起毛している布地には、水で溶ける水溶性シートをご使用ください。「別売オプション」（→P.160）を参照してください。

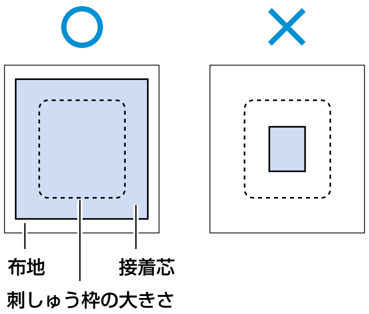
お願い

- 伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ってください。

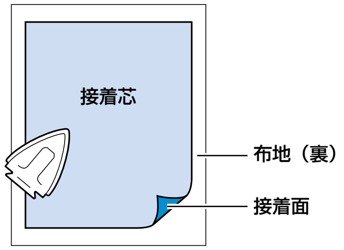
注 意

- **刺しゅうをするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。特に、薄地や伸びる布地の場合に接着芯を使用せずに刺しゅうをすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また模様くずれの原因にもなります。**

1 使用する刺しゅう枠より大きめに刺しゅう用接着芯を用意します。



2 布地の裏に接着芯の接着面をあて、スチームアイロンをかけて貼ります。



□ **アイロンがけができないとき**

タオルなどのアイロンがかけられない布地や、アイロンがかけられないところに刺しゅうをするときは、布地の下に接着芯を置いて、接着せずに刺しゅう枠に張ります。

お願い

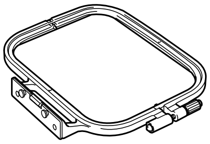
- 刺しゅうが完成したら、接着芯はやぶって取り除いて下さい。

布地を刺しゅう枠に張る

布地を刺しゅう枠に張ります。布地の張り方がゆるいと、ぬい縮みや模様がくずれることがあります。以下の手順に従って、たるみがないように布地を張ってください。
接着芯を貼った布地と、付属の刺しゅう枠［M］または別売の刺しゅう枠［S］［L］を用意します。

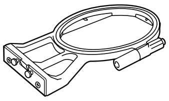
■ 刺しゅう枠［M］

縦 10 ×横 10cm までの模様がぬえます。



■ 刺しゅう枠［S］（別売）

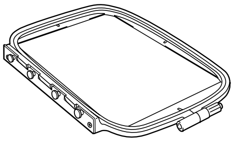
縦2×横6cmまでの模様がぬえます。文字などの小さな刺しゅうをするときに使用します。



- 模様によって、刺しゅう枠［S］が使用できないことがあります。

■ 刺しゅう枠［L］（別売）

縦 17 ×横 10cm までの範囲で刺しゅうができます。布地を張り替えずに複数の模様を刺しゅうするときに使用します。

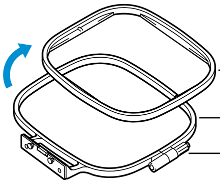


注意

- **刺しゅう枠は、刺しゅうする模様の大きさに合わせて使用してください。誤った大きさの刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えにあたり、ケガや針折れの原因となります。**

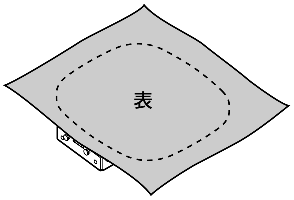
1 刺しゅう枠の調節ネジをゆるめて内枠と外枠を外し、平らなところに外枠を置きます。

内枠が上に外れる方が上になります。



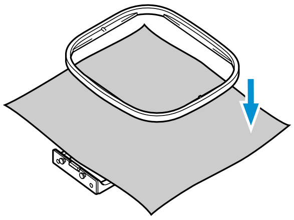
2 外枠の上に接着芯を貼った布地を置きます。

布地の表を上にします。



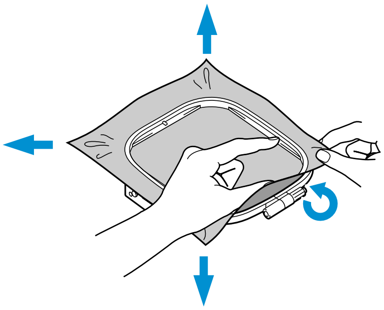
3 布地の上から内枠をはめます。

※ 必ず内枠の△印と外枠の▽印を合わせてください。

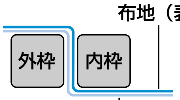


4 調節ネジをしめます。

布地にたるみがないようにし、内枠を押さえながら布地を引っ張ります。

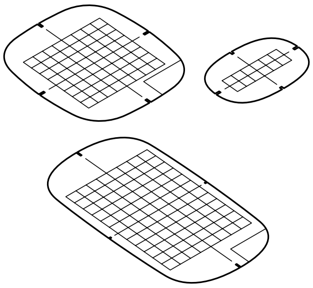


外枠と内枠が同じ高さになるようにして調節ネジをしっかりとしめます。

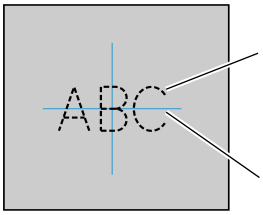


■ 刺しゅうシートの使い方

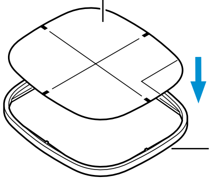
刺しゅう枠に付属している刺しゅうシートを使うと、布地の正確な位置に刺しゅうができます。



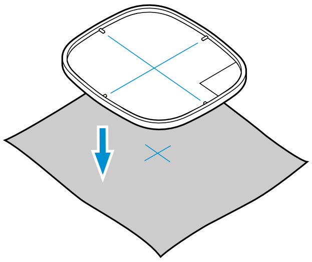
① **刺しゅうする中心位置にチャコペンでしるしを付けます。**



② **内枠の上に刺しゅうシートをのせます。**



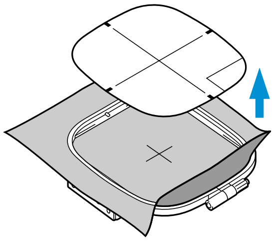
③ **布地のしるしと刺しゅうシートの基準線を合わせます。**



④ **外枠の上に布地を置き、布地を張ります。**

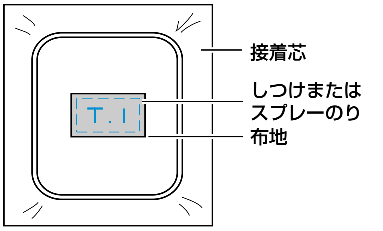
● 117ページを参照してください。

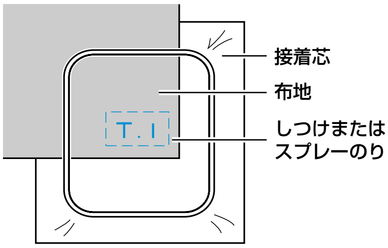
⑤ **刺しゅうシートを取り外します。**

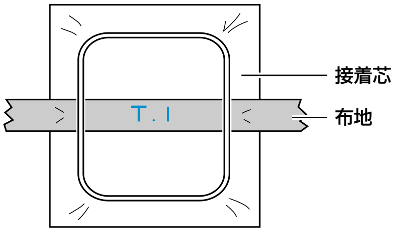


■ 刺しゅう枠に張れない布地に刺しゅうをするとき

刺しゅう枠に張ることができない小さい布地や、テープのような細いものに刺しゅうをする場合は、接着芯を土台にして枠に張ります。
接着芯は、ブラザー専用接着芯をおすすめします。







刺しゅうが終わったら、 接着芯をていねいに取り除きます。

刺しゅう枠を取り付ける

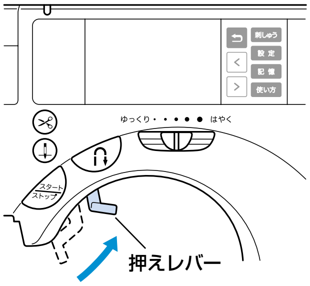
布地を張った刺しゅう枠を刺しゅう機に取り付けます。

刺しゅう枠の取り付け方

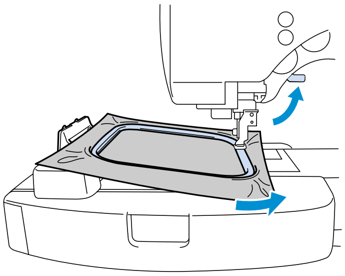
1 刺しゅう用の下糸をボビンに巻いて釜にセットします。

- 「下糸をセットしましょう」（→P.20）を参照してください。
- 下糸は、別売のブラザー刺しゅう専用下糸を使用してください。

2 押えレバーを上げます。



3 押えレバーをさらに上に上げながら、押えの下に刺しゅう枠を通します。

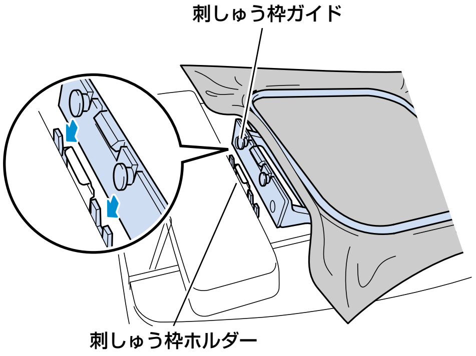


注意

- 指や刺しゅう枠が針に当たらないようにしてください。ケガをしたり、針が折れることがあります。

4 キャリッジの刺しゅう枠ホルダーに、刺しゅう枠ガイドを上からはめます。

刺しゅう枠ホルダーのミゾと刺しゅう枠ガイドのツメが合うようにし、「カチッ」と止まるまで差し込みます。



▷ 刺しゅう枠が取り付けられます。

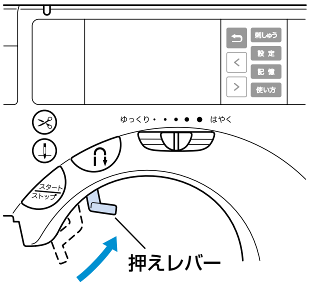
注意

- 刺しゅう枠は、刺しゅう枠ホルダーに正しくセットしてください。正しくセットされていないと、刺しゅう枠が押えに当たり、ケガの原因となります。

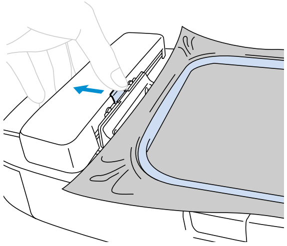
刺しゅう枠の取り外し方

1 ミシンが止まっていることを確認します。

2 押えレバーを上げます。

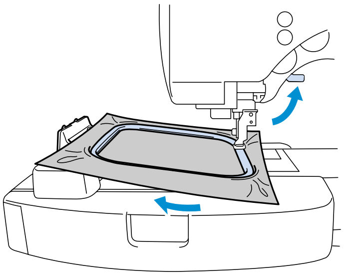


3 刺しゅう枠ホルダーの図の部分を左に押し、刺しゅう枠を持ち上げます。



▷ 刺しゅう枠が刺しゅう枠ホルダーから外れます。

4 押えレバーをさらに上に上げながら、押えの下に刺しゅう枠を通します。



▷ 刺しゅう枠が外れます。

⚠ 注意

● 指や刺しゅう枠が針に当たらないようにしてください。ケガをしたり、針が折れることがあります。

刺しゅう模様を選びましょう

刺しゅうする模様を選びます。

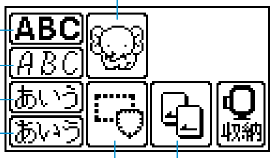
著作権について

ミシン本体や別売の刺しゅうカードに内蔵されている刺しゅうは、一般家庭用としてのみご利用いただけます。営利または業務目的で使用することは、著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

刺しゅう模様の種類

刺しゅう模様には、以下のグループがあります。

絵柄模様
アルファベット（太字体）
アルファベット（細字体）
かな（ゴシック体）
かな（明朝体）



枠模様
刺しゅうカード

■ アルファベット（太字体／細字体）

大文字／小文字／数字／記号（11 文字）／ヨーロッパ文字があります。連続して18文字まで指定できます。

● 「文字を選ぶ」（→ P.124）を参照してください。

■ かな（ゴシック体／明朝体）

ひらがな／カタカナ／漢字（38文字）／数字／記号（7 文字）があります。連続して 18 文字まで指定できます。

● 「文字を選ぶ」（→ P.124）を参照してください。

■ 絵柄模様

くだものや動物など、40の模様があります。液晶画面に表示される指示に従って、上糸を交換しながら模様を完成させます。

● 「絵柄模様を選ぶ」（→ P.126）を参照してください。

■ 枠模様

四角や円などの 10 種類の形と、12のステッチが組み合わせられます。

● 「枠模様を選ぶ」（→ P.127）を参照してください。

■ 刺しゅうカード

別売の刺しゅうカードの模様を選択するときに押します。

● 「刺しゅうカードを使うとき」（→P.128）を参照してください。

液晶画面の操作

表示パネルの操作キーを使いながら、液晶画面を操作します。
ここでは、刺しゅうをするときのキーの使い方を説明します。

■ 操作キー

↩　1 つ前の画面に戻ります。

< >　画面に表示されていない模様があるとき（ < または > が表示されているとき）に、前候補／次候補を表示します。

刺しゅう　刺しゅうのグループを選択する画面に戻ります。選択していた模様は取り消されます。

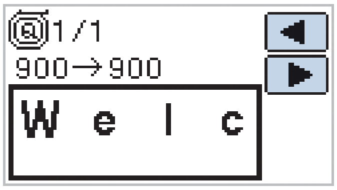
設 定　刺しゅう中に、糸番号／糸色名／針数のどれを表示するか設定します。

ブラザー刺しゅう糸：	ウルトラポスの色番号
カントリー糸：	カントリー糸の色番号
糸色名：	一般的な色の名称
針数：	針が進んだ数

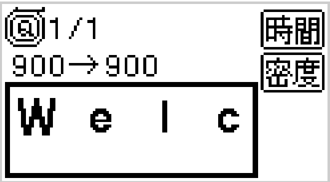
■ 液晶画面のキー

　自動糸切りが設定されていることを示します。1 色ぬい終わるごとに、自動的に糸が切れます。自動で糸を切りたくないときは、このキーを押して にします。

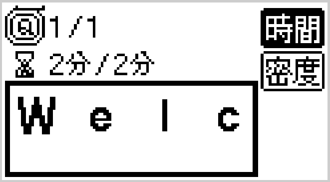
確認　指定した模様を確認するときに押します。◀ ▶ を押して表示を切り替えて、指定した文字列や色ごとのぬい方を確認します。



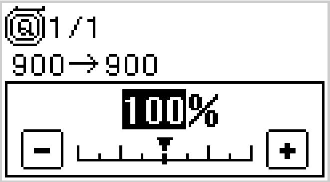
詳細　刺しゅうをぬい始める前に、刺しゅうが終わるまでの時間を確認したり、模様の密度を変えることができます。



時間　刺しゅうが終わるまでの時間と残りの時間が確認できます。

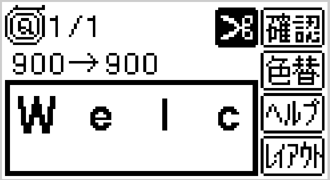


密度　文字と枠模様の密度を変えます。



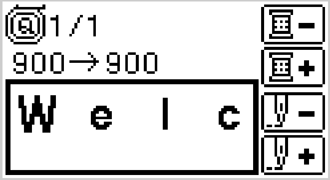
● 変更できない模様の場合は、密度 は表示されません

変更　確認 や文字刺しゅうの 色替 、ヘルプ ／ レイアウト のキーがあります。



[色替]　文字刺しゅうで１文字ずつ色を替えたいときに押します。1文字ぬい終わるごとにミシンが止まるので、上糸を替えながらぬいます。

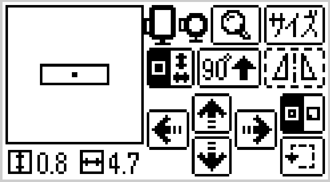
[ヘルプ]　糸色ごと、または１針（押し続けると９針→20針ずつ）ごとにぬい目を進めて、刺しゅうを開始する位置を変更します。特定の糸色だけぬわないときや、ミシンの電源を切ったあとに途中から再開したいときなどに使用します。



[糸－]	１色戻る	[糸＋]	１色進む
[針－]	１針戻る	[針＋]	１針進む

● 詳細は、「ぬい直したいとき」（→P.137）で説明します。

[レイアウト]　刺しゅう枠内の模様の位置を確認したり、大きさや角度を変更することができます。



● 詳細は、「レイアウトを調節する」（→P.134）で説明します。

お知らせ

● 液晶画面のキーが点線になっているとき（例：[鏡]）は、そのキーは選択できません。

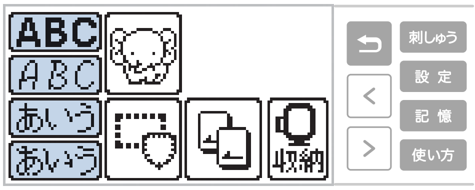
文字を選ぶ

刺しゅうする文字を指定します。同じグループ内で、連続して最大18文字まで組み合わせることができます。

お知らせ

● 「模様が枠からはみだします。」と表示されたときは、それ以上文字を入力することはできません。
● 異なるグループ（アルファベットとかな、ゴシック体と明朝体など）の文字を組み合わせることはできません。

1 文字の種類を選択します。

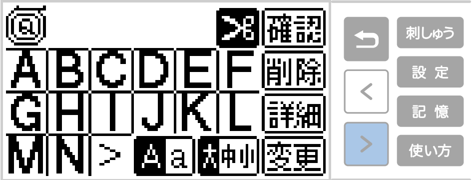


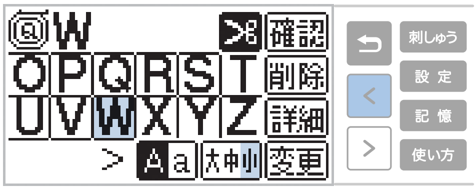
2 刺しゅうする文字を選択します。

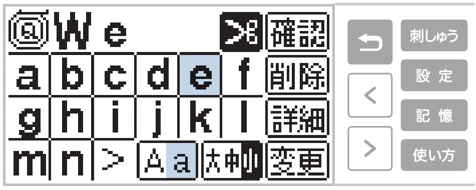
文字をまちがえて押したときは、[削除]を押します。

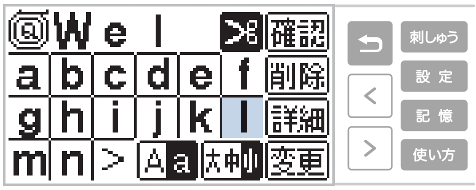
[例] Welcome

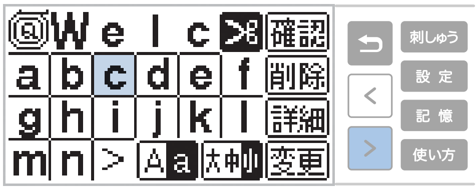
[Aa]	大文字／小文字切り替え
[大中小]	大／中／小サイズ切り替え

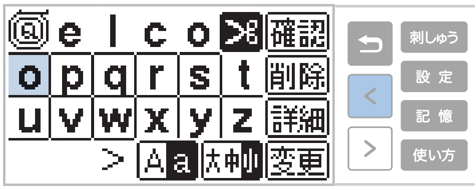


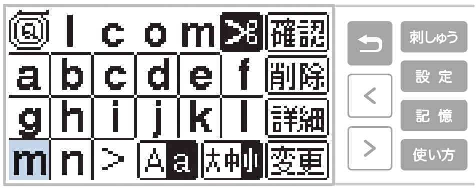


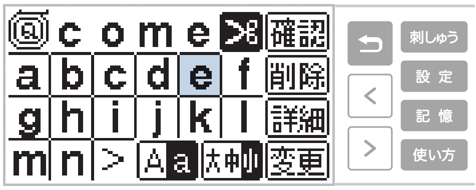












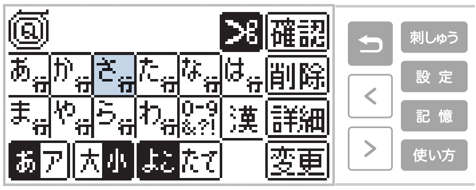
［例］ じゅんいち

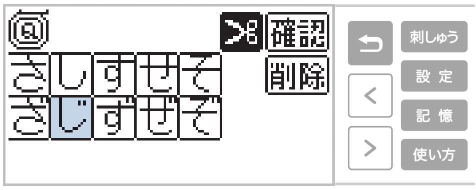
行を選んでから文字を選びます。

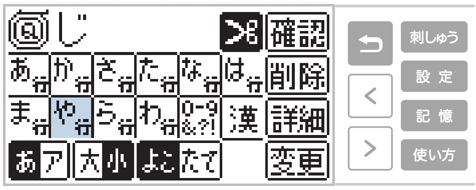
あア　ひらがな／カタカナ切り替え

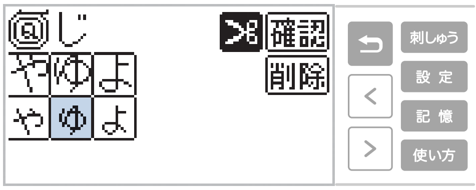
大小　大／小サイズ切り替え

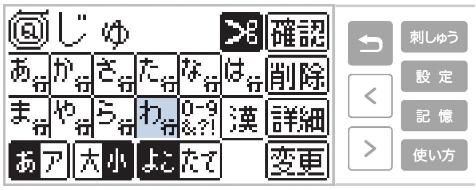
よこたて　横書き／縦書き切り替え

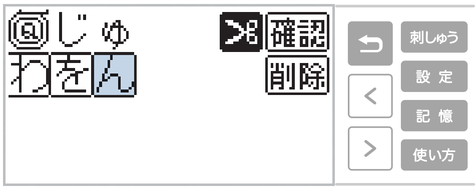


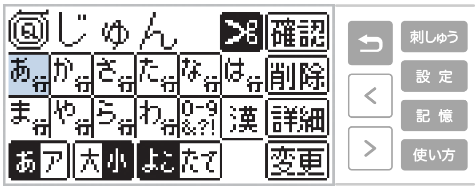


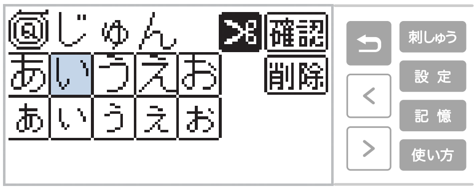


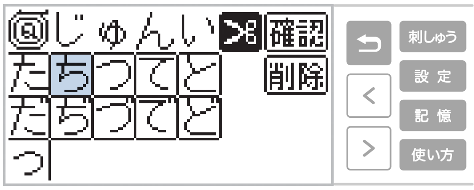




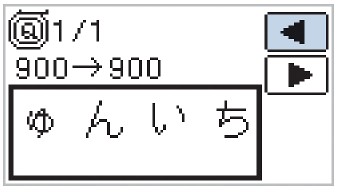








入力した文字を確認するときは、[確認]を押します。



お知らせ

- 入力した文字をミシンに記憶させることができます。「文字を記憶する」（→ P.135）を参照してください。

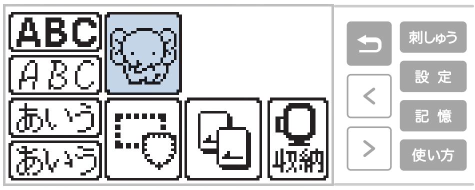
絵柄模様を選ぶ

くだものや動物など40種類の絵柄模様が内蔵されています。

お知らせ

- 模様のできあがり見本と使用する糸は、操作早見表の「刺しゅうサンプル」を参照してください。

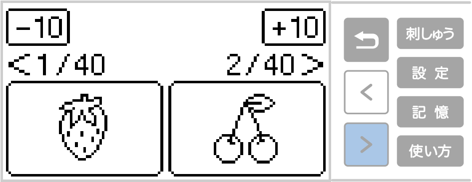
1 絵柄模様を押します。



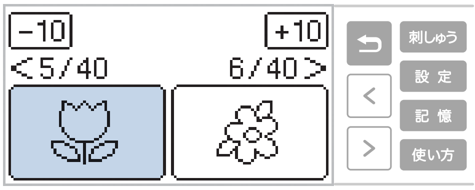
▷ 模様を選択する画面が表示されます。

2 模様を選びます。

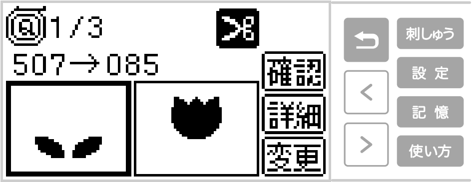
[<] [>] で画面を切り替えます。



- [−10] ／ [+10] を押すと、− 10番目／＋10番目の模様を表示できます。



▷ 模様が選択され、刺しゅうができるようになります。



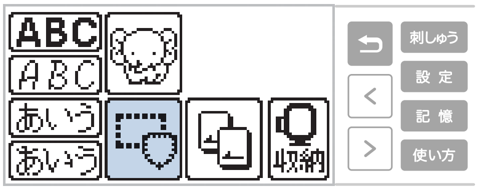
枠模様を選ぶ

四角や円などの10種類の形と、12のステッチが組み合わせられます。

お知らせ

- 枠模様の形とステッチは、操作早見表の「刺しゅうサンプル」を参照してください。

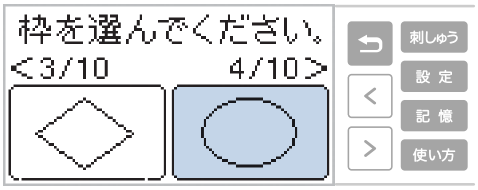
1 **枠模様を押します。**



▷ 枠の形を選択する画面が表示されます。

2 **枠の形を選びます。**

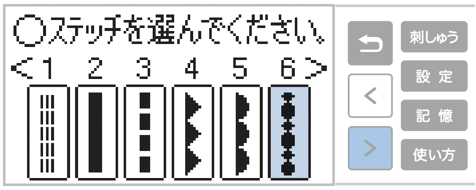
< > で画面を切り替えて、10 種類の中から選択します。



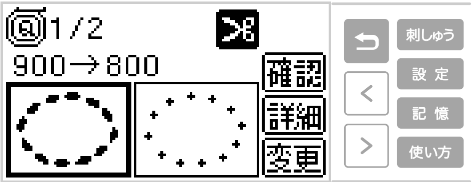
▷ ステッチを選択する画面が表示されます。

3 **ステッチを選びます。**

< > で画面を切り替えて、12 ステッチの中から選択します。

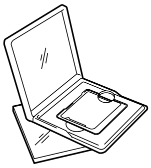


▷ ステッチが選択され、刺しゅうができるようになります。



刺しゅうカードを使うとき

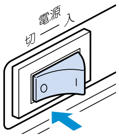
別売の刺しゅうカードを使用すると、本体に内蔵されている模様以外の刺しゅうができます。刺しゅうカードはテーマ別にいろいろなカードがあります。



お願い

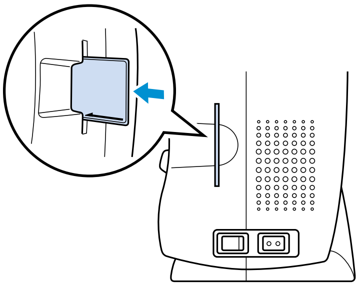
- 刺しゅうカードは、必ず電源スイッチを切って抜き差ししてください。
- 刺しゅうカードは、正しい方向で刺しゅうカード差し込み口に差し込んでください。
- 刺しゅうカード差し込み口には、刺しゅうカード以外のものは入れないでください。
- 刺しゅうカードを使用しないときは、収納ケースに入れて保管してください。
- 当社の刺しゅうカード以外のカードを使用すると、ミシンが誤作動するおそれがあります。必ず、当社の正規刺しゅうカードを使用してください。
- 海外で販売されている刺しゅうカードは使用できません。

1 電源を切ります。

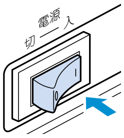


2 ミシン本体右側面の刺しゅうカード差し込み口に、刺しゅうカードを差し込みます。

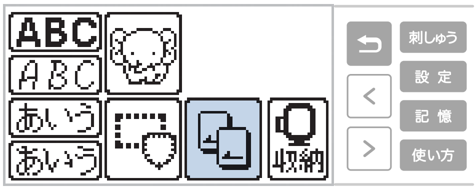
刺しゅうカードに書かれている矢印を手前にして、矢印の方向に差し込みます。



3 電源を入れます。



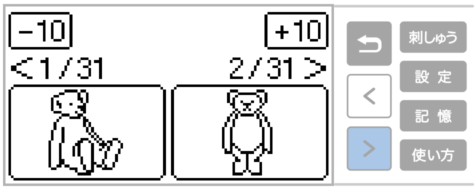
4 刺しゅうカードを押します。



▶ カードに記憶されている模様を選択する画面が表示されます。

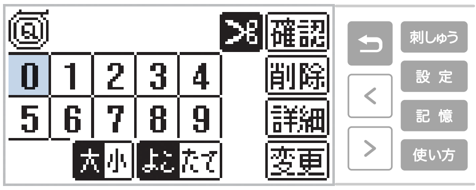
5 模様を選択します。

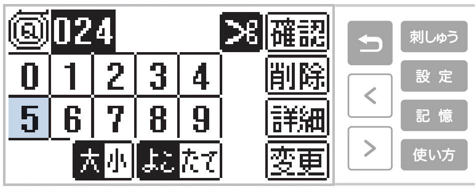
「絵柄模様を選ぶ」（→P.126）と同様に操作します。



□ **漢字カードの場合**

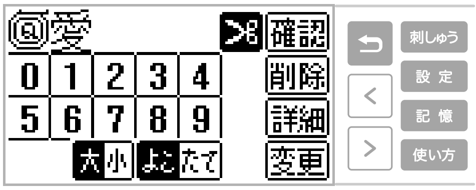
漢字カードに添付されている文字コード表を参照して、４桁の数字を入力します。





● 数字をまちがえたときは、削除 を押します。

▶ 入力した文字コードの漢字が表示されます。



● 文字を組み合わせるときは、続けて次の文字の文字コードを入力します。

刺しゅうをしてみましょう

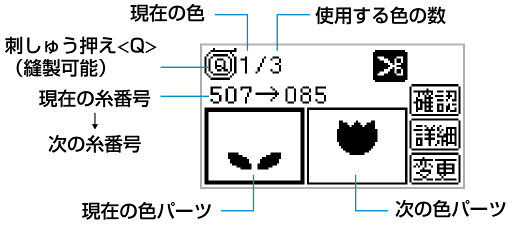
準備ができたら、刺しゅうをしましょう。ここでは、絵柄模様の手順を例に説明します。

絵柄模様を刺しゅうする

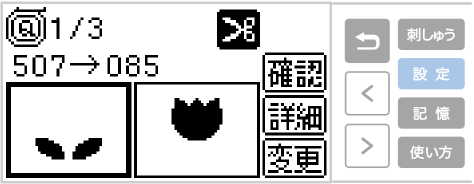
絵柄模様は、1 色ぬうごとに糸を替えながらぬいます。

1 液晶画面に表示された色の刺しゅう糸を用意し、糸カセットをセットします。

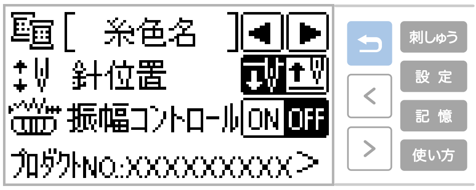
刺しゅうの縫製画面には次の内容が表示されます。

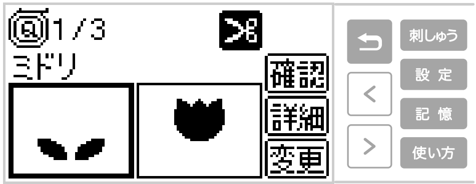


- 「糸こまを糸カセットにセットする」（→ P.27）を参照してください。
- 液晶画面には、ブラザー刺しゅう糸／カントリー糸の色番号と一般的な色名を表示することができます。表示を切り替えるときは、設 定 を押して表示を切り替えます。「液晶画面の操作」（→ P.123）を参照してください。



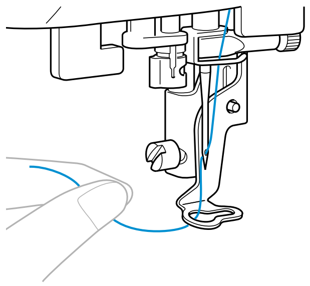
［例］糸色名を選択したとき





2 刺しゅう押えの穴に糸を通し、左手で軽く持ちます。

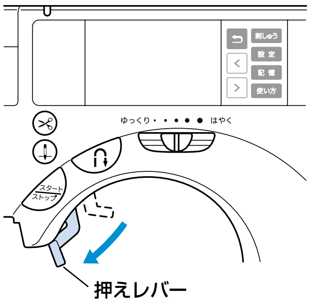
糸にたるみを持たせておきます。



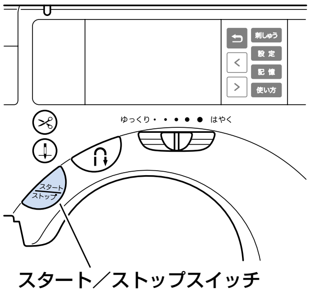
注意

- 糸を引っ張りすぎると針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- ぬっているときに、手や物がキャリッジに当たらないようにしてください。模様がくずれることがあります。

3 押えレバーを下げます。



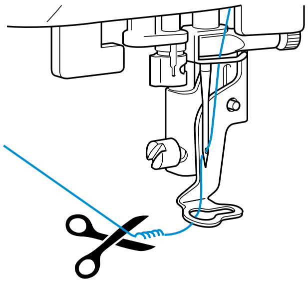
4 （スタート／ストップスイッチ）を押します。



5 5～6針ほど進んだら （スタート／ストップスイッチ）を押し、ミシンをいったん止めます。

6 ぬい始めの糸をはさみで切ります。

ぬい目のきわで糸を切ります。



- ぬい始めの糸が残ったままぬい続けると、模様の中にぬい込まれてしまうので、きれいに始末することができません。1色ごとに、ぬい始めの糸は始末してください。

7 もう一度 （スタート／ストップスイッチ）を押します。

▷ 刺しゅうが再開されます。

▷ １色目がぬい終わると、自動的に止めぬいと糸切りをして止まります。

8 次の色の刺しゅう糸をセットし、1 ～ 7 をくり返します。

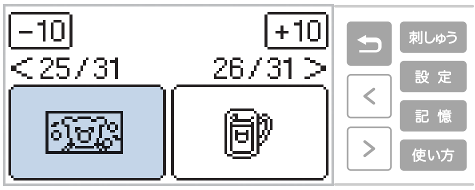
お知らせ

- ぬっている間に、もう1つの糸カセットに次の色の糸こまをセットしておくと便利です。

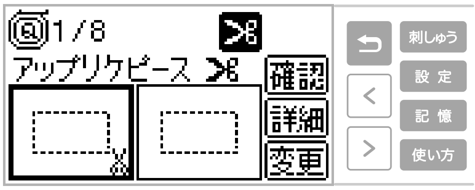
アップリケを刺しゅうする

刺しゅうカードの模様の中で「アップリケ」と表示されているものは、アップリケができます。土台になる布地とアップリケする布地（アップリケピース）を用意します。

1 アップリケ模様を選択します。

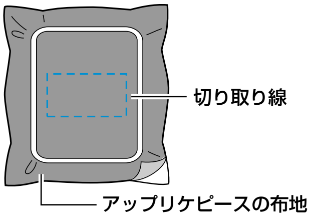


2 液晶画面に「アップリケピース」と表示されたら、アップリケピースの布地の裏に接着芯を貼り、刺しゅう枠に張ります。

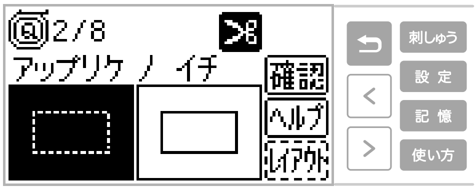


3 押えレバーを下げ、（スタート／ストップスイッチ）を押します。

▷ アップリケピースの切り取り位置がぬわれ、ミシンが止まります。

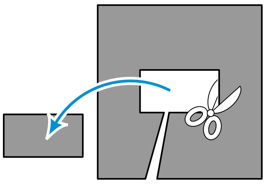


▷ 液晶画面に「アップリケノイチ」と表示されます。



4 布地を刺しゅう枠から外し、ぬい目にそって切り取ります。

ぬい目の上をていねいに切り、糸を取り除きます。



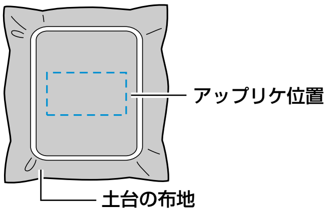
● ぬい目にそって切らないと、きれいに仕上がりません。

5 土台になる布地を刺しゅう枠に張ります。

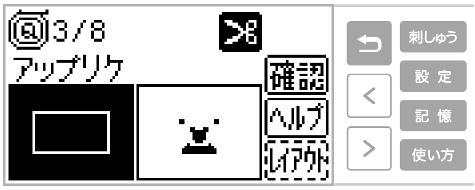
6 アップリケをぬう糸をセットします。

7 押えレバーを下げ、（スタート／ストップスイッチ）を押します。

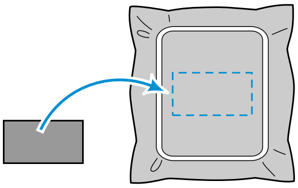
▷ アップリケの位置がぬわれ、ミシンが止まります。



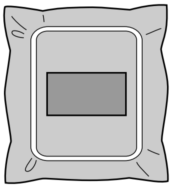
▷ 液晶画面に「アップリケ」と表示されます。



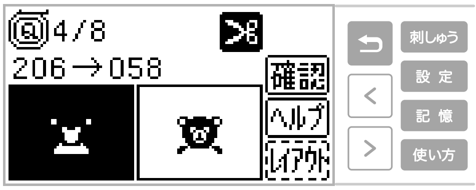
8 アップリケピースの裏にのりを薄く付け、アップリケ位置に貼り付けます。

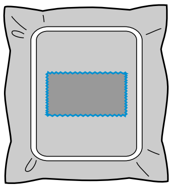


9 押えレバーを下げ、（スタート／ストップスイッチ）を押します。



10 液晶画面の指示に従って、糸色を交換しながらぬいます。





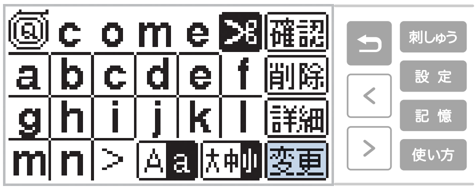
こんなとき

ここでは、模様の調整や色をまちがえてぬってしまったときの直し方、便利な機能を説明します。

レイアウトを調節する

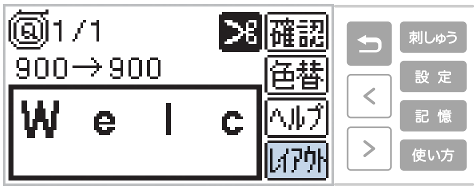
通常、模様は刺しゅう枠の中心に配置されます。
刺しゅうを始める前にレイアウトを確認し、位置や大きさを変更することができます。

1 刺しゅう模様を選択したら、[変更] を押します。



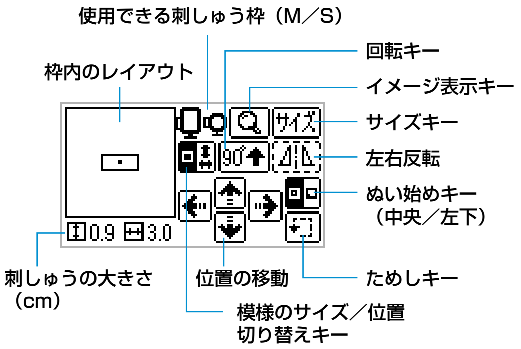
▷ 変更の画面が表示されます。

2 [レイアウト] を押します。



▷ レイアウトの画面が表示されます。

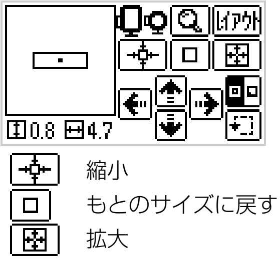
3 レイアウトの確認や調節をします。



使用できる刺しゅう枠のサイズを表します。小さい方のマークがうすく表示されているときは、刺しゅう枠［S］は使用できません。

［イメージ表示キー］模様のイメージを表示します。

［サイズキー］刺しゅうを拡大／縮小します。[レイアウト] を押すと、もとの画面に戻ります。

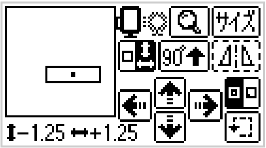


- 縮小
- もとのサイズに戻す
- 拡大

［模様のサイズ／位置切り替えキー］模様のサイズと位置の表示を切り替えます。のときは、左下に模様のサイズ（例：0.8 4.7）が表示されます。 のときは、移動した距離（例：-1.25 +1.25）が表示されます。

［位置の移動キー］刺しゅうの位置を上下左右に移動します。

● サイズや位置を変更したときは、左下の値をメモしておくと、途中で電源を入れ直したときでも同じサイズやレイアウトでぬうことができます。

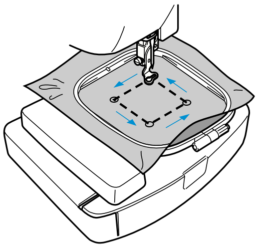


［回転キー］90°ずつ回転します。矢印の向いている方が模様の上側になります。

［左右反転キー］刺しゅうを左右に反転します。 になっているときは、使用できません。

［ぬい始めキー］ぬい始め位置を中央／左下に切り替えます。

［ためしキー］刺しゅう機のキャリッジが移動し、刺しゅうの範囲を確認できます。

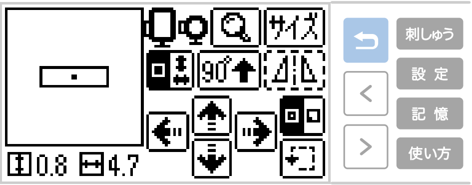


注意

● 刺しゅう枠が動いているときは、針を絶対に下げないでください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

● ぬう位置を移動して刺しゅうできる範囲を越えると、移動する前は使用できた枠が使用できなくなることがあります。使用できる枠の表示を確認してから使用してください。表示された枠以外の刺しゅう枠を使用すると枠が押えに当たり、ケガの原因となります。

4 （戻る）を押して、もとの画面に戻ります。



お知らせ

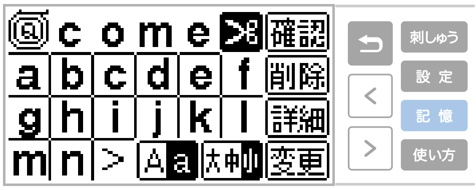
● 電源を切ると、レイアウトはもとの設定に戻ります。

文字を記憶する

入力した文字をミシンに記憶させることができます。記憶した文字は電源を切っても消えないので、いつでも呼び出して刺しゅうすることができます。名前などを記憶しておくと便利です。５組まで記憶できます。

■ 文字の記憶

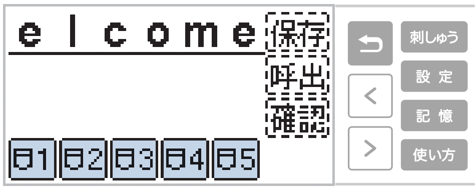
1 記憶する文字を入力したら、操作キーの 記 憶 を押します。



▷ 記憶する場所（ポケット）を選択する画面が表示されます。

2 １～５のポケットの中から記憶させるポケットを選択します。

のポケットは文字が記憶されていません。 のポケットは、すでに文字が記憶されています。



▷ 選択したポケットが反転表示されます。

3 保存 を押します。

▷「記憶中」と表示され、文字がポケットに記憶されます。

● 記憶中は、ミシンの電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

お知らせ

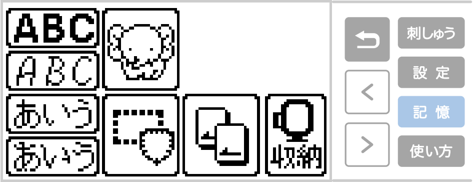
- 文字が記憶されているポケットに、新たに文字を記憶したり空白を記憶させると、記憶された文字は消えます。

■ 記憶してある文字の呼び出し

記憶されている文字を呼び出します。

① 操作キーの 記憶 を押します。

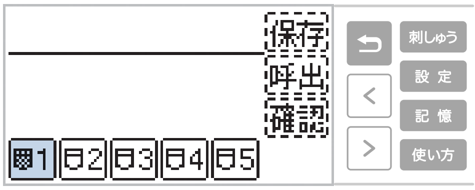
どの画面のときでも押すことができます。



▷ ポケットを選択する画面が表示されます。

② 1～5のポケットの中から呼び出す文字が記憶されているポケットを選択します。

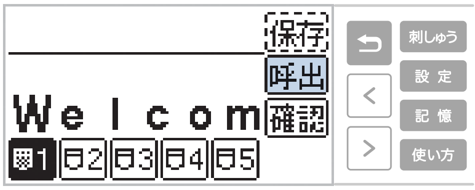
のポケットは文字が記憶されていません。 のポケットは、すでに文字が記憶されています。



▷ 選択したポケットが反転表示され、記憶されている文字が表示されます。

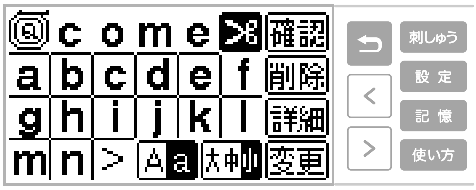
③ 内容を確認したら、呼出 を押します。

確認 を押すと、表示しきれていない文字の確認ができます。



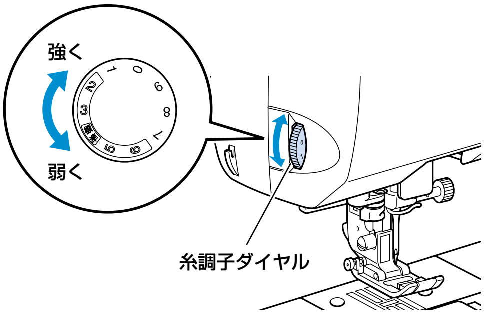
▷ 記憶されていた文字が呼び出されます。

▷ 文字を入力する画面になり、呼び出した文字が刺しゅうできるようになります。



糸調子を調節する

刺しゅうを失敗すると、糸をほどくことが難しく、布地をいためることがあります。刺しゅうの前に、同じ布地のはぎれを使用して糸調子などを確認してください。
ここでは、糸調子について説明します。上糸の調子は、本体左側面の糸調子ダイヤルで変更します。



■ 正しい糸調子

布地の裏に、上糸が少し見えるくらいが正しい糸調子です。

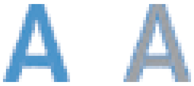


表　裏

■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている状態です。この場合は、上糸を弱くします。

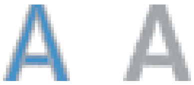


表　裏

■ 上糸が弱いとき

上糸がたるんでいる状態です。この場合は、上糸を強くします。

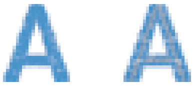


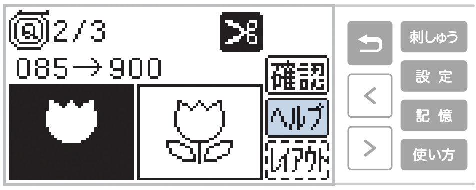
表　裏

ぬい直したいとき

セットする上糸の色をまちがえてぬってしまったときなどは、正しい色の糸でもう一度ぬい直します。

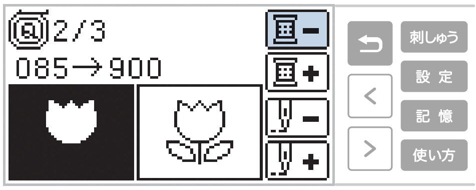
1 （スタート／ストップスイッチ）を押してミシンを止めます。

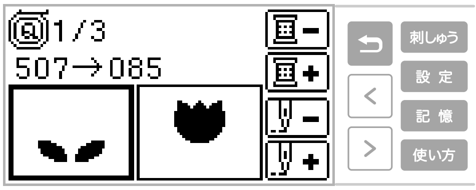
2 ヘルプ を押します。



▷ ヘルプの画面が表示されます。

3 （1色戻る）を押し、まちがえた色の先頭に戻します。





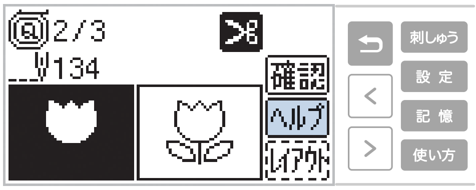
4 正しい色の上糸をセットしてぬいます。

途中で糸がなくなったとき

ぬっている途中で上糸または下糸がなくなったときは、ミシンが止まります。10針ほど前に戻して重ねてぬいます。

1 上糸または下糸をセットします。

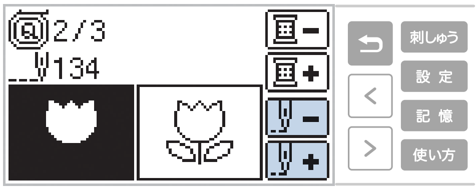
2 ヘルプ を押します。



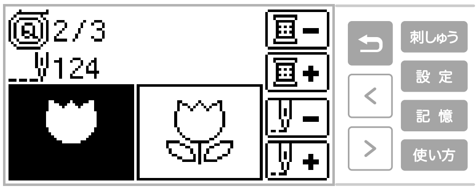
▷ ヘルプの画面が表示されます。

3 （1針戻る）を押して10針ほど前の針数まで戻します。

（1針進む）で 針数を進めます。



4 刺しゅうを再開します。



刺しゅうを中断するとき

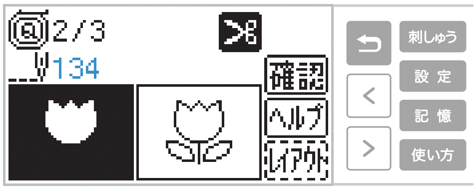
刺しゅうが完成する前に中断するときは電源を切る前に、現在の針数を確認しておきます。

お知らせ

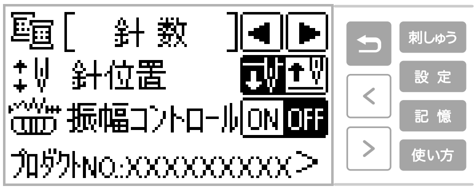
- 電源を切ると、刺しゅうのサイズやレイアウトはもとの設定に戻ります。

1 （スタート／ストップスイッチ）を押してミシンを止めます。

2 液晶画面で現在の針数を確認し、メモしておきます。

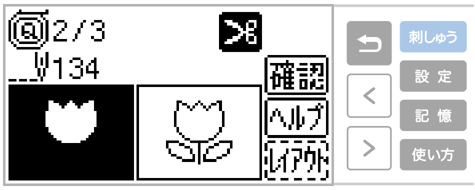


針数が表示されていないときは、設 定 を押して表示を切り替えます。



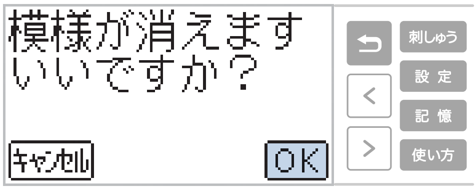
（戻る）を押すと、刺しゅう画面に戻ります。

3 刺しゅう を押します。



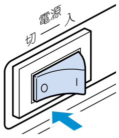
▷ 確認の画面が表示されます。

4 OK を押します。



▷ 選んでいた模様が取り消され、刺しゅうの初期画面に戻ります。

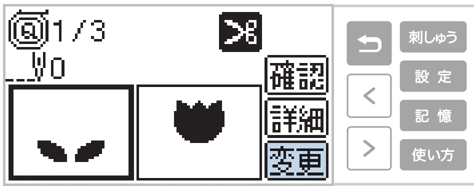
5 電源を切ります。



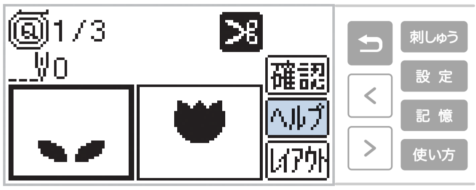
- ミシンを移動するときは、必ず刺しゅう機を外してください。

6 電源を入れ、模様を選択します。

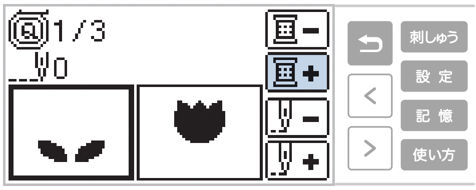
7 変更 を押します。



8 [ヘルプ] を押します。

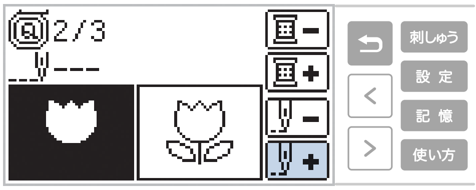


9 [1色進む] （1 色進む）を押して、ぬいたい色の先頭に移動します。

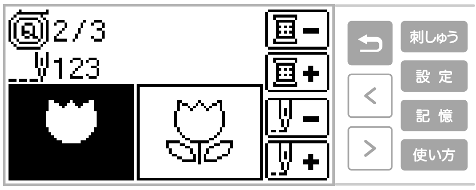


10 [1針進む] （1 針進む）を押して 針数を進めます。

[1針進む] を押し続けると、1 針→ 9 針→ 20 針ずつ進みます。



2 で確認した針数より10針ほど手前まで進めます。



11 刺しゅうを再開します。

5 付録

ここでは、ミシンのお手入れ方法と困ったときの対処方法などを紹介します。

お手入れ 142

困ったとき 144

仕様 154

索引 155

別売オプション 160

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

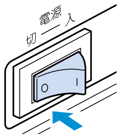
注意

- **必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。**

釜の掃除

針板の下にある釜を掃除します。
釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

1 **電源を切ります。**

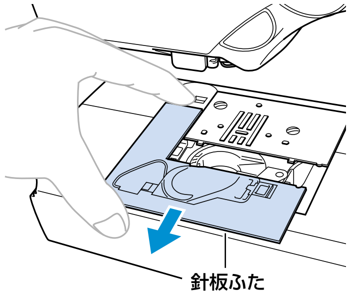


2 **本体右側面の電源ジャックから電源コードを抜きます。**

注意

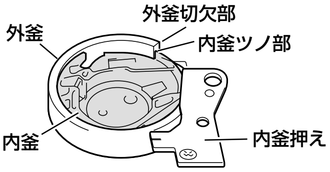
- **必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。**

3 **針板ふたの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。**



▷ 針板ふたが外れます。

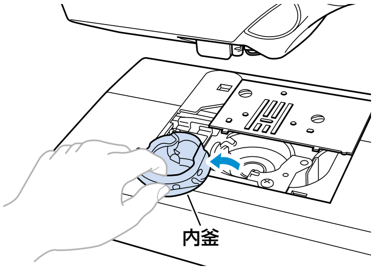
4 **プーリーを手前に回し、外釜の切欠部と内釜ツノ部を合わせます。**



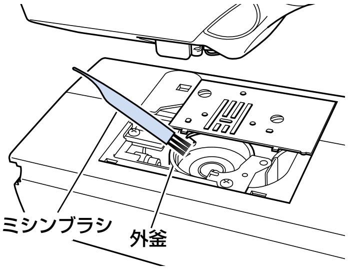
- プーリーは必ず手前に回してください。逆方向に回すと、故障の原因となります。
- 内釜押えは絶対に取り外さないでください。取り外すと、故障の原因になります。

5 内釜を取り出します。

内釜を奥側に押しながら上に持ち上げます。

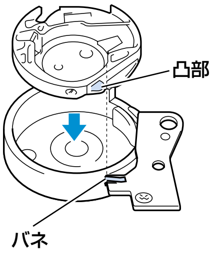


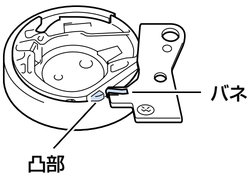
6 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

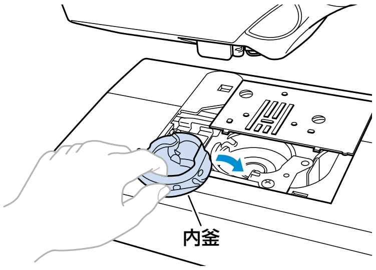


● 外釜や内釜に油をささないでください。

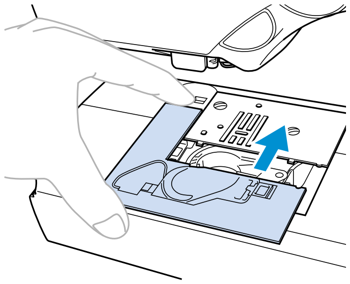
7 外釜切欠部が ④ と同じ位置にあることを確認し、内釜の凸部とバネが合うように内釜を取り付けます。







8 針板ふたのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



注意

● キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜は最寄りの販売店でお買い求めください。

● 内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P. 15
	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	P. 47
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	P. 46
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P. 47
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P. 35
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりしめます。	P. 36
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 35
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 39
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 52
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	–
	糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていない。	糸こまと糸こま押えを正しく取り付けます。	P. 27
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	–
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	–
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 20
上糸が切れる	糸こまが正しくセットされていない。 糸こま押えの大きさが合っていない。 針棒糸かけから糸が外れている。	上糸を正しくセットします。	P. 27
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	–

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P. 35
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P. 52
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 142
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 35
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)にご相談ください。	−
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 20
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	−
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P. 142
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 20
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 26
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P. 20
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 35
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P. 39
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 52
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 20
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P. 20 26
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P. 27
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 35
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 36
	薄地の場合に、ぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P. 54
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 52

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 27
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P. 35
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P. 36
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板ふたを外して釜を掃除します。	P. 142
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯や釜にほこりがたまっている。	釜を掃除します。	
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P. 27
	内釜にキズがある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P. 20
針穴に糸が通らない	針が上に上がっていない。 カセット挿入ランプが赤点灯している。	針上下スイッチを押し、カセット挿入ランプを緑点灯にします。	P. 30
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P. 36
模様がきれいにぬえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 39
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 52
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 142
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P. 89
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P. 54
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P. 39
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 142
手もとランプが点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
液晶画面に何も表示されない	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調節します。	P. 151

こんなとき	原因	対処	参照ページ
刺しゅう機が動かない	模様を選択していない。	模様を選択します。	P. 122
	刺しゅう機が正しくセットされていない。	刺しゅう機を正しくセットします。	P. 112
刺しゅう機が取り付けられない	フラップが付いたままになっている。	フラップを取り外します。	
	刺しゅう機差し込み口のふたが閉まっている。	刺しゅう機差し込み口のふたを手前に引いてから奥に押し込みます。	P. 113
刺しゅうがきれいにぬえない	刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない。布地の張り方がゆるい。	刺しゅう枠に布地を正しく張ります。	P. 117
	接着芯を貼っていない。	伸びる布地、薄い布地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ってください。	P. 116
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P. 142
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P. 136
	キャリッジや刺しゅう枠の周辺にものが置いてある。	刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠がものにぶつかると、模様がくずれます。刺しゅう枠が動く範囲には、ものを置かないようにしてください。	P. 113
	刺しゅう枠からはみ出した布地が、じゃまになっている。	刺しゅう枠からはみ出した布地がじゃまにならないように枠を張り替え、模様を回転させて刺しゅうをします。	–
	重たい衣類に刺しゅうしていて、テーブルから布地が垂れ下がっている。	布地がテーブルから垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。布地が垂れ下がらないようにしてください。	–
	布地がひっかかっている。はさみ込まれている。	ミシンを止めて、布地を正しい状態にします。	–
	刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を外したり取り付けたりしたときに、キャリッジを動かした。	途中でキャリッジを動かすと、模様くずれの原因となります。刺しゅう枠を外したり取り付けたりするときは、注意してください。	–

液晶画面のメッセージ表示

まちがった操作をしたときのメッセージや操作のアドバイスが、液晶画面に表示されます。表示された内容に従ってください。

お知らせ

- ミシンをご使用中に、画面表示に“F01”～“F07”が表示された場合、ミシンの故障が考えられますのでお買い上げの販売店または「ミシン119番」、お客様相談室にお問い合わせください。「アフターサービス」（→P.153）を参照してください。

表示	原因
説明書のエラーメッセージをみてください。	上糸が釜にからんだ、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止した（→P.144参照）
糸カセットをセットしてください。	糸カセットがセットされていない状態で、［スタート／ストップスイッチ］［返しぬいスイッチ］［糸切りスイッチ］のいずれかを押した
上糸が切れていないか確かめてください。	上糸が切れた 上糸が正しくセットされていない 上糸がなくなった
押えレバーを下げてください。	押えが上がった状態で、［スタート／ストップスイッチ］［返しぬいスイッチ］［糸切りスイッチ］のいずれかを押した
この画面では縫えません。戻るキーで戻ってください。	縫製画面以外で、［スタート／ストップスイッチ］または［返しぬいスイッチ］を押した
下糸巻き中	下糸巻き装置で下糸巻き動作中
下糸巻き軸を左に戻してください。	下糸巻き軸を右にした状態で、［返しぬいスイッチ］［針上下スイッチ］［糸切りスイッチ］のいずれかを押した
フットコントローラーをはずしてください。	フットコントローラーが取り付けられた状態で、［スタート／ストップスイッチ］を押した
フットコントローラーは使えません。	刺しゅうのときに、フットコントローラーを使おうとした

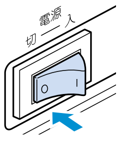
表示	原因
ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニング以外の模様を選択して［スタート／ストップスイッチ］または［返しぬいスイッチ］を押した
ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニングを選択して［スタート／ストップスイッチ］を押した
振幅コントロールをOFFしてください。	振り幅コントロールがONの状態で、フットコントローラーを接続せずに［スタート／ストップスイッチ］を押した 振り幅コントロールが使用できない模様を選択した
刺しゅうキャリッジが動きます。 注意してください。	刺しゅう機を取り付けたとき
模様が消えます。 いいですか？	刺しゅう模様を選択した状態で、［戻る］または［刺しゅう］を押した
模様を選んでください。	模様を選択していない状態で、［スタート／ストップスイッチ］または［返しぬいスイッチ］を押した
刺しゅう機がついていない時には使えません。	刺しゅう機が取り付けられていないときに、［刺しゅう］または［記憶］を押した
刺しゅう機がついている時には使えません。	刺しゅう機が取り付けられているときに、使用できない機能を使おうとした
針が下の時にはこのスイッチが使えません。	針が下がった状態で、刺しゅう模様の選択やレイアウトの変更をしようとした
模様が枠からはみだします。	枠に入りきらない文字数を設定しようとした
これ以上組み合わせできません。	19文字以上の文字を組み合わせようとした

表示	原因
下糸が少なくなりました。 下糸を巻いてください。	下糸がなくなった 下糸が残り少なくなった
この模様は使えません。	このミシンで使用できない模様を選択しようとした
針上下スイッチで針を上に上げてください。	針が下がっているときにミシンが動く動作をしようとした
記憶中	文字模様の記憶中
所要時間を計算中	刺しゅうをぬい終わる時間を計算しているとき
お待ちください。	レイアウトのイメージ表示を展開しているとき
カードが入っていないので、電源を切って入れてください。	刺しゅうカードがセットされていないときに、液晶画面の［カード］を押した
カードの模様が記憶されています。	模様カードをセットしていないときに、記憶されたカードの模様を呼び出そうとした
このカードは使用できません。	本製品で使用できない模様カードをセットして、カードの模様を選択しようとした
この模様は他のカードに入っています。	模様カードがセットされているときに、カードに記憶されていない模様を呼び出そうとした

液晶画面に何も表示されないとき

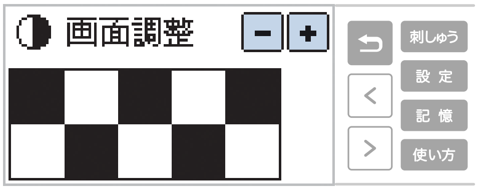
電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎるときです。その場合は、以下の操作をしてください。

1 いったん電源を切ります。



2 表示パネルのいずれかのキーを押しながら、電源を入れます。

3 − または ＋ を押します。



4 いったん電源を切ってから、もう一度電源を入れ直します。

電子音

キーを操作しているときや、まちがった操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ まちがった操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

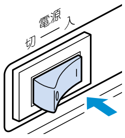
■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と４秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。OK ボタンを押すと、操作可能な状態に戻ります。
必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

電子音を消したいとき

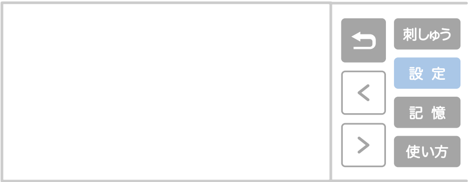
購入時は、表示パネルのキーを操作すると音が鳴るように設定されています。この音を鳴らないように変更できます。

1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

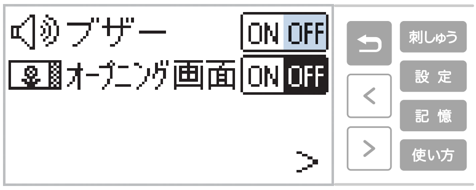
2 表示パネルの 設 定 を押します。



▷ 設定画面が表示されます。

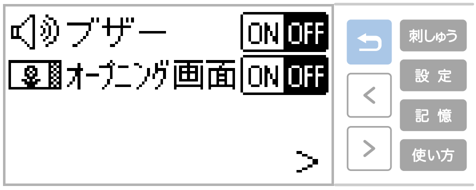
3 > （次ページ）を押します。

4 ブザーの OFF を押します。



▷ 電子音が鳴らないように設定されます。

5 （戻る）を押します。



▷ もとの画面に戻ります。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」(フリーダイヤル 0120-340-233)、お客様相談室にお問い合わせください。

■ 保証書について

ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。(保証書は外箱に付いています。)
また無料修理保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン 119 番」、お客様相談室にお問い合わせください。

■ ミシン 119 番

ミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けは「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)までお問い合わせください。

■ お客様相談室

お客様相談室	郵便番号	住所	電話番号
本社	467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	(052) 824-3125
北海道	060-0063	北海道札幌市中央区南三条西3-2-2	(011) 261-6631
東北	980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-3-10	(022) 227-8877
東京	104-0031	東京都中央区京橋3-3-8	(03) 3281-4204
中部	467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	(052) 824-3193
関西	550-0012	大阪府大阪市西区立売堀4-4-2	(06) 6531-4670
中四国	730-0021	広島県広島市中区胡町4-28	(082) 240-3762
九州	812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-3-12	(092) 431-6566

お願い

- お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン 119 番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 最寄りのお客様相談室におかけになった電話は、本社お客様相談室へ転送されます。転送した電話料金は、弊社が負担いたします。
- FAX でのお問い合わせは、本社お客様相談室 (052) 824-3031 でお受けいたします。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

仕様

本体仕様

項目		仕様
本体寸法		幅395mm×高さ272mm×奥行144mm
製品質量		5.3kg（刺しゅう機付き：7.0kg）
液晶画面		バックライト拡散式タッチパネル
使用ミシン針		家庭用ミシン針HA×1
ランプ		白色発光ダイオード
ぬい速度		毎分70～710針
搭載模様		実用：67
最大振り幅		7.0mm
最大送り幅		5.0mm
刺しゅう	刺しゅう範囲	100mm×100mm
	刺しゅう速度	毎分最大400針
	最少ピッチ	0.1mm
	搭載模様	絵柄模様　：40 枠模様　　：10種、12ステッチ 英数　　　：2書体 かな・カナ：2書体
	組み合わせ	文字：18
	記憶	文字5組み

さくいん

P

PL 8

Q

Q&A 144

ア

アーム .... 表紙B
アイレット 96
あき止まり 92
アップリケ 84, 132
厚地をぬう 59
アドバイス 148
アフターサービス 153
綾巻き 26
アルファベット 124
安全にお使いいただくために 8

イ

位置 134
糸色 130
糸色名 123
糸カセット .... 表紙A, 26, 27
糸切り .... 表紙B, 51, 56
糸切りスイッチ .... 表紙D, 51
糸こま押え 1, 21, 26
糸こまネット 2, 22
糸調子 52, 136
糸調子ダイヤル .... 表紙B
糸通し装置 30
糸をまちがえてぬったとき 137
イメージ表示 134
色替 124

ウ

ウィングニードル 102, 160
ウォーキングフット .... 表紙F, 87
受け座 22
薄地をぬう 59
ウルトラポス 123, 160
上糸 26
上糸調子 52

エ

絵柄模様 126
液晶画面 .... 表紙E, 16, 123, 151
液晶画面の操作 123
エラーメッセージ 148

オ

お客様相談室 153
送り歯 .... 表紙C
押え 2
押え固定ピン 2, 59
押えの交換 39
押えホルダー 40, 41
押えレバー .... 表紙D
お手入れ 142
オプション 160

カ

カーブをぬう 58
回転 134
ガイド付押え .... 表紙F, 60
ガイドミゾ 22
返しぬい 49, 55
返しぬいスイッチ .... 表紙D, 49
確認 123
飾りぬい 97
カセットカバー .... 表紙B, 27
カセット挿入口 .... 表紙B, 31
カセット挿入ランプ .... 表紙D, 30
カセット取り出しレバー .... 表紙B, 28
片押え 2, 78
片返し 79
カッター 22, 25
角をぬう 58
かな 124
釜 .... 表紙C, 24, 142
画面の明るさ 151
換気口 .... 表紙C
漢字カード 129
かんどめ 92
カントリー糸 123, 160

キ

記憶 135
記憶キー .... 表紙 E
基線 67
ギャザー 99
キャリッジ 113
曲線をぬう 58
キルター .... 表紙 F，88
キルティング 87
キルト押え .... 表紙 F，89

ク

クレイジーキルト 86

ケ

ケース .... 表紙 A

コ

ゴムテープ付け 83
コンセント 15

サ

サイズ 134
サイドカッター .... 表紙 F
サイドカッター押え 64
サテンぬい 90
左右反転 .... 57，134
三重ぬい 92
サンフェロン 1

シ

シェルタック 100
時間 123
ジグザグ押え .... 2，63，66，85，92，98
ジグザグの振り幅 53
刺しゅう 106
刺しゅう糸 .... 106，160
刺しゅう押え .... 2，89，109
刺しゅうカード .... 128，160
刺しゅうカード差し込み口 .... 表紙 C，128
刺しゅう機 112
刺しゅうキー .... 表紙 E
刺しゅう機差し込み口 .... 表紙 B，113
刺しゅうシート .... 表紙 A，118
刺しゅうの登録 135
刺しゅう範囲 135
刺しゅう模様 122
刺しゅう用接着芯 .... 106，116
刺しゅう枠 .... 表紙 A，117，120，160
刺しゅうを中断するとき 138
下糸 20
下糸たて棒 .... 表紙 B，20
下糸巻き案内 .... 表紙 B，22
下糸巻きカバー .... 表紙 B，20
下糸巻き軸バネ 21
下糸巻き装置 .... 表紙 B
下糸を引き出す 33
しつけぬい 66
自動糸切り 56
自動返しぬい 55
自動止めぬい 55
地ぬい 66
次ページキー .... 表紙 E
仕様 154
伸縮ぬい 82

ス

水溶性シート .... 106，116
スカラップ 99
すそ上げ 68
スタート 47
スタート／ストップスイッチ .... 表紙 D，47，131
ストッパー 37
スピードコントロールレバー .. 表紙 D，22，47，90
スモッキング 99
スライド脚 .... 表紙 B，42

セ

接着芯 .... 106，116，160
設定キー .... 表紙 E
設定の変更 17
前ページキー .... 表紙 E
前面 .... 表紙 B

ソ

操作音 151
操作スイッチ .... 表紙 D
操作早見表 1
掃除 142
速度 47
側面 .... 表紙 C
そで付け 92

タ

ダーニング 94
たち目かがり 62
たち目かがり押え .... 2，62
ためし 135
試しぬい 58

チ

チーズ巻き 26
直線ぬい 66
著作権 122

ツ

使い方 18
使い方キー .... 表紙 E
つき合わせ 77, 101
つくろいぬい 94
筒もの 42

テ

手で針に糸を通す 32
電源 14
電源コード .... 表紙 A, 表紙 C, 15
電源コンセント 15
電源スイッチ .... 表紙 C, 15
電子音 151

ト

特長 3
途中で糸がなくなったとき 137
止めぬい 49, 50, 55
止めネジ 37
ドライバー 1, 37
トラブル 144
取扱説明書 1
取扱説明 DVD 1
取り外しレバー 115
ドロップレバー .... 表紙 C, 75, 89
ドロンワーク 103

ナ

長さ 54

ヌ

ぬい糸 2
ぬい方 44
ぬいしろの始末 62
ぬいしろの幅をそろえる 60
ぬい始め位置 134
ぬい目の長さ 54
布地のセット 46
布地ブロード 1

ノ

伸びる布地 59, 82

ハ

背面 .... 表紙 C
はさみ 2
パッチワーク 86
はとめ穴 96
はとめ穴パンチ 1, 73, 96
幅 53
針板 .... 表紙 C, 60
針板ふた .... 表紙 C, 24, 142
針位置 53, 67
張りが強い糸 22
針交換ツール .... 表紙 A, 37
針上下スイッチ .... 表紙 D
針数 123, 138
針の交換 36
針の種類 35
針棒糸かけ .... 表紙 C
反転 57, 134
ハンドル .... 表紙 C

ヒ

ピーシング 86
表示パネル .... 表紙 E

フ

プーリー .... 表紙 C, 46
ファゴティング 98
ファスナー付け 77
付属品 .... 表紙 A
付属品ケース .... 表紙 A
フットコントローラー .... 表紙 F, 47
フットコントローラージャック .... 表紙 C
ブラザー刺しゅう糸 123
フラップ .... 表紙 B, 15, 42
フリーアーム 42
フリーモーションキルト 89
振り幅 53
振り幅コントロール 17, 90
プログラム糸切り 56

ヘ

ヘアルーム 102
別売オプション 160
ヘルプ 124

ホ

方向を変える 58
補強 92
ポケット 135
ポケット口 92
補助糸たて棒 .... 表紙 A，34
保証書 .... 1，153
ボタン穴かがり 70
ボタン穴かがり押え .... 2，71，92，94
ボタン穴かがりレバー .... 表紙 C，72，93，95
ボタン付け 75
ボタン付け押え .... 2，75
ボタンホール 70
ほつれ止め .... 49，62
ボビン .... 1，20
ボビン受け座 22
ボビン収納部 .... 表紙 B
本体 .... 表紙 A

マ

まつりぬい 68
まつりぬい押え .... 2，68

ミ

ミシン 119 番 153
ミシンの使い方 18
ミシン針 .... 2，35
ミシンブラシ .... 1，143
密度 123

メ

名称 .... 表紙 B
メッセージ 148

モ

文字刺しゅう 124
文字の記憶 135
戻るキー .... 表紙 E
模様ぬい押え .... 2，96
模様の位置 134
模様の種類 122
模様の選択 45
模様の幅 53

ラ

ランプ .... 表紙 D，30

リ

リッパー .... 2，73

レ

レイアウトの調節 134

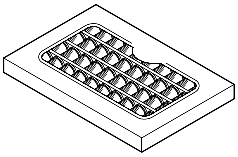
ワ

枠模様 127

別売オプション

オプション品として、以下の製品を用意しています。

刺しゅう糸



■ **ウルトラポス 39 色セット**
（モデル：ETS39）

■ **ウルトラポス 23 色セット**
（モデル：ETS23）

■ **ウルトラポス 22 色セット**
（モデル：ETS22）

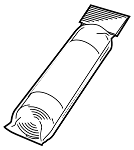
■ **カントリー糸 40 色セット**
（モデル：CTS40）

■ **カントリー糸 21 色セット**
（モデル：CTS21）

■ **刺しゅう用下糸 500m 巻き**
（モデル：EBT01）

■ **刺しゅう用下糸 1300m 巻き**
（モデル：EBT02）

接着芯

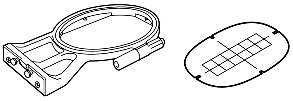


■ **刺しゅう用接着芯 L**
刺しゅうする布地の裏にアイロンで貼ります。
（部品コード：X81175-001）

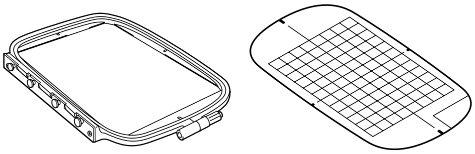
■ **刺しゅう用水溶性シート L**
薄手の布地やタオルなどの起毛した布地に刺しゅうをするときに使用します。洗濯するとシートが溶けます。（部品コード：X81267-001）

その他の刺しゅう用品

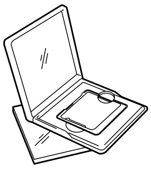
■ **刺しゅう枠［S］**
小さい布地を張るときに使用します。縦 2 ×横 6cm までの刺しゅうができます。（モデル：EF61）



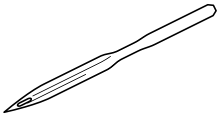
■ **刺しゅう枠［L］**
縦 17 ×横 10cm までの範囲で刺しゅうができます。布地を張り替えずに複数の模様を刺しゅうするときに使用します。（モデル：EF71）



■ **刺しゅうカード**
刺しゅう模様が内蔵されているカードです。本体の刺しゅうカード差し込み口に差し込んで使用します。テーマ別にいろいろなカードがあります。



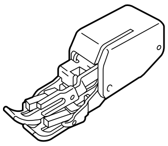
■ **ウィングニードル**
針穴を大きく開けてレース風の飾り模様をぬうときに使用します。（モデル：WN001）



押え

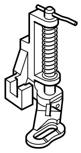
■ ウォーキングフット

ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうときに使用します。（モデル：F033）



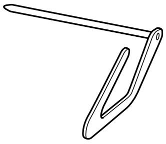
■ キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。（モデル：F005N）



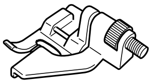
■ キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。（モデル：F016N）



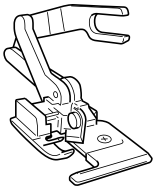
■ ガイド付まつりぬい押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます。（モデル：F017N）



■ サイドカッター

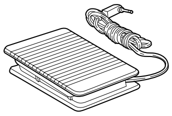
布地の端を切りながら、たち目かがりなどをするときに使用します。（モデル：F054）



その他

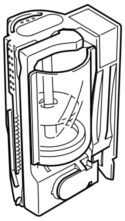
■ フットコントローラー

ミシンを足で操作するときに使用します。（モデル：FC31091）



■ 糸カセット

糸カセットと糸こま押え［オレンジ色］のセットです。よく使う色の刺しゅう糸用にそろえておくと、上糸を交換するときに便利です。（モデル：TC001）



お知らせ

- オプション品・部品については、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にお問い合わせください。

アフターサービス

●ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
●無料修理保証期間は、お買い上げ日より3年間です。詳しくは保証書をご覧ください。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室にご相談ください。
●当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
●アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室へお問い合わせください。

ミシン119番　フリーダイヤル0120-340-233

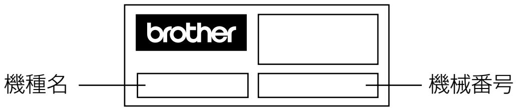
●ブラザーミシンの使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」までお問い合わせください。
●「ミシン119番」ではミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けを行っております。

お客様相談室

ブラザー販売株式会社 お客様相談室

本　社	〒467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL: (052)824-3125
北海道	〒060-0063	北海道札幌市中央区南三条西3-2-2	TEL: (011)261-6631
東　北	〒980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-3-10	TEL: (022)227-8877
東　京	〒104-0031	東京都中央区京橋3-3-8	TEL: (03)3281-4204
中　部	〒467-8577	愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1	TEL: (052)824-3193
関　西	〒550-0012	大阪府大阪市西区立売堀4-4-2	TEL: (06)6531-4670
中四国	〒730-0021	広島県広島市中区胡町4-28	TEL: (082)240-3762
九　州	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-3-12	TEL: (092)431-6566

● 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



● お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
● ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン119番」、お客様相談室にご連絡ください。
● 最寄りのお客様相談室におかけになった電話は、本社お客様相談室へ転送されます。転送した電話料金は、弊社が負担いたします。
● FAXでのお問い合わせは、本社お客様相談室 (052) 824-3031 でお受けいたします。
● 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

●ブラザー工業のホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
（URL）http://www.brother.co.jp

ブラザー工業株式会社

取扱店

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

114-S17, S16
XD1185-021
Printed in China